

葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会次第

日時：令和7年12月19日(金) 15:00

場所：新庄健康福祉センター 3階 会議室

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 案 件

(1) 葛城市第二次総合計画及び第2期葛城市総合戦略に係る

達成状況報告について

【資料1】

(2) 葛城市人口ビジョン素案について

【資料2】

(3) 葛城市第三次総合計画に係るアンケート調査結果について 【資料3】

(4) 葛城市第三次総合計画及び第3期葛城市総合戦略構成案について

【資料4】

(5) 市政フォーラム資料について

【資料5】

(6) その他

4. 閉 会

葛城市第二次総合計画及び第2期葛城市総合戦略

指標評価について

1. 評価について

葛城市第三次総合計画（以下、「第三次計画」という。）と第3期葛城市総合戦略（以下、「第3期戦略」という。）を策定するにあたり、現行計画の葛城市第二次総合計画（以下、「第二次計画」という。）の各分野の数値目標と、第2期葛城市総合戦略（以下、「第2期戦略」という。）の重要業績評価指標について達成度を評価し、現状を踏まえた上で第三次計画・第3期戦略の方向性の検討や施策の見直し等を行うため、とりまとめを行いました。

2. 評価の方法

各指標評価にあたっては、達成度を用いて次の3つの評価基準で点数化しています。

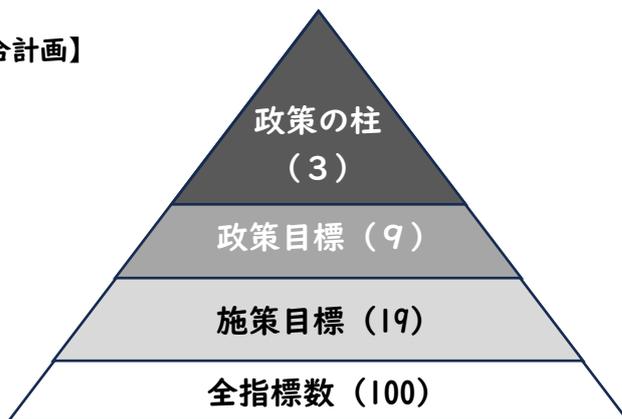
※達成度：(実績値－現状値)を(目標値－現状値)で除したもの

※「達成度 50%未満=25点」「達成度 50%以上、100%未満=75点」「達成度 100%以上=125点」



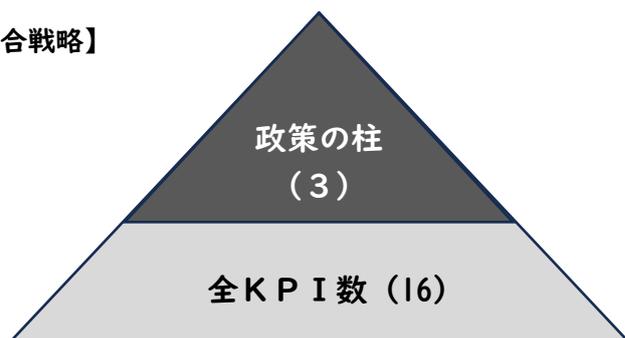
さらに、施策の柱や各目標といった、より上位の枠組みで平均値を算出し、計画全体の進捗評価を行いました。（※平均値が高いほど良い評価となる）

【総合計画】



計画全体	評価平均点	68.8点
政策の柱 1	評価平均点	76.7点
政策の柱 2	評価平均点	54.7点
政策の柱 3	評価平均点	69.0点
【参考】推進視点		125.0点

【総合戦略】



計画全体	評価平均点	75.0点
政策の柱 1	評価平均点	75.0点
政策の柱 2	評価平均点	58.3点
政策の柱 3	評価平均点	91.7点

【参考】 評価を行った第二次計画及び第2期戦略の施策体系は次の通り。

【第二次計画】

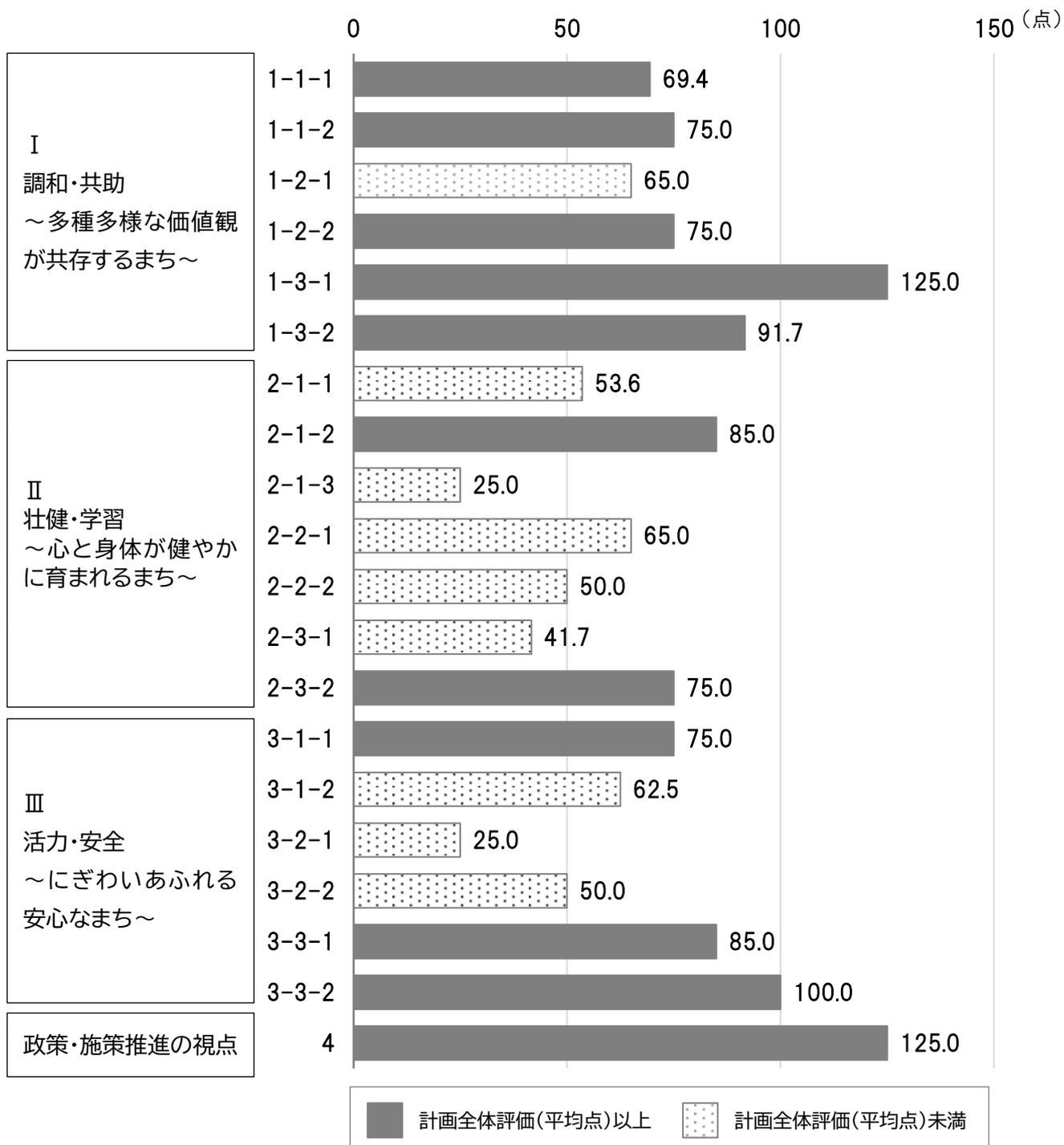
政策の柱	政策目標	施策目標	指標数
調和・共助 ～多種多様な価値観 が共存するまち～	市民みんなが活躍できる社会の構築	2	15
	豊かな自然の保全・継承	2	10
	歴史・文化と調和的な地域づくり	2	5
壮健・学習 ～心と身体が健やか に育まれるまち～	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり	3	16
	教育・学習による未来の市民づくり	2	13
	生涯学習による豊かな心の涵養	2	9
活力・安全 ～にぎわいあふれる 安心なまち～	住みよいまちを支える社会基盤の実現	2	9
	産業振興による地域の稼ぐ力の向上	2	9
	安心・安全な生活環境の整備	2	9
各分野の政策・施策を推進するための視点		-	5

【第2期戦略】

政策の柱	アクションプラン
子育てに係る各種支援・取組を通じた人口増加(移住支援)	こども・若者サポートセンター等による、相談窓口の充実
	住民の自助共助組織の充実による、母親が仕事を継続するための子育て支援
	魅力的な教育環境の整備
	大阪圏・東京圏からのUIJターン促進策
観光業を基幹とした産業の振興(集客支援)	近隣市町村との連携による相撲発祥のPR
	市内観光地周遊ルートを活用した集客支援
	国際交流を通じた文化発信
	2つの道の駅を活用した農商工業の振興
地域コミュニティの強化を通じた地域の紐帯の強化(定住支援)	地域活動の活性化による地域力の向上
	地域包括ケアシステムの推進
	マイキープラットフォームと連携した、公共施設等利用者の利便性向上
	地域公共交通の充実

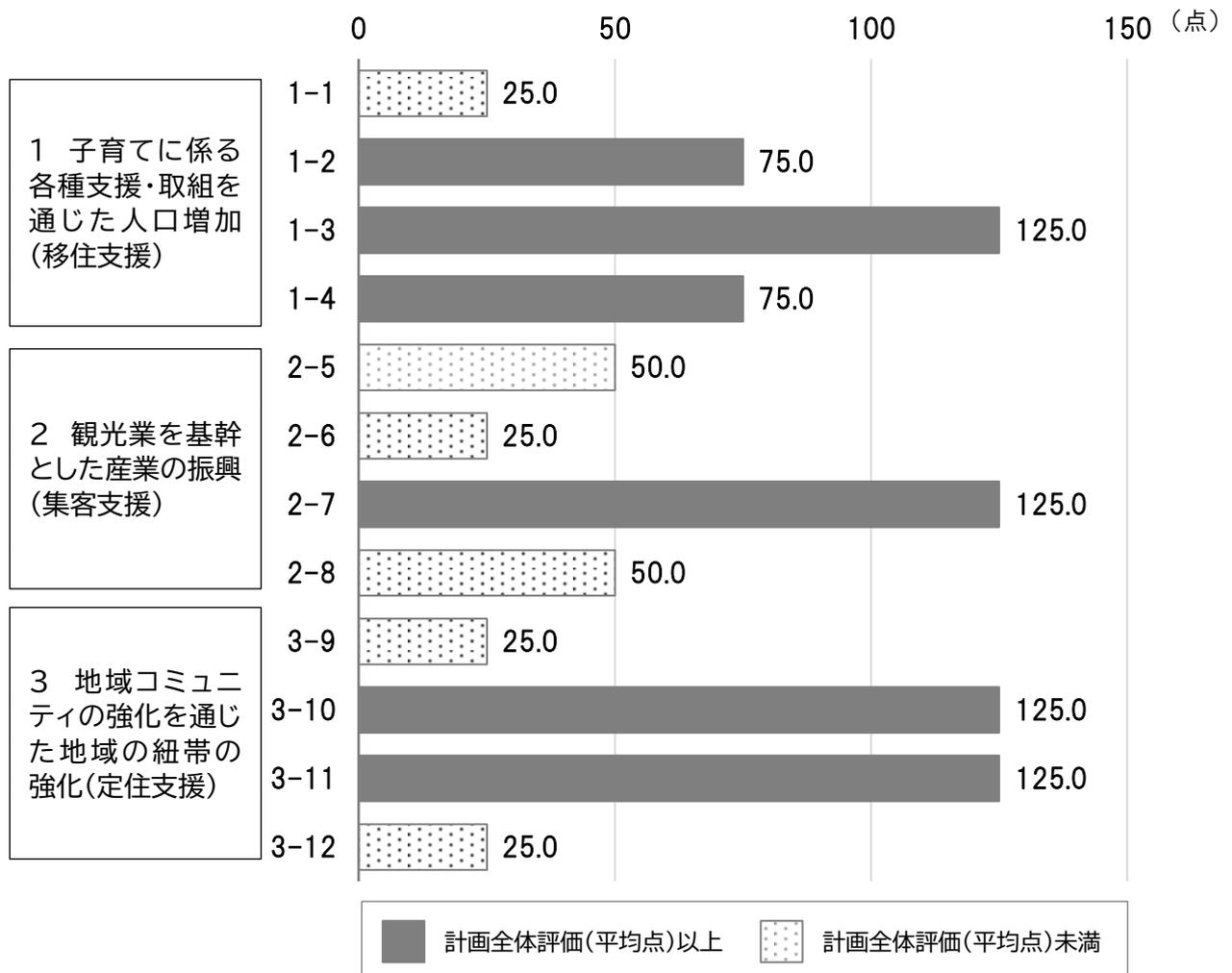
3. 評価結果（総合計画）

（1）政策目標ごとの施策進捗評価



4. 評価結果（総合戦略）

（1）アクションプランごとの施策進捗評価



第二次総合計画達成度見込み報告書

政策の柱	政策目標	施策目標	達成度を測る指標 (事業名)	単位	現状値 (平成27年)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	中間目標値 (令和2年)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (見込み)	令和7年度の方向感 (令和6年度比)	計画最終年度(R8年) 達成見込み	将来目標値 (令和8年)	令和7年度 担当課	達成度分析
1. 調和・共助 ～多種多様な 価値観が共存 するまち～	1 市民みんな が活躍できる社 会の構築	1. 高齢者や障が い者が生きがい をもって暮らせるよ うにする	○(介護予防事業)地域の自 主運動教室実施箇所数	%	0.9	14	18	19	20	9.9	22	24	23	27	27	↗	達成	19	地域包括支援課	達成済み。 地域住民や関係機関との連携を継続的に図り各地区の 特性に応じた支援を行った結果、住民主体の活動が広 がり、目標数値を達成することができた。
			○認知症に関する周知啓発 事業(カフェ・教室等)の参加 者数	人	399	86	175	233	56	800	93	115	223	388	400	↗	未達成	1,200	地域包括支援課	認知症基本計画を見据えて認知症カフェ以外でも認知 症に関する周知啓発を行っていくことで実績値上昇にな る見込みだが達成は難しい。 現在は認知症に限らず、アクティブシニアフィットネス等 の総合的な健康寿命の増進を図る施策を進めている。
			○認知症サポーター養成講 座受講者数	人	625	48	90	67	11	1,250	117	20	178	107	100	→	未達成	1,875	地域包括支援課	養成講座受講者数を経年的に積み上げることは難しい ため、毎年の受講者数に変更している。 積み上げると1400人程度の実績となり将来目標値に 近い実績となる予定。
			○シルバー人材センター会 員数	人	209	182	167	177	176	230	173	167	162	168	172	↗	未達成	250	地域包括支援課	定年を迎える年齢が高くなり会員数は横ばい傾向で達 成は難しい。
			○ゆうあいステーション利用 者数(市内)	人	106,851	93,076	91,661	86,182	43,050	110,000	14,702	31,363	44,452	57,482	65,500	↗	未達成	112,500	社会福祉課	コロナ禍により来館者が激減し、その後は回復傾向が 続いているものの、計画達成は難しい。指定管理者の 運営努力により対前年比はR4以降100%を超えている ことから引き続き来館者増加のための施策を継続して行 う。
			○いきいきセンター利用者 数	人	39,403	32,233	31,282	24,127	16,366	40,000	12,847	20,575	4,328	27,936	31,000	↗	未達成	40,000	地域包括支援課	達成は難しいが、リニューアルオープンした令和6年よ り上昇傾向。
			○障がい者就労移行支援事 業・就労継続支援(A型・B 型)事業の利用者数	人	78	85	85	91	96	90	117	124	134	152	167	→	達成	100	社会福祉課	コロナ禍の影響で利用を控える時期もあったが、コロナ が収束するとともに利用者は増加し、R3以降100人を 超えている。また、近年はSNSの活用等で、利用者は障害 福祉サービス・事業所の情報を得やすくなり、サービス 提供側は事業所の広報がしやすくなったため、障害福 祉サービスについての理解・周知が広まり利用者増加 につながったと考えられる。 障害種別(身体・知的・精神・難病)においては特に精神 障害者の利用が増加。障害の特性から症状に変動があ ることも多いため、一般就労を目指す前にまずは障がい 者就労移行支援事業・就労継続支援(A型・B型)事業を 利用して、その後の自身の体調・症状を見ながら一般就 労について検討している利用者が多い背景がある。
			○上記支援事業から一般就 労への移行者数	人	2	0	0	1	5	3	8	10	6	7	10	→	達成	4	社会福祉課	R3以降4名以上の一般就労移行者があり、利用者の障 害特性・支援方法等を事業所・一般就労先等が情報交 換・共有することで障害者雇用等についての理解が 徐々に広まったと考えられる。軽度の知的障害や発達 障害・精神障害の方の移行者が多く、以前は医療機関 や工場等での就労が多かったが、R2以降、利用者が 元々利用していた福祉事業所で正社員登用されるケ ースも目立ってきており、増加につながったと考えられ る。今年度は既に5名の移行者がいる。
			○障がい者相談支援事業利 用者数	人	155	136	136	207	228	180	256	302	343	362	380	→	達成	200	社会福祉課	身体・知的・精神・難病等の障害者は年々増加。障害を 要因とする生活の困りごと等も多様化・複雑化してく ており、H31以降利用者は200人を超えている。背景に障 がい者相談支援事業についての周知・理解が広まって きていることがまず挙げられるが、今まで家庭内でみて いたケースでも、親の高齢化や死亡、認知症の進行等 をきっかけに家庭内で解決できなくなり、困って市に相 談するケースも多い。対象者が右肩上がりであるため、 今後益々利用者数は増えていくと想定される。
			○女性の社会進出に係る周 知啓発事業(セミナー等)の 参加者数	人	152	156	191	中止	中止	180	135	157	143	129	130	↗	未定	200	人権政策課	女性の社会進出に関する問題が社会的に広く認識され たことにより、本事業の新鮮味が薄れてきていることが 参加者の減少傾向が続いている要因の一つであると思 えられる。
			○ファミリーサポート事業利 用件数	件	197	388	421	229	351	200	421	410	348	346	348	↗	達成	200	こども・若者 サポートセン ター	子育て世帯の支援ニーズが高いので、援助会員、両方 会員の募集も継続しつつ、安定した事業が展開できるよ う務める
			○審議会・委員会等の 女性委員の登用率	%	18.9	20.8	22.7	18.4	23.2	20	20.2	18.8	19.9	20.3	20	↘	未定	25	人権政策課	審議会・委員会等の委員の委嘱条件については、各課 で定めており、充て職等、裁量の余地がないものもある ため
			○市役所の女性管理職比率	%	25.5	28.7	29.9	28.7	27.6	30	28.6	31.2	32.2	31.9	32.4	↗	達成	30	人事課	性別にとらわれない人事配置を実施するとともに、組織 全体で継続的に女性職員の活躍を推進しており、計画 最終年度も目標値を達成できる見込みです。

政策の柱	政策目標	施策目標	達成度を測る指標 (事業名)	単位	現状値 (平成27年)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	中間目標値 (令和2年)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (見込み)	令和7年度の方向感 (令和6年度比)	計画最終年度(R8年) 達成見込み	将来目標値 (令和8年)	令和7年度 担当課	達成度分析	
2 豊かな自然の保全・継承			○市役所の男性職員の育児休業取得人数	人	0	0	0	1	0	1	2	4	1	1	7	↗	達成	1	人事課	育児や介護等の各種両立支援制度に関する情報を電子掲示板に常時掲載し、定期的に啓発を行うことにより、男性職員が育児休業を取得しやすい職場文化が形成されつつあり、計画最終年度も目標値を達成できる見込みです。	
			○父親向けの育児講座参加者数	人	75	96	93	107	57	100	53	58	72	77	55	→	未達成	150	健康増進課	参加者のニーズ等に応じて、教室の実施体制やプログラムの内容を変更(2回参加で1クールを1回参加で完結)しており、教室全体の実参加者としては減少したことから目標の達成は難しいが、一定の事業効果はあると考える。	
	1. 循環型社会を形成し、ごみの減量化を進める		○家庭系ごみ排出量	t/年	9,695 (H26)	8,499	9,185	9,212	9,263	8,535 (H31)	9,776	9,655	9,274	9,088	8,899	→	未達成	7,844 (H36)	クリーンセンター	市内人口が増加しているなか、ごみ量を20%削減という目標の達成は困難である。	
			○事業系ごみ排出量	t/年	4,125 (H26)	4,095	3,892	3,988	4,136	3,212 (H31)	3,557	3,497	3,659	3,679	3,556	→	未達成	3,212 (H36)	クリーンセンター	市内人口が増加しているなか、ごみ量を20%削減という目標の達成は困難である。	
			○リサイクル率	%	14.5 (H26)	15.56	15.5	14.9	14.1	27.0 (H31)	13.7	13.2	11.3	11.6	11.8	→	未達成	28.0 (H36)	クリーンセンター	家庭からの資源ごみの排出は減少傾向にある。特に古紙(紙類)の減少は顕著であるため、目標の達成は困難である。葛城市はごみ回収が無料であることからごみの分別及びリサイクル行動の動機付けが難しいことが要因と考える。引き続きリサイクル等の啓発を行い、改善を図る。	
			○最終処分率	%	15.4 (H26)	12.26	11.33	10.96	11.92	9.6 (H31)	11.08	11.08	11.46	10.86	11.00	→	未達成	9.3 (H36)	クリーンセンター	リサイクル率が横ばいで推移しているなか、最終処分率を30%以上削減するという目標の達成は困難である。	
			○おひさま堆肥会員数	人	300	359	390	404	420	330	435	458	467	473	489	↗	達成	360	環境課	広報や環境イベントでのPRにより、達成する見込み。	
	2. 森林や河川等の自然環境の維持・景観形成に努める		○河川水質基準(河川C類型):BOD	mg/l	2.3	9.41	6.8	2.23	1.95	5.0以下	2.06	1.81	2.66	2.925	1.8	→	達成	5.0以下	環境課	生活排水の下水道への接続や不法投棄防止の啓発により、達成する見込み。	
			○河川水質基準(河川C類型):溶存酸素量	mg/l	12.84	15.13	13.5	14.88	11.75	5.0以上	10.88	12.38	12.11	9.775	9.25	→	達成	5.0以上	環境課	生活排水の下水道への接続や不法投棄防止の啓発により、達成する見込み。	
			○間伐・植林面積	ha	14.6	0	1.68	0.66	0.4	16.0	1.1	1.1	0.2	1.1	0	→	未達成	17.5	農林課	自己所有森林の位置・状況を把握していない山林所有者が多く、間伐が進まないため、目標の達成は困難。	
			○一人あたりの公園面積	m ²	9.6	11.13	11.1	11.1	11.0	11.2	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	→	未達成	11.3	都市計画課	国庫補助事業による緑地の配置が困難になったため、吸収源対策公園緑地事業が廃止した。そのため、新しい公園の設置が困難となった。
			○歩いて行ける公園整備率	%	80.6	78.6	78.6	78.6	79.0	80.6	79.0	79.0	79.0	79.0	79.0	79.0	→	未達成	83.6	都市計画課	国庫補助事業による緑地の配置が困難になったため、吸収源対策公園緑地事業が廃止した。そのため、新しい公園の設置が困難となった。
	3 歴史・文化と調和的な地域づくり	1. 歴史や文化の保護・活用を図る	○歴史博物館企画展観覧者数	人	3,301	3,548	1,980	2,836	1,124	3,400	1,794	3,320	3,685	3,816	3,500	↘	達成	3,500	歴史博物館	令和4年度以降、展示内容の多様化をはかり、新規入館者の開拓を目指している。その結果、R5年度には、初めて目標値を上回る成果を得た。特別展・企画展の内容により、観覧者数の上振れ・下振れは起こりうる。しかし、現在の取り組みを改善しながら継続することにより、目標値の達成は可能と考える。	
			○歴史文化講座等参加者数	人	1,192	1,207	1,324	1,453	615	1,300	652	1,397	1,897	1,809	1,800	→	達成	1,350	歴史博物館	学芸員の採用に伴い、各専門を活かし講演会内容の多様化を行った。これにより、新規参加者の開拓と、定着化を推進することとなった。また、申込方法の多角化・簡素化を実施し、手軽に参加申込ができる環境を整えた。これらの取り組みの結果が、数字として表れていると理解する。このことを改善・継続することにより、目標値の達成は可能であると考えられる。	
		2. 時代の変化を踏まえた地域づくりを進める	○空き家に関する年間相談件数	件	平成29年度より開始	0	0	72	102	20	86	104	60	78	↗	達成	40	企画政策課	積極的な広報や空家が社会問題化しているに伴う認知度の向上、空家自体の増加により相談件数が増加しているため、目標を達成する見込み。		
			○市への年間転入者数	人	205	471	506	554	554	239	434	638	591	595	572	→	達成	241	総合窓口課	令和7年度末見込みの数値については、令和7年10月末時点の県外転入者数(299人)に、令和6年度及び令和5年度の11月から3月の県外転入者数の平均数(273人)を加えて算出した。転入者数全体については、令和6年度及び令和5年度ともに1,200人弱であり、令和7年度についても、同程度を見込んでいる。	
			○市民サービスカー年間利用者数→イベントでの利用数	人	平成28年度より開始	2	1	0	0	1,000	0	0	0	0	0	→	未達成	2,000	企画政策課	コンビニ交付サービスの普及など利便性が向上したため、市民サービスカーは一定の役割を果たしたことから、本事業は終了したため、未達成。	

政策の柱	政策目標	施策目標	達成度を測る指標 (事業名)	単位	現状値 (平成27年)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	中間目標値 (令和2年)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (見込み)	令和7年度の方向感 (令和6年度比)	計画最終年度(R8年) 達成見込み	将来目標値 (令和8年)	令和7年度 担当課	達成度分析	
2. 壮健・学習 ～心と身体が 健やかに育ま れるまち～	1. 誰もが生涯 健康で過ごせ るまちづくり	1. 未病・予防と重 症化防止の取組を 通じた健康寿命の 延伸	○特定健康診査受診率	%	39.30.8	32.4	32.7	34.1	27.9	40	33.2	未確定	未確定	未確定	34	→	未達成	50	健康増進課	受診勧奨を複数回することで、受診率を維持することはできているが、それ以上の受診者を確保できていない。対象者が受診しやすくなる版面のさらなる検討が必要である。	
			○メタボリック・シンドローム 該当者割合	%	14.5	17.4	17.4	18.4	20.4	14	19.4	未確定	未確定	未確定	17	→	達成	13.5	健康増進課	特定健診の受診率を向上していくと、自然とメタボ該当者が増えていくことになる。そのため、特定保健指導実施率も向上させ、その上でメタボ改善が必要である。	
			○子宮がん検診受診率	%	14.2	13.5	14.2	13.7	11.2	15	11.4	12.9	12.6	13.6	14	→	未達成	16	健康増進課	受診勧奨通知、再勧奨通知を実施しているが、乳がん同様の受診率向上につなげていない。20-30代が子宮頸がん死亡が増える時期でもあるため、受ける必要性についてより広い広報が必要である。	
			○乳がん検診受診率	%	14.4	12.6	16	16.6	12.6	15	13.1	15.3	15.5	16.8	17	↗	達成	16	健康増進課	受診勧奨通知、再勧奨通知を実施することで、少しずつ受診率の向上につなげることができている。	
			○がんによる死亡者数 (人口100,000人あたり)	人	275(H26)	282.7	259.3	232.4	266.1	260	218.4	未確定	未確定	未確定	250	↘	達成	255	健康増進課	葛城市の人口規模が少ないため、がん死亡の1名の影響が大きい。現時点ではがん死亡者は達成できているが、今後高齢者割合が増えていくことで、この数字は増加していくことが予想される。	
			○男性健康寿命(平均自立 期間)※65歳時点	年	18.23(H24)	17.94 (H27)	18.33 (H28)	18.88(H29)	19.25(H30)	19.23	18.81(H31)	18.87(R2)	18.53(R3)	18.69(R4)	18.69(R5)	→	未達成	19.55	健康増進課	健康寿命を延ばしていくためには喫煙率および塩分摂取量を減少させる必要がある。しかし、1年で大きく変化が起こせるものでも無いこと、また葛城市の少ない人口規模であると健康寿命の増減も大きいこと達成見込みを未定とした。	
			○女性健康寿命(平均自立 期間)※65歳時点	年	20.66(H24)	21.06 (H27)	20.65 (H28)	20.99(H29)	20.82 (H30)	22.66	20.98 (H31)	20.75(R2)	20.64(R3)	20.56(R4)	20.65(R5)	→	未達成	23	健康増進課	健康寿命を延ばしていくためには喫煙率および塩分摂取量を減少させる必要がある。しかし、1年で大きく変化が起こせるものでも無いこと、また葛城市の少ない人口規模であると健康寿命の増減も大きいこと達成見込みを未定とした。	
	2. 安心して医療・ 介護サービスが受 けられる体制づくり			○後発医薬品(ジェネリック医 薬品)使用率	%	39.4	40.66	49.08	50.56	52.45	45	56.93	56.88	59.70	57.5	60.45	↗	達成	50	保険課	確認できる実績値がすでに令和8年目標値を超えており、さらに令和6年10月より後発医薬品に関する選定療養費の制度が開始されたことから、原則後発医薬品が処方されるため、使用率が減少する可能性は考えにくい。以上の理由から達成する見込みである。
				○要介護認定率	%	16.7	17.4	18	18.5	18.3	16.5	18.6	19.7	19.7	20.4	20.8	↗	未達成	16.3	介護保険課	より支援を必要とすると考えられる75歳以上の高齢者が増加しているため
				○ボランティア登録者数	人	1,039	1,039	1,258	1,129	1,149	1,100	1,116	1,046	1,033	984	950	↘	未達成	1,150	地域包括支援課 (社会福祉協議会)	高齢化及び定年を迎える年齢が高くなったこともあり、達成は難しい。
				○各地域介護予防教室数	件	12	13	16	19	20	18	22	24	25	28	29	↗	達成	24	地域包括支援課	すでに達成済み。 地域住民や関係機関との連携を継続的に図り各地区の特性に応じた支援を行った結果、住民主体の活動が広がり、目標数値を達成することができた。
				○地域包括支援センター への総合相談件数	件	2,560	2,489	3,779	2,952	5,800	2,560	4,548	4,686	5,069	5,460	5,500	→	達成	2,560	地域包括支援課	すでに達成済み。 高齢者人口の増加。要介護認定者数の増加。介護予防事業の充実による相談件数増加。
	3. 運動の場の形 成を通じた市民の 健康の増進			○部活動を行っている中学生 の割合	%	87.5	88	87	88	76.6	90.0	82.3	80.8	81.7	82.6	78.8	↘	未達成	90.0	学校教育課	計画策定当初より、こどもの習い事が多様化しており、学校以外でクラブチームに所属する生徒や習い事をする生徒が増えたため、部活動に所属している生徒の割合が伸びなくなっている。よって目標は未達成となる見込み。
				○体育施設の年間利用者数 (延べ)	人	185,812	190,100	171,973	160,151	108,074	200,000	93,114	138,413	149,315	146,819	148,000	↗	未達成	200,000	体育振興課	コロナ禍で団体競技において活動が休止したチームが多く、また少子化も相まって、施設の使用率については変わらないが、1回の貸出あたりの利用人数が減少したため。
				○健康づくり推進員活動大字 数	件	18	17	19	17	9	20	4	3	4	2	0	↘	未達成	25	健康増進課	ボランティア会員の高齢化により令和6年度に健康づくり推進協議会が解散。そのため活動大字数は「0」で計上。
				○健康づくりを実践するグ ループ数	件	3	3	3	3	3	5	1	1	2	2	2	→	未達成	8	健康増進課	ウォーキング団体が2団体あったが、その団体の代表者が令和6年度に亡くなった。その活動に参加していた方で協議し、2団体を統合して1団体とした。それぞれの活動回数は変わっていない。
	2. 教育・学習 による未来の 市民づくり	1. 子どもの健全な 育成に対する各種 支援を行う	○こども・若者サポートセン ターへの新規相談件数	件	平成28年度 より開始	319	315	330	365	200	290	267	295	266	266	→	達成	200	こども・若者 サポートセン ター	こども・若者家庭センターとして本格的に実施していくため、相談支援機関として、各家庭の相談ニーズを受け止め、丁寧に対応していくため。	

政策の柱	政策目標	施策目標	達成度を測る指標 (事業名)	単位	現状値 (平成27年)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	中間目標値 (令和2年)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (見込み)	令和7年度の方向感 (令和6年度比)	計画最終年度(R8年) 達成見込み	将来目標値 (令和8年)	令和7年度 担当課	達成度分析		
2. 基礎学力の向上や社会を生き抜く力の養成を進める			○待機児童数	人	0	5	4	28	22	0	10	11	10	1	1	→	未定	0	こども未来課	小規模保育事業所や幼保連携型認定こども園の誘致により、待機児童数は減少傾向にありますが、令和8年度分については、現在利用調整中のため未定とする。		
			○乳幼児訪問数	件	255	288	253	308	267	270	281	300	289	305	305	→	達成	300	健康増進課	訪問対象者(乳児)の数が減っていないこと。また、生後4か月未満までに医療職による全員の訪問を実施しているから。		
			○養育支援訪問数	件	6	10	9	4	1	20	3	3	1	2	3	↗	達成	30	こども・若者サポートセンター	各ご家庭の支援ニーズが高まっているため、必要とされる家庭支援事業として、支援していく予定である。		
			○乳幼児健診受診率	%	97	97	97	97	97	98	97.9	97.6	97.7	97.6	97.6	→	未達成	99	健康増進課	受診者の都合(海外在住・長期医療管理等)により、受診できないこともあるため。目標は未達成の見込み。なお、その場合でも、医療機関受診の状況確認等、健診受診ではない形で支援を行っている。		
				○児童生徒1,000人あたりの不登校児童生徒数(小学校)	人	3.08	1.3	4.17	7.9	11	2.9	18	19	20	16	15	↘	未達成	2.8	学校教育課	全国的に不登校児童数は増加傾向にあり、特にコロナ禍以降、高止まりしている状況が続いているため、未達成となる見込み。ただし、葛城市の不登校児童数は全国平均・奈良県平均と比較すると低く、減少傾向が続いている。	
				○児童生徒1,000人あたりの不登校児童生徒数(中学校)	人	28.7	16.1	25.2	36	36	26.0	52	46	54	54	53	↘	未達成	24.0	学校教育課	全国的に不登校生徒数は増加傾向にあり、特にコロナ禍以降、高止まりしている状況が続いているため、未達成となる見込み。ただし、葛城市の不登校生徒数は全国平均・奈良県平均と比較すると低く、減少傾向が続いている。	
				○国際的人材を育成する授業の年間実施回数	回	35	50	50	50	70	70	70	70	70	70	70	70	→	達成	70	学校教育課	英語教育講師(ALT)派遣の充実を図り、授業の年間実施回数が増加したため達成する見込み。
				○夏休み等の課外における教育支援の年間実施日数	日	8	18	0	17	0	14	0	14	19	10	10	→	達成	20	学校教育課	大阪教育大学との連携協力協定を締結し、課外教育支援の日数が増加する見込みのため、達成する見込み。	
				○市民一人当たりの貸出冊数	冊	4.8	5.1	5.6	5.3	3.9	5.3	4.0	4.9	5.2	5.3	5.0	↘	未定	5.5	図書館	令和7年度の当初の利用者数や貸出冊数を、令和6年度・令和5年度と比較したところ、利用者・貸出冊数ともに前年度の数字を下回っていたため、達成は難しいと判断した。ただ、年間を通じて増冊貸出やイベント等を実施するため、利用の増加につながるよう努めたい。	
				○学校図書館の一人当たり年間貸出し冊数(小学校)	冊	51	49	54.5	44.4	50	55	55	56	43	45	48	→	達成	60	学校教育課	図書に関する取り組みを活発に行い、学校図書館の利用数が増加しているため達成する見込み。	
				○学校図書館の一人当たり年間貸出し冊数(中学校)	冊	6.1	9	8.1	7.3	4	8	5	5	6	7	8	→	達成	10	学校教育課	図書に関する取り組みを活発に行い、学校図書館の利用数が増加しているため、達成する見込み。	
				○給食地産地消費率	%	16.00	9.14	10.31	25.61	21.23	25.00	19.00	21.45	20.24	27.61	30.00	→	達成	30.00	給食センター	食材調達方法の見直しにより目標は達成する見込み。	

政策の柱	政策目標	施策目標	達成度を測る指標 (事業名)	単位	現状値 (平成27年)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	中間目標値 (令和2年)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (見込み)	令和7年度の方向感 (令和6年度比)	計画最終年度(R8年) 達成見込み	将来目標値 (令和8年)	令和7年度 担当課	達成度分析	
3. 生涯学習による豊かな心の涵養	1. 芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		○新庄文化会館ホール稼働率	%	33	41	42.1	39.6	23.4	45	28.6	39.7	33.1	37.2	38	↗	未定	50	新庄文化会館	当麻文化会館の複合施設への改修工事による休館で、当館ホールでの自主事業や貸館の件数が増加傾向にある。また、令和7年10月1日から近隣(葛城市・大和高田市・御所市・香芝市・北葛城郡4町を含む)の8市町村による「体育・文化施設の相互利用協定」により、施設使用料(市内・町内の料金)での利用可能になったことによる増加が今後見込まれる。	
			○当麻文化会館ホール稼働率	%	48	39.8	42	35.3	14.1	49	11.2	24.5	28.7	28.7	28.7	0	↘	未定	50	当麻文化会館	複合施設への改修工事による休館(令和9年1月28日竣工予定)で、当館ホールの収容人数が500人規模から200人規模の多目的スタジオに様変わりするため、「R8達成見込み及び将来目標値」の達成度分析が難しい。
			○中央公民館・当麻文化会館・地区館における各種定期教室講座の参加者数	人	1,127	1,043	1,067	1,090	342	1,200	496	512	1484	1593	3200	↗	達成	1,300	当麻文化会館 (中央公民館)	コロナ禍で一時減少したが、人気のある講座も多く、参加者が順調に増加した結果、目標は達成した見通し。	
			○市内各分館等における移動講座の参加者数	人	4,439	4,639	4,514	3,794	1,229	4,600	1,325	1,980	2,388	2,881	2,900	↗	未達成	4,800	当麻文化会館 (中央公民館)	コロナ禍により急激に参加者が減少した後、増加傾向にはあるものの目標の達成は困難。	
			○アートフェア参加者数 (日当たり)	人	1,837	1,543	1,391	895	0	2,200	0	0	0	0	0	0	—	—	2,500	生涯学習課	葛城市の芸術文化の振興に資するため、令和5年度から7年度までの3年を1つの区切りとして『秋の芸術文化月間』を開催した。芸術文化関連事業をこの期間に集約して、情報発信・PR、参加型イベントを開催した。これにより、市民の身近なところで多くの芸術文化に触れる機会のあることの周知を図った。芸術文化に興味関心を持っていただけるような素養醸成を行い、芸術文化を楽しむ裾野を拡げつつある。
			○生涯学習まちづくり推進大会参加者数	人	500	511	592	437	0	550	0	364	0	0	0	0	—	—	600	生涯学習課	葛城市の芸術文化の振興に資するため、令和5年度から7年度までの3年を1つの区切りとして『秋の芸術文化月間』を開催した。芸術文化関連事業をこの期間に集約して、情報発信・PR、参加型イベントを開催した。これにより、市民の身近なところで多くの芸術文化に触れる機会のあることの周知を図った。芸術文化に興味関心を持っていただけるような素養醸成を行い、芸術文化を楽しむ裾野を拡げつつある。
	2. 人権教育により差別のない社会を形成する		○人権集会等参加者数	人	1,360	1,606	1,545	1,646	108	1,400	1,103	655	938	919	920	↗	未定	1,380	人権政策課	コロナ禍以降、公立保育園での人権研修が実施できていないため。	
			○人権教育講座参加者数	人	70	89	100	104	59	80	30	94	99	105	110	↗	達成	100	生涯学習課	広報活動や人権意識の醸成に向けた活動により参加者数が増加したため。	
			○人権教育地区別研修会参加者数	人	656	676	391	360	中止	700	中止	中止	中止	中止	中止	—	—	750	人権政策課	人権教育地区別研修会の代替として令和2年度から人権週間にパネル展や研修会等を実施している。	

政策の柱	政策目標	施策目標	達成度を測る指標 (事業名)	単位	現状値 (平成27年)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	中間目標値 (令和2年)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (見込み)	令和7年度の方向感 (令和6年度比)	計画最終年度(R8年) 達成見込み	将来目標値 (令和8年)	令和7年度 担当課	達成度分析		
3. 活力・安全 ～にぎわいあ ふれる安心なま ち～	1. 住みよいま ちを支える社会 基盤の実現	1. 基幹道路や駅 前道路、地域交通 ネットワークの整備 を進める	○公共バスの年間利用者数	人	50,000	47,246	47,072	46,500	29,813	55,000	34,662	43,470	49,193	52,209		↗	未定	60,000	企画政策課	コロナ禍以降、利用客が年々増加傾向にあり、目標値の達成は可能であると考えられる。公共交通マップを作成し、市民の公共交通の利用促進に努めているほか、芝桜まつりなどの市内イベントの実施や、大阪関西万博での本市のPR活動等により市外からの来訪者の増加が今後期待でき、それに伴うバスの利用客の増加が考えられる。		
			○市道改良率	%	29.8	30.5	30.7	31.1	31.7	31.0	31.7	31.7	31.9	31.9	32.0		→	達成	31.2	建設課	計画的な改良により令和7年3月末で達成済み	
			○市道舗装率	%	92.9	93.1	93.1	93.2	93.3	93.0	93.3	93.3	93.3	93.3	93.3		→	達成	93.1	建設課	計画的な舗装により令和7年3月末で達成済み	
			○交通事故発生件数	件	134	159	122	120	79	87	87	75	81	92		→	未定	57	生活安全課	交通啓発による減少を目指し事業を実施している		
			○無電柱化率	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		→	未達成	1.5	都市計画課	事業経費が高額かつ、優先順位が低いため、実施していない。	
	2. 管路の整備・補 修を進めて安定的 な上下水道の利用 を確保する	2. 管路の整備・補 修を進めて安定的 な上下水道の利用 を確保する	○下水道水洗化率	%	88.0	91.6	92.0	92.6	92.8	93.0	93.1	93.6	94.0	94.2	94.6		↗	未達成	98.0	下水道課	当初計画策定時、開発により年間300件以上の新規水洗化戸建て住宅が多く立ち並び水洗化率の上昇に大きく貢献してきたが、現在では年間200件弱まで落ち込んできた。開発の性質自体も、田や空地などの大きな一帯地を住宅用地とする大規模なものから、建替を前提とした小規模な開発が主流となって来た。以上の理由から当初見込んでいた水洗化率の上昇が非常に緩やかになった。そこで未だ水洗化に至っていない方々に対して水洗化への啓発文書を送付しており、水洗化率の漸増を促している。しかしながら急激な水洗化率の上昇は見込めないため未達成となる。	
			○水質管理目標設定項目該当数	項目	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26		→	達成	26	水道課	26の水質管理項目の水質検査を行っており今後も継続する予定であり、達成する見込み。
			○経年化設備率	%	41.8	41.2	41.5	41.7	41.9	35.0	42.1	42.3	42.5	40.6	40.6		→	未達成	30.0	水道課	職員数の確保が課題であり、財務状況を鑑み投資の平準化を図りながら更新を行っているため未達成となる見込み。	
			○管路の更新率	%	0.7	0.6	0.7	0.4	0.7	1.3	0.5	1.0	0.9	0.9	0.9		→	未達成	2.0	水道課	職員数の確保が課題であり、財務状況を鑑み投資の平準化を図りながら更新を行っているため未達成となる見込み。	
	2. ものづくりの 振興を通じた地 場産業の活性 化	1. 農工商業の地 場産業を育成し、 活性化させる	○耕作放棄地面積 (保全管理農地)	ha	9.1	7.43	12.01	11.51	12.66	8.5	11.9	13.3	15.8	18.6		↗	未達成	8.0	農林課	農家の経営安定や水利施設の調査改修などを行っているが、農業従事者の高齢化や農業資材の高騰などを背景に、耕作放棄地の拡大傾向が続いている。さらなる耕作放棄地対策を検討しているところだが、令和8年度に将来目標値を達成できる見通しはたっていない。		
			○地域ブランド認定品数	件	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0		→	未達成	20	農林課	対象作物の選定基準の作成が難航し、地域ブランド認定に至っていない。	
			○農作物販売金額	百万円	1,410	1900	1830			1,500								→	—	1,600	農林課	—
			○新規創業者相談数	件	3	3	3	3	3	5	4	4	8	3			→	未達成	10	農林課	奈良県中部農林振興事務所と連携し「経営開始5年目までに農業で生計が成り立つ実現可能な計画」の作成を支援しているが、令和8年度に将来目標値を達成できる見通しはたっていない。	
			○雇用者所得(一人当たり)	万円	406	414				410								→	—	420	農林課	—

政策の柱	政策目標	施策目標	達成度を測る指標 (事業名)	単位	現状値 (平成27年)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	中間目標値 (令和2年)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度 (見込み)	令和7年度の方向感 (令和6年度比)	計画最終年度(R8年) 達成見込み	将来目標値 (令和8年)	令和7年度 担当課	達成度分析	
		2. 観光業の振興 によるまちの賑わ い創出	○観光客入込客数	人	650,752	1,121,017	934,681	829,636	978,022	870,000	969,369	1,080,703	1,058,869	1,185,295		→	達成	970,000	観光プロモーション課	令和4年度に目標値を既に達成しており、4年度以降も順調に入込客数が推移している。令和8年度においても同様に観光客を呼び込むプロモーションやイベントを実施していく予定をしており、達成できるものと考えている。	
			○相撲館来場者数	人	4,423	4,492	4,772	5,746	1,388	10,000	1,708	4,888	8,746	9,159		→	未達成	15,000	観光プロモーション課	コロナ禍以降順調に来館者数が伸びており、コロナ禍以前の水準を上回っているものの、現状の伸び率では目標値の達成は困難と考える。	
			○観光案内所来場者数	人	16,035	18,030	18,350	21,200	9,100	20,000	7,100	17,326	16,920	16,790		→	未達成	30,000	観光プロモーション課	コロナ禍以降来訪者数は回復してきているものの、コロナ禍以前に達成していた中間目標値の数値を下回っている状況であり、目標値の達成は困難であると考える。	
			○観光ボランティア案内件数	件	57	58	67	46	42	70	15	26	27	24		→	未達成	100	観光プロモーション課	コロナ禍以降、ウォーキングイベントの減少や観光ボランティアガイドの会の会員の高齢化及び会員数の減少により、案内できる件数が少なくなっていることが影響しており、達成が困難であると考える。新規入会向けの講習を市で実施するなど、ガイドの会の活性化に向けた取り組みを実施している。	
	3. 安心・安全な生活環境の整備	1. 自然災害や火災等に対する備えを十分なものにする	○防災士育成数	人	49	88	98	107	110	200	109	111	110	110	110	115	→	未定	300	生活安全課	奈良県での防災士育成試験は抽選であり、微増が見込まれる。
			○自主防災組織の組織率	%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	→	達成	100	生活安全課	自主防災組織は継続して100%の組織率を達成できている。
			○年間出火件数	件	9	22	22	10	16	8	12	13	9	11	10	→	達成	7	生活安全課	火災運動等の啓発活動による減少が見込まれる。	
			○女性消防団員数	人	0	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	15	↗	達成	12	生活安全課	女性消防団を組織後、団員数は目標値を維持できている。
			○多数の者が利用する公共建築物の耐震化率	%	85	85.3	85.3	85.3	94.1	95	97	98.7	98.7	100.0	100.0	→	達成	100	生活安全課	計画的に耐震化を進めたことにより、目標は達成できている。	
		2. 地域の防犯体制を強化し、犯罪の発生を抑制する	○刑法犯認知件数	件	281	189	180	138	136	191	104	140	78	170	150	→	達成	131	生活安全課	防犯カメラの設置数の増加等の防犯対策により軽犯罪は減少傾向にある。	
			○街灯LED設置台数	台	1,876	2,888	3,442	3,690	3,873	3,000	4,045	4,232	4,267	4,326	4,400	→	未定	4,500	生活安全課	開発等によるLED設置件数は増加傾向にある。	
			○防犯カメラ設置台数	台	5	40	55	57	62	55	62	64	66	69	75	↗	達成	70	生活安全課	防犯意識の啓発により、防犯カメラの設置数が増加したため、目標は達成する見込み。	
			○消費者生活相談件数	件	87	55	67	49	61	80	52	51	46	45		→	未定	80	観光プロモーション課	多様化する消費者事例に関して、消費生活相談窓口に繋げるよう啓発に取り組みを続けているが、件数は横ばいで推移している。件数が多くなることで良い成果と言える指標ではないので、現状の取り組みを維持していきたい。	
			各分野の政策・施策を推進するための視点	○市民と行政の協働 ○質の高い行財政運営	▼ 市民の市政参画や市民活動への支援等を通じた市民と行政の協働による行政運営の実現 ▼ 新電力の導入等効率的な行財政運営の仕組みの導入 ▼ 情報化の推進による行政コストの削減 ▼ ファシリティマネジメントの実施による公共財の適切な管理	○個人番号(マイナンバー)カード発行枚数	枚	868	3,157	3,567	4,607	11,025	7,000	18,244	26,811	30,184	33,179	36,500	↗	達成	14,000
	○ふるさと納税納入額	千円				4,792	1,480	1,985	1,000	15,205	23,000	51,608	80,060	90,799	122,772		↗	達成	30,000	商工観光プロモーション課	中間事業者とも協力し、返礼品協力事業者の開拓や返礼品の拡充、ポータルサイトの充実化に取り組むことにより、目標値を大幅に上回り達成することができた。度重なるふるさと納税の制度改正により、寄付額に与える影響が懸念されるものの、次年度も目標達成できるものとして引き続き取り組みを進める。
	○市公式SNS登録者数	人				74	2,083	2,315	2,315	2,353	1,000	2,727	6,167	6,537	7,550	8,000		↗	達成	3,000	秘書広報課
○市ホームページアクセス数	千件	1,953				1,539	1,398	1,642	2,304	2,000	3,381	2,564	2,085	2,159	2,200		↗	達成	2,100	秘書広報課	広報誌やチラシにQRコードを積極的に掲載するなど、紙面の関係で掲載しきれない情報をホームページで閲覧いただくための工夫を実施している。また、ホームページの文言などを見直し、誰もが読みやすく、理解しやすくなるよう改善を進めていることが、閲覧数の増加に繋がると考えている。
○職員職場外研修受講者数	人	102				106	98	128	80	120	150	106	101	149	185		↗	達成	140	人事課	階層別研修については、対象職員へ周知し、受講案内を行うとともに、専門的実務研修については、内容に応じて業務に直接関連する職員に個別に案内し、業務の専門的な知識の向上を図っている。職員の研修受講への積極的な姿勢も見られ、計画最終年度も目標値を達成できる見込み。

第2期葛城市総合戦略 重要業績評価指標（KPI）達成度見込み報告書

資料1-3

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時の実績値	実績値						見込み	令和7年度の方向感 (令和6年度比)	計画最終年度 (R8年) 達成見込み	目標値	達成度分析
	平成30年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度				
① 子育て世帯（18歳未満の子どもを有する世帯）数	3,855世帯 (H30)	3,820世帯	3,840世帯	3,839世帯	3,851世帯	3,793世帯	3,649世帯	↘	未達成	4,000世帯	少子化等の影響を大きく受けていることが主な要因であると分析する。	
② 子どもを有する44歳以下の女性の就労率	62.99% (H30)	65%	80%	78.0%	76.0%	76.6%	76.0%	→	未定	76.5%	近年の達成状況を踏まえると同水準で推移していくと見込まれる。	
③ 学童保育所における出前講座の回数	10回 (R1見込み)	0回	0回	0回	0.00%	10回	30回	↗	達成	15回	令和6年度以降、民間事業者等の協力もあり、出前講座などのイベントを開催でき、また今後も同様のイベントの実施を予定しているため。	
④ 県外からの転入者数	506人 (H30)	554	434	638	591	595	600人	↗	達成	600人	積極的な移住促進政策により、県外からの転入者は増加傾向にあり、当初目標は達成できる見込み。	
⑤ 葛城市が相撲発祥の地であることを認知している割合	市内：89% (H30)	市内95%	市内95%	市内89.5%	市内100%	市内75%	市内85.1%	↗	未定	市内：100%	ちゃんこ鍋コンテストなど相撲に関連したイベントの実施や給食でのちゃんこ鍋提供など、地域に相撲発祥の地が浸透するよう取組を続けているところであり、一時は数値を落としたものの、高い数値で推移している。次年度には達成できるよう継続して取り組みを進めていく。	
	市外：39% (H30)	市外45%	市外45%	市外62.5%	市外66.6%	市外68.4%	市外67.1%	→	未定	市外：70%	ちゃんこ鍋コンテストなど相撲に関連したイベントの実施や観光動画を活用したプロモーション、大阪・関西万博での催事など対外的に継続して発信しており、順調に数値が推移しているため達成できるよう事業を推進していく。	
⑥ 綿弓塚の来場者数	5,946人 (H30)	587人	487人	664人	4,377人	1,330人	2,000人	↗	未定	8,000人	コロナ禍以前は竹内街道のイベントなどが頻繁に実施され、来場者が多くいたが、コロナ禍を契機に減少傾向となり、年度によって数値の変動が多くなることから、現状としては達成が困難な見込。	
⑦ 相撲館への外国人来場者数	1,175人 (H30)	0人	19人	812人	2,749人	3,530人	3,600人	↗	達成	2,000人	令和5年度に既に目標数値を達成しており、6年度以降も目標値を上回って推移していることから、令和8年度においても同様に達成できる見込みである。	
⑧ 市内の販売農家数	585戸 (H27)	439戸	439戸	440戸	440戸	442戸	450戸	↘	未達成	450戸	R7・R8の就農予定者が8戸に満たないため。	
⑨ 2つの道の駅の売り上げ高	1,121 百万円 (H30)	道の駅かつらぎ： 1,012,621千円 ふたかみパーク當麻： 227,614千円 合計：1,240,235千円	道の駅かつらぎ： 1,070,071千円 ふたかみパーク當麻： 238,565千円 合計：1,308,636千円	道の駅かつらぎ： 1,152,717千円 ふたかみパーク當麻： 235,953千円 合計：1,388,670千円	道の駅かつらぎ： 1,205,665千円 ふたかみパーク當麻： 235,639千円 合計：1,441,304千円	道の駅かつらぎ： 1,283,379千円 ふたかみパーク當麻： 243,555千円 合計：1,526,934千円	1,633百万円	↗	達成	1,633百万円	R3からR6まで前年度比105%前後で推移しており、R7・R8と前年度比103.5%で目標値を達成するため。	
⑩ 【R6年度から】 生活支援コーディネーターが住民主体の助け合い活動の基盤づくりを目的として関わった	30 (R5実績値)							34	↗	達成	44大字	全ての大字のニーズについて把握しきれていないため、介入に至らない大字が考えられ、達成は困難である。引き続き、各大字のニーズ把握に努める必要がある。
⑪ 自主運動教室の実施箇所数	18 (H30)	20	22	24	23	27	26	→	達成	26	地域住民や関係機関との連携を継続的に図り各地区の特性に応じた支援を行った結果、住民主体の活動が広がり、目標数値を達成することができた。	
⑫ 健康寿命 (65歳平均自立期間)	男性：18.33 (県内17位) (H28)	男性：19.25 (県内4位) (H29-R1)	男性：18.81 (県内8位) (H30-R2)	男性：18.77 (県内12位) (R元-R3)	男性：18.53 (県内15位) (R2-R4)	男性：18.69 (県内18位) (R3-R5)	男性：18.69 (県内18位)	→	未定	男性：18.53 (県内15位)	健康寿命を延ばしていくためには喫煙率および塩分摂取量等を減少させる必要がある。しかし、1年で大きく変化が起これるものでも無いこと、また葛城市の少ない人口規模であると健康寿命の増減も大きいため達成見込みを未定とした。	
	女性：20.65 (県内20位) (H28)	女性：20.82 (県内21位) (H29-R1)	女性：20.98 (県内17位) (H30-R2)	女性：20.75 (県内21位) (R元-R3)	女性：20.64 (県内20位) (R2-R4)	女性：20.56 (県内22位) (R3-R5)	女性：20.65 (県内20位)	→	未定	女性：20.65 (県内20位)	健康寿命を延ばしていくためには喫煙率および塩分摂取量等を減少させる必要がある。しかし、1年で大きく変化が起これるものでも無いこと、また葛城市の少ない人口規模であると健康寿命の増減も大きいため達成見込みを未定とした。	

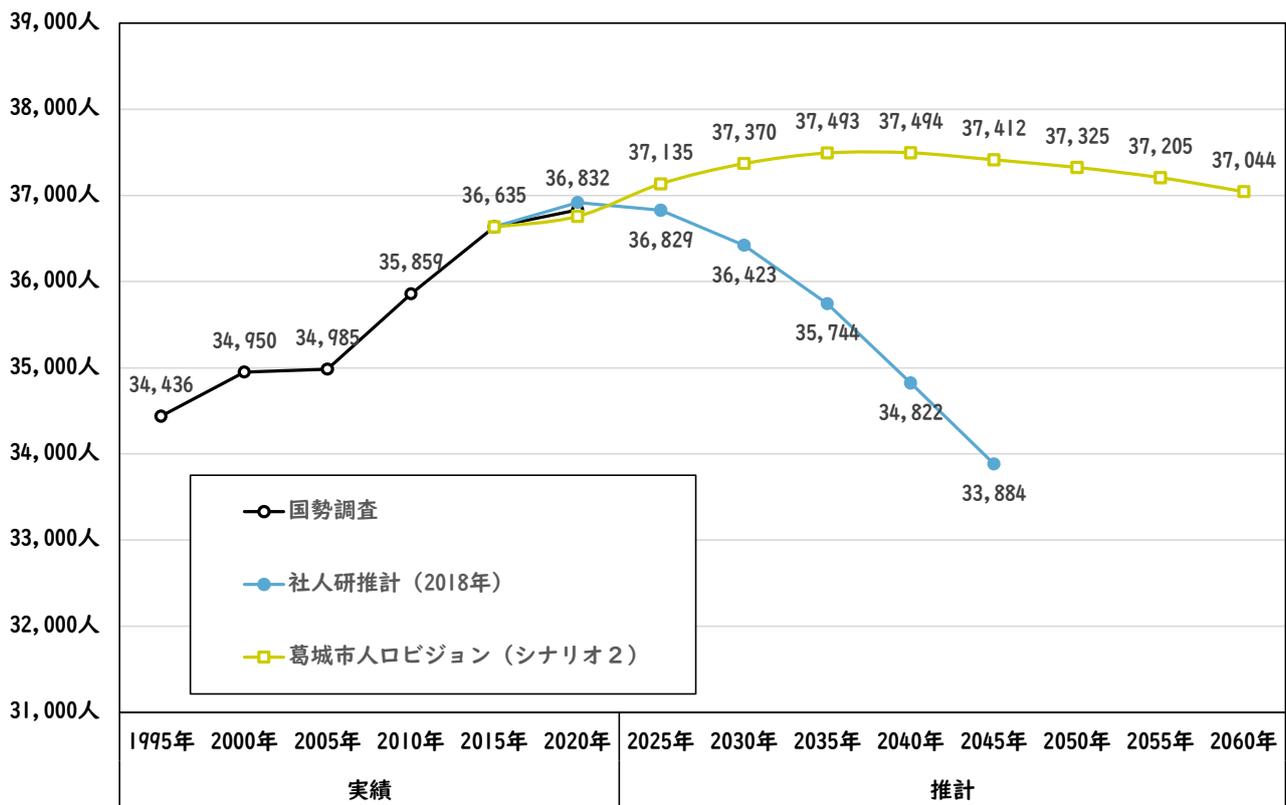
重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時の 実績値	実績値					見込み	令和7年度の 方向感 (令和6年度比)	計画最終年度 (R8年) 達成見込み	目標値	達成度分析
	平成30年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			令和8年度	
⑬ 個人番号カード（マイナンバーカード）の配布枚数	3,567枚 (H30)	11,025	18,244	26,811	30,184	33,179	36,500	↗	達成	34,500枚	令和7年10月末時点で交付枚数は36,224枚となっており、令和7年度末には見込み数を達成するものと考えている。 今後、令和7年12月2日に健康保険証が原則廃止され、マイナ保険証へ切り替わることを契機として、現在所持していない市民についても、個人番号カードを申請されるものと見込んでおり、これにより大多数の市民が個人番号カードを所持するものと考えている。
⑭ 葛城市コミュニティバス（環状線ルート）の年間利用者数	32,226人 (H30)	22,282	26,521	32,834	36,440	39,035		↗	未定	49,600人	ここ数年の増加率を見ると、目標値には及ばないと考えられるが、バスの利用者数自体はコロナ禍以降年々増加傾向にある。 公共交通マップを作成し、市民の公共交通の利用促進に努めているほか、芝桜まつりなどの市内イベントの実施や、大阪関西万博での本市のPR活動等により市外からの来訪者の増加が今後期待でき、それに伴うバスの利用客の増加が考えられる。

葛城市 人口推計について

■ これまでの動きと趨勢人口の調整

○令和 2 年 3 月に策定された「葛城市人口ビジョン」では、平成 30（2018）年に公表された国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）による人口推計をベースに調整した趨勢人口をもとに将来人口を推計し、令和 42（2060）年の人口を 37,044 人とする、出生や移動の改善を目指すシミュレーションがなされました。

既往推計及び最新動向反映による葛城市の将来人口①



推計の考え方（人口ビジョン シナリオ 2）

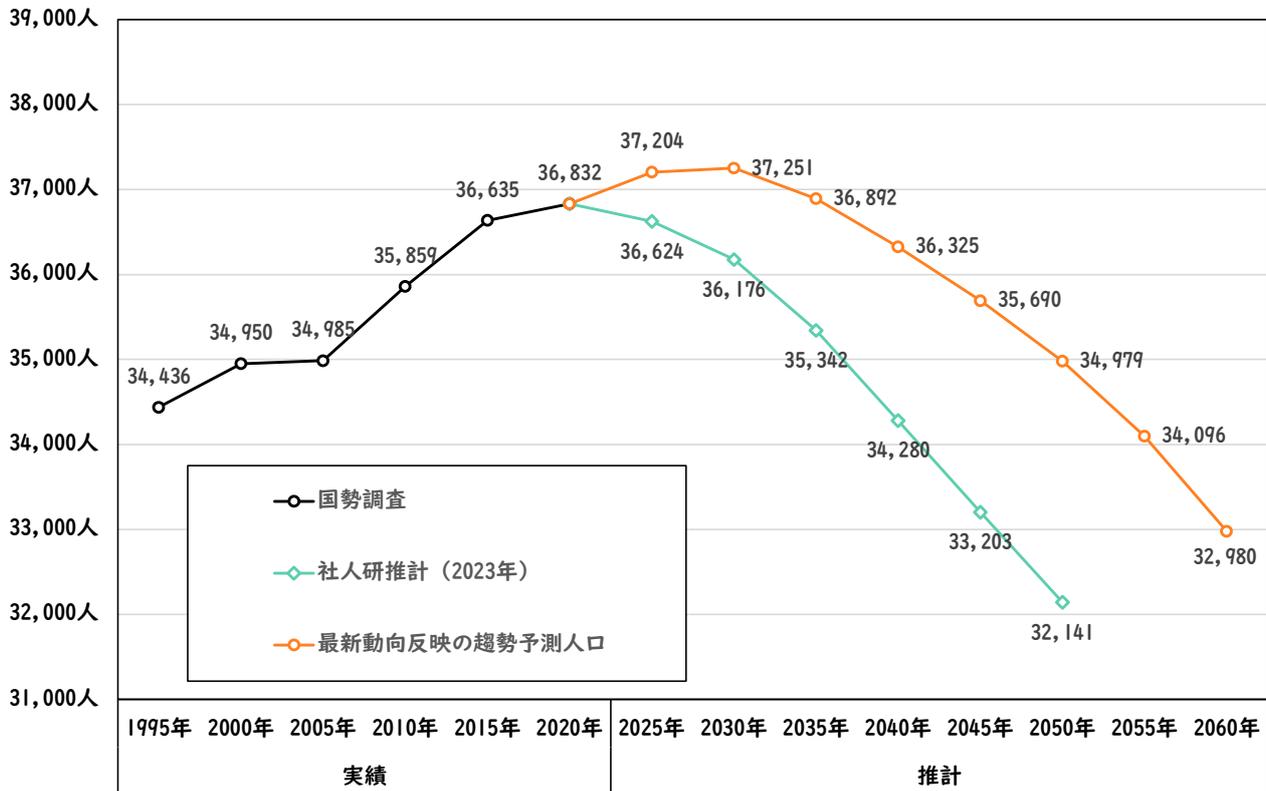
社人研推計（2018）をベースに、平成 27（2015）年以降の人口動向を踏まえた調整を行い、趨勢人口を推計。趨勢人口をもとに、下記調整（出生・移動の改善）を行った。

移動	「0～4 歳→5～9 歳」「30～34 歳→35～39 歳」「35～39 歳→40～44 歳」 ⇒純定住率が 2025 年までに 3%改善、2030 年までに 4%改善、2035 年までに 5%改善する 「その他の年齢区分」⇒純定住率が 1%改善する
出生	パラメータとしては、子ども女性比ではなく合計特殊出生率を採用 合計特殊出生率が、1.71（ベース：社人研推計（2018）データ）から徐々に改善し、令和 22（2040）年までに 2.07（人口置換水準）になる
死亡	社人研推計（2018）のパラメータを採用

※純定住率：社人研の移動パラメータ（純移動率）に「1」足した数値。ある年齢層の人口を 1 として、5 年間の純移動率が 0.1 の場合、5 年後の人口は 1.1 となるので、その値を純定住率と定義した。

- その後、新しい社人研推計として令和5（2023）年に公表された人口推計では、令和32（2050）年時点で32,141人と推計されました。
- この社人研推計（2023）をベースに、奈良県が公表する「推計人口調査」に基づく最新動向を反映させた趨勢予測人口では、令和7（2025）年時点で37,204人、令和42（2060）年時点で、32,980人となっています。

既往推計及び最新動向反映による葛城市の将来人口②



推計の考え方（趨勢人口）	
移動	社人研推計（2023）をベースに、2020年以降の移動動向を反映 その動向が今後も続くとした
出生	パラメータとしては、子ども女性比ではなく合計特殊出生率を採用 社人研推計（2023）をベースに算出した現状の合計特殊出生率が今後も続くとした
死亡	社人研推計（2023）のパラメータを採用

■ 趨勢人口をベースにした将来人口シミュレーション

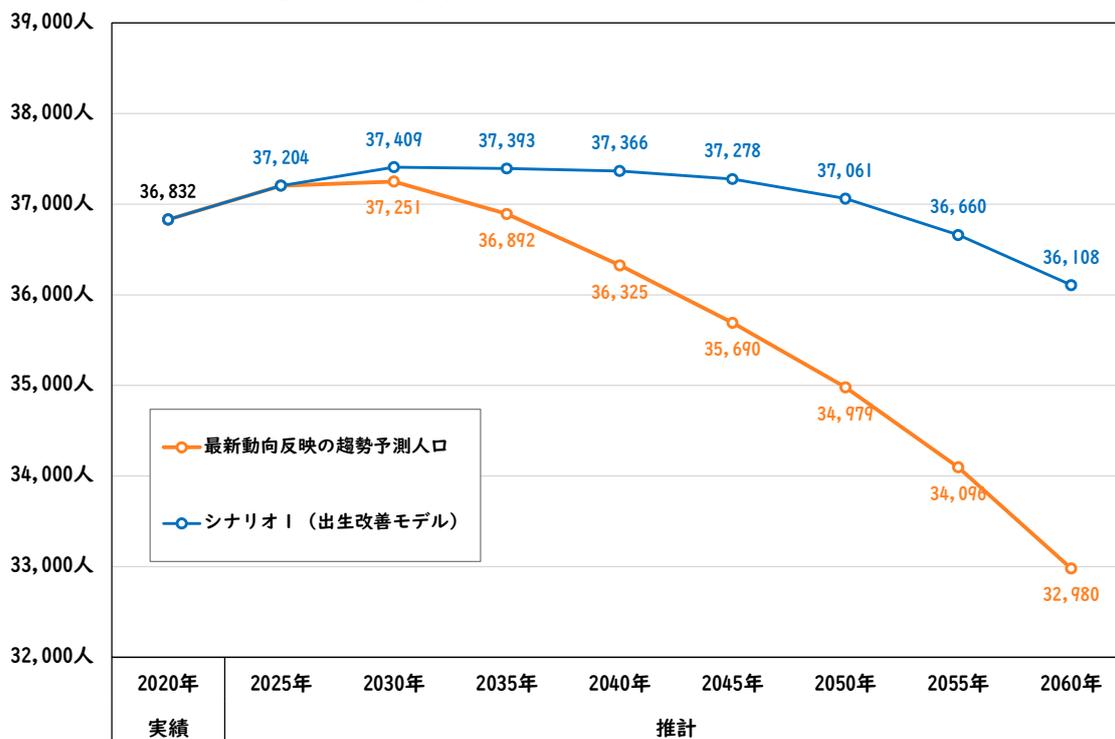
【シナリオ1 出生改善】

○シナリオ1では、合計特殊出生率の上昇を見込みつつ、移動に関しては、趨勢人口（現状）のまま推移することを想定したシミュレーションを行います。

推計の考え方（シナリオ1）	
移動	趨勢人口と同様
出生	令和22（2040）年に合計特殊出生率2.07を目指す
死亡	趨勢人口と同様

出生パラメータ	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
合計特殊出生率	1.52	1.70	1.89	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07

葛城市の将来人口シミュレーション（シナリオ1）



【シナリオ2 出生改善&移動改善】

○シナリオ2では、シナリオ1をベースに、移動に関して純定住率の改善を見込んだシミュレーションを行います。

推計の考え方（シナリオ2）	
移動	趨勢人口を基本としつつ、人口減を補う追加的転入があることを目指す
出生	シナリオ1と同様
死亡	趨勢人口と同様

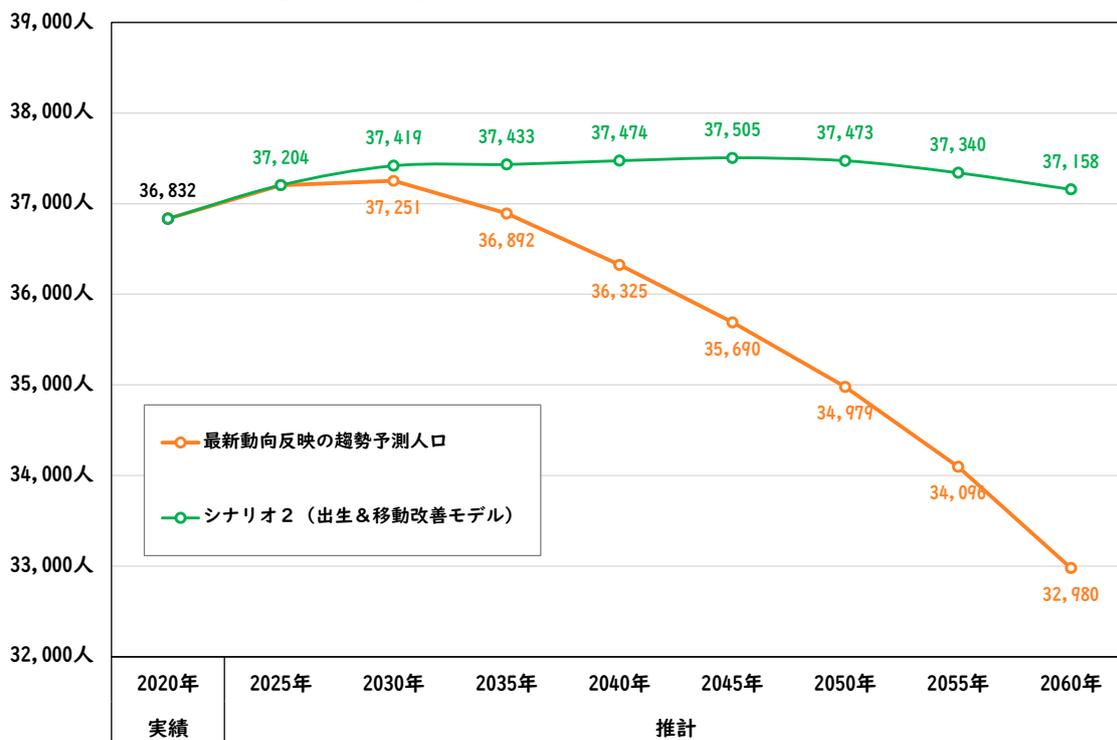
●追加的転入（人）

移動パラメータ	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
15～19歳 →20～24歳	—	1	3	6	10	15	21	28
20～24歳 →25～29歳	—	1	3	6	10	15	21	28
25～29歳 →30～34歳	—	1	3	6	10	15	21	28
30～34歳 →35～39歳	—	1	3	6	10	15	21	28

※追加的転入：趨勢人口で設定した移動に関するパラメータによる動向（社会動態）と合わせ、追加して転入する（社会増）人数。

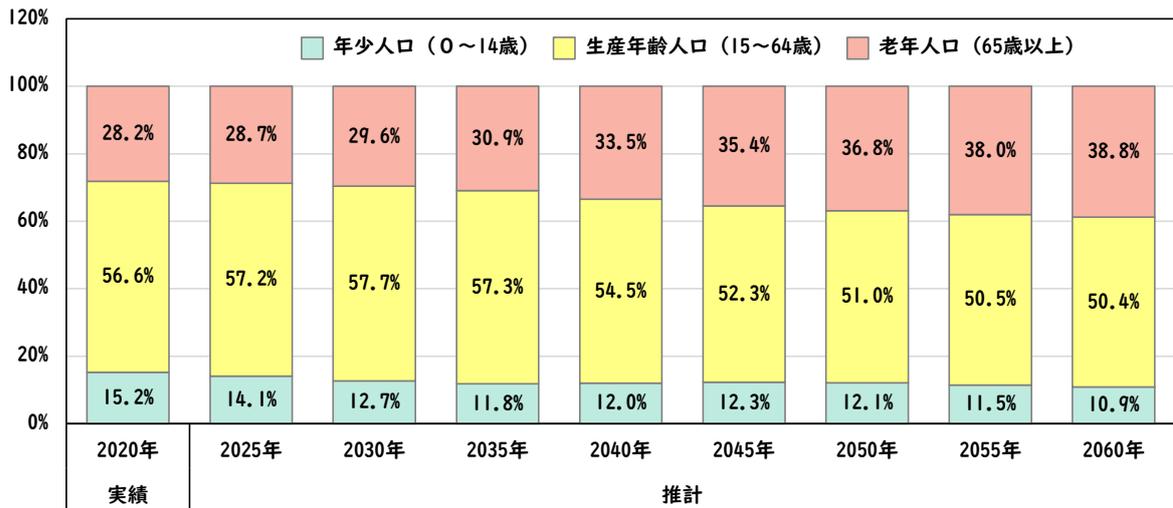
2025年の15～19歳区分人口が、2030年に20～24歳区分になる際に、男性1人女性1人合計2人が追加して転入するという想定。

葛城市の将来人口シミュレーション（シナリオ2）

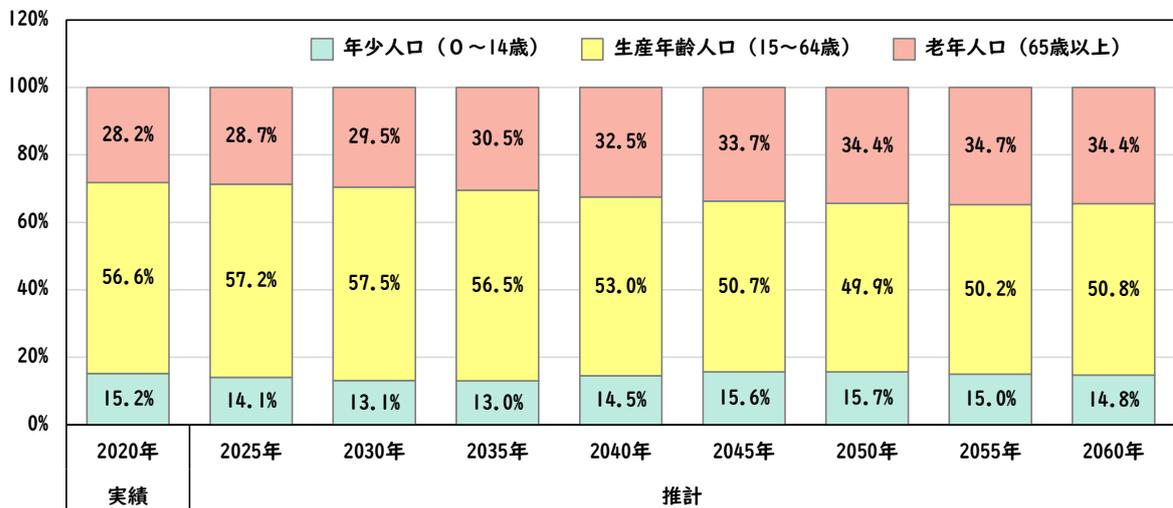


○趨勢人口とシナリオ2について年齢3区分別でみると、年少人口は増減はありますが、趨勢人口では2060年にかけて減少傾向が続き10.9%にまでなる予測ですが、シナリオ2では、維持を続け、14.8%となることを見込まれます。また老年人口については、趨勢人口・シナリオ2どちらについても増加傾向となることが想定されていますが、シナリオ2ではその増加を緩やかにし、2060年で34.4%と趨勢人口の38.8%より低い老年人口割合（高齢化率）となることを見込まれます。

年齢3区分別 葛城市の将来人口シミュレーション（趨勢人口）



年齢3区分別 葛城市の将来人口シミュレーション（シナリオ2）



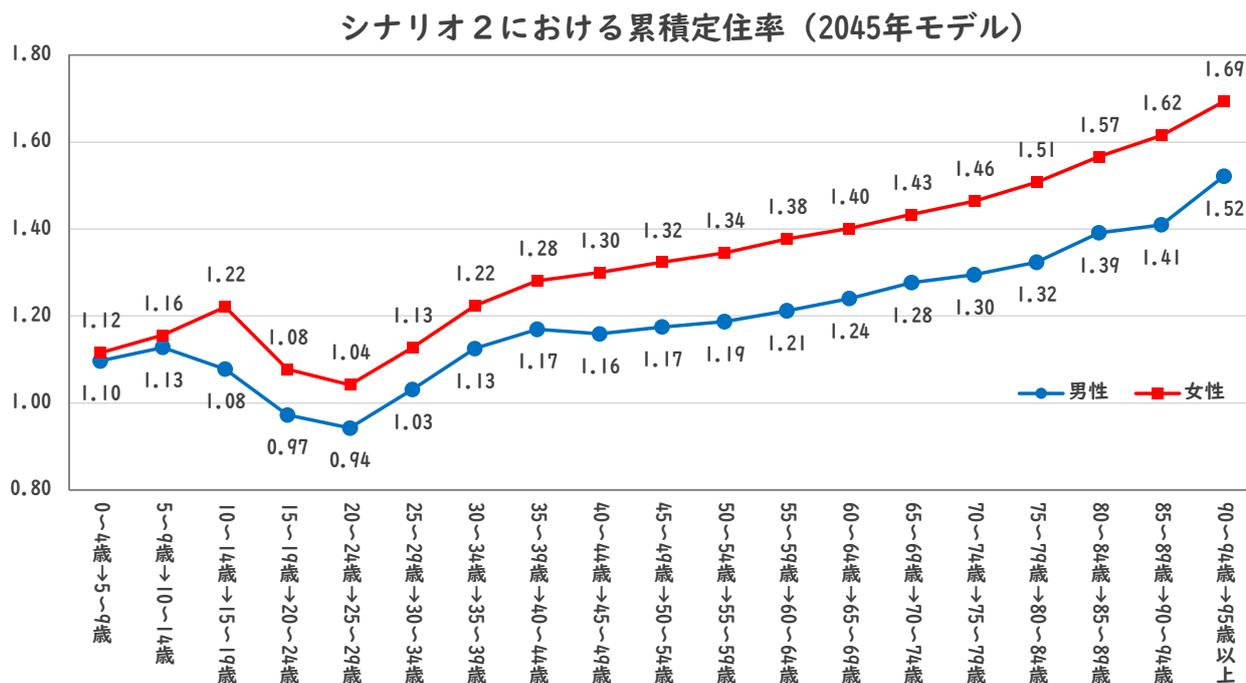
■ 将来人口シミュレーションにおける定住率

生涯定住率とは

- 移動パラメータについては、一般的に性別・年齢区分別の“純移動率”が用いられますが、ここでは、この純移動率にそれぞれ1を加算した値を“純定住率”として定義します。
- 例えば、2025年の男の“0～4歳→5～9歳”の純定住率を「1.2」としたとき、これは2020年の男の“0～4歳”が2025年に“5～9歳”になる間に、移動により人口が1.2倍になることを示しています。
- そして、年齢別の純定住率乗じたものを“累積定住率”、すべて乗じたものを“生涯定住率”と定義しました。これは葛城市の“0～4歳”人口が“90歳以上”になるまでに移動により何倍になるかを示す数字です。

【シナリオ2 出生改善における累積定住率（2045年モデル）】

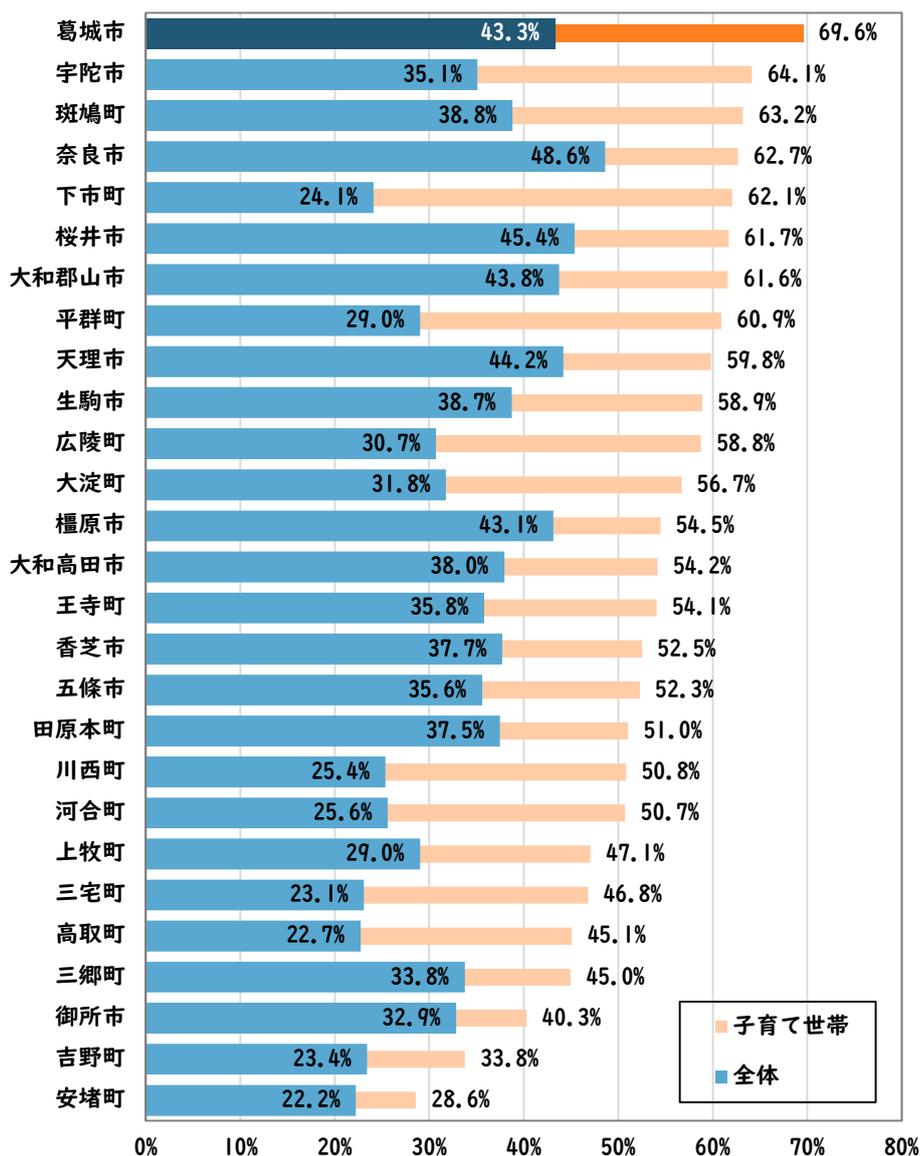
○Uターン等による移動の改善を図ることで、男女いずれにおいても25～29歳になるまでに生じる移動による人口減少（転出超過）を、35～39歳になるまでに回復することを目指します。



【参考 葛城市の定住に関する資料】

- 転居（引っ越し）する際は、当該自治体以外に移動する形と、同自治体内で転居する形がありますが、葛城市は奈良県内における自治体の中で、転居する際に同自治体を選択する割合が最も高くなっています。
- これは、転居する際に、葛城市から転出するのではなく、市内に残り定住し続けたいと考えている方の割合が高い傾向にあり、葛城市に住み続けることをメリットと多くの方が感じている可能性が高いです。

転居時の自治体内住み替え率



※令和2年国勢調査

葛城市総合計画・総合戦略等策定に向けた

アンケート調査結果報告書

速報

令和7年12月

葛城市

目次

第1章 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の実施概要.....	1
3. 回収状況.....	1
4. 調査結果の見方.....	2
第2章 アンケート調査結果（速報）.....	3

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

「葛城市総合計画」「葛城市総合戦略」等の策定にあたり、小中学生等のこどもたちを含む住民から今後の葛城市のまちづくりに向けたご意見やご意向を伺い、計画策定のための基礎資料とすることを目的に調査を行いました。

2. 調査の実施概要

アンケート調査の実施概要は次のとおりです。

調査の対象	調査期間	実施方法
18歳以上の住民 3,000人 無作為抽出	令和7年 9月上旬～10月下旬	○郵送での配布・回収 (調査票に二次元コードを記載し、 WEBでの回答も可とした) ○市ホームページにて案内 WEBでの回答
葛城市内の学校に通う 小学5・6年生 739人 中学生 1,160人 (全数) 15～17歳の高校生世代 1,223人 (全数)		○小中学生 学校にて実施・WEBでの回答 ○高校生世代 はがきにて案内・WEBでの回答

3. 回収状況

アンケートの回収状況は次のとおりです。

調査の種類	有効回収数	総回収数／回収率
住民アンケート	●紙での回答 830票	●総回収数 1,556票 ●回収率(紙+WEB) 49.5%
	●WEBでの回答 656票	
	●HPでの回答 70票	
小中学生・高校生世代 アンケート	●小学生 671票 (90.8%)	●総回収数 1,820票 ●総回収率 58.3%
	●中学生 893票 (77.0%)	
	●高校生世代 256票 (20.9%)	

4. 調査結果の見方

- ◇各設問の設問文やカテゴリー（選択肢）等について、その意味を損なわない程度に表現を簡略化している場合があります。
- ◇タイトルの横には、質問形態を記載しています。

(単数回答)：「1つに○」など選択肢を1つ選ぶ質問形態
(複数回答)：「あてはまる番号すべてに○」など2つ以上の選択を選ぶ質問形態
(数量回答)：日数や時間、回数などの数値・数量を記入する質問形態
(自由記述)：文字記述回答

- ◇設問に対し回答する方が限られる場合は、質問形態の横に、回答する方を限定する内容を記載しています。(例【近所付き合いがない・少ない方限定】)
- ◇各設問において、単純集計グラフと必要に応じて属性等別のクロス集計表(今後追記)を記載しています。
- ◇クロス集計表は、上段が回答件数(票数)、下段が割合を示しています。また、トップ1項目のセルに[]で着色しています。
- ◇設問によって、前回調査との比較を記載しています。

前回調査概要：平成27年9月頃実施。
対象者は今回調査同様であるが、配布・回収は郵送のみとなる。

- ◇各グラフの“n”は、当該設問に回答すべき方(回答対象者)の人数を示しています。
- ◇集計結果のグラフ・表における“無回答”は、当該設問への無回答の他、回答規則違反(例えば、単数回答の設問における複数回答など)の件数(票数)を示しています。
- ◇“非該当”は、その設問の回答者に該当しない件数(票数)を示しています。
- ◇数表やグラフにおいては、原則として各集計数の総回答対象者数に対する比率を表示しています。
- ◇集計は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合や、合計と内訳が合わない場合があります。

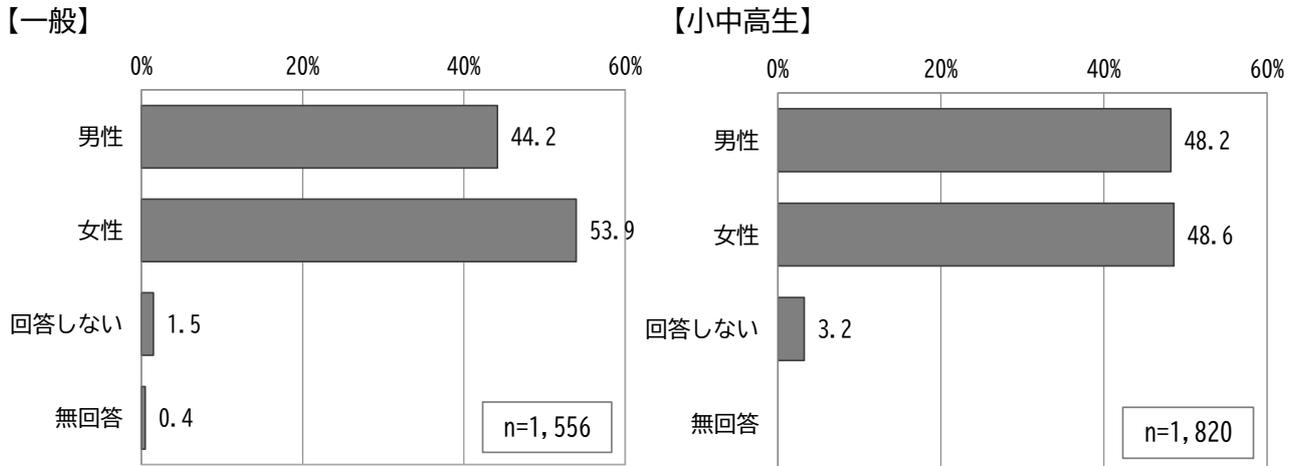
住民アンケートの標本誤差について

調査対象母集団規模に対して、信頼度95%の条件(仮に同じアンケートを100回実施した場合、95回は同様の結果を得るということ)の下で、今回の回収数(標本数)での標本誤差(母集団での結果と標本から得られる結果の値の差)について検証してみると、最大標本誤差は住民アンケートで±2.4(どの設問についても2.4%以内の誤差に収まっているということ)、小中高生アンケートで±1.5となっている。

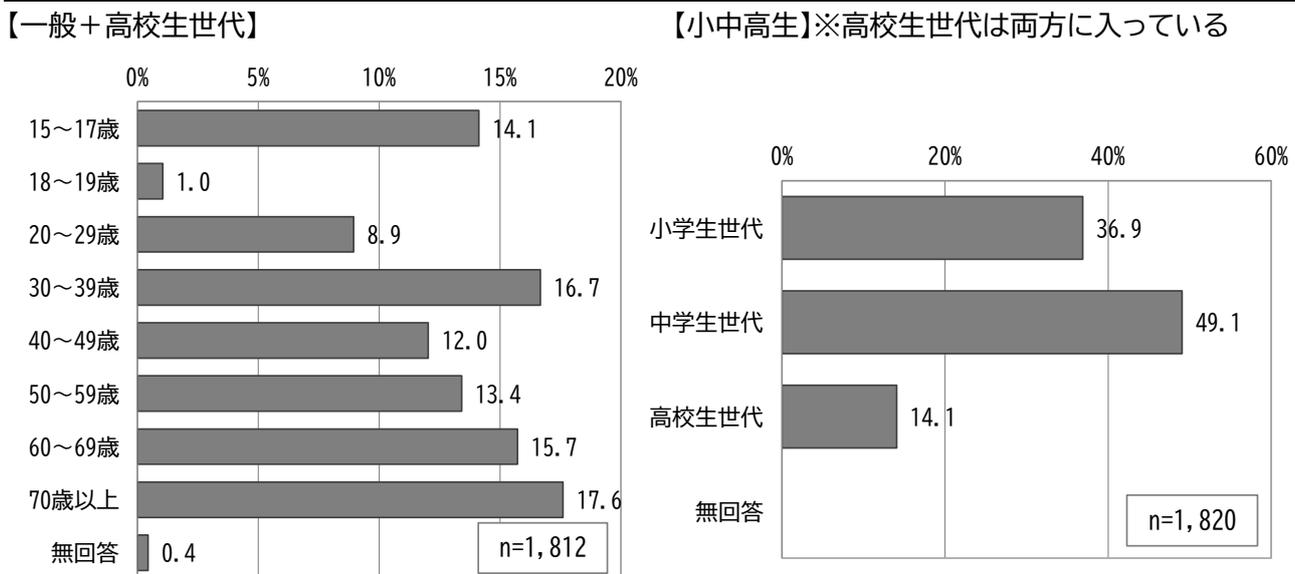
※標本誤差は一般に、「±5.0%未満」で優位性が担保される。

第2章 アンケート調査結果（速報）

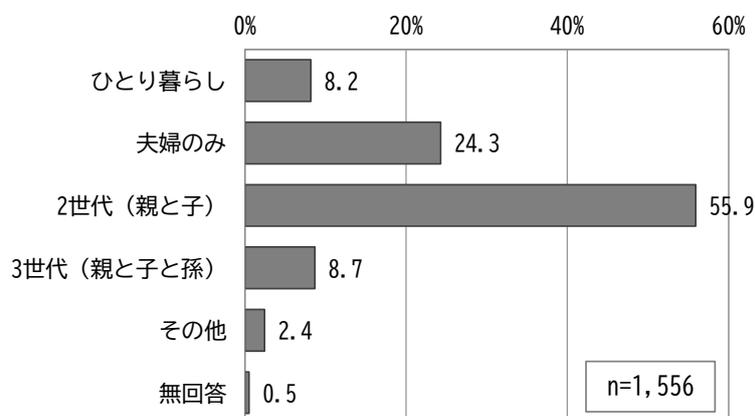
一般問1 / 小中高生問1. あなたの性別を教えてください。（単数回答）



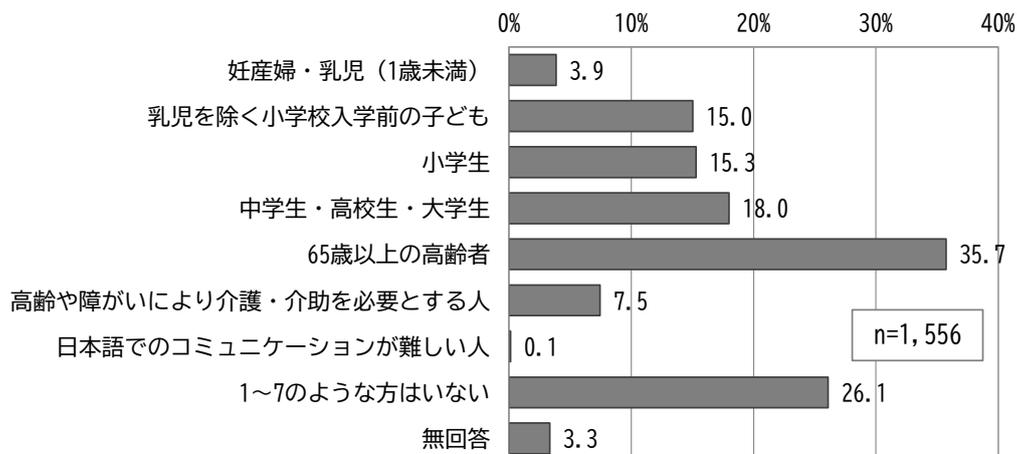
一般問2 / 小中高生問2. あなたの年齢（世代）を教えてください。（単数回答）



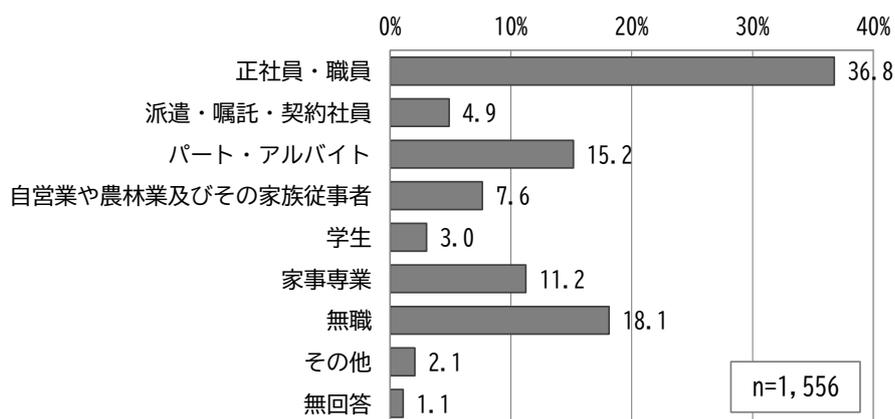
一般問3. あなたの世帯構成は、次のどれにあてはまりますか。（単数回答）



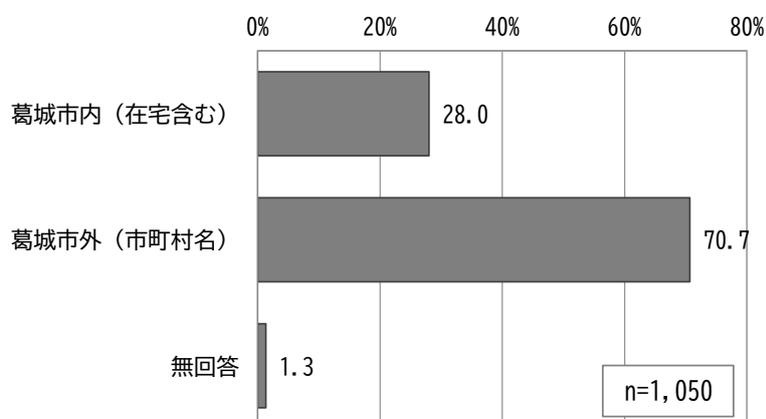
一般問4. 現在一緒に住んでいる家族（回答者本人も含む）に、次のような方はいらっしゃいますか。（複数回答）



一般問5. あなたの現在のお勤めの状況は、次のどれにあてはまりますか。（単数回答）



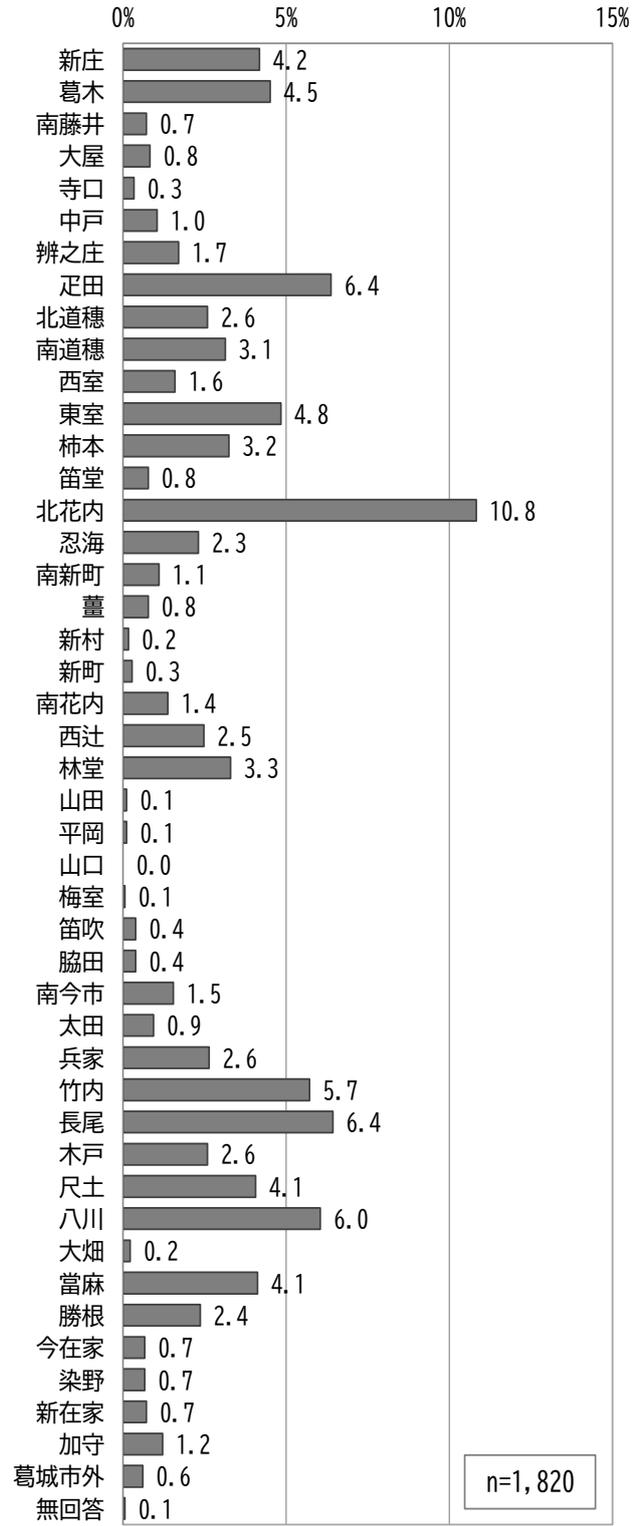
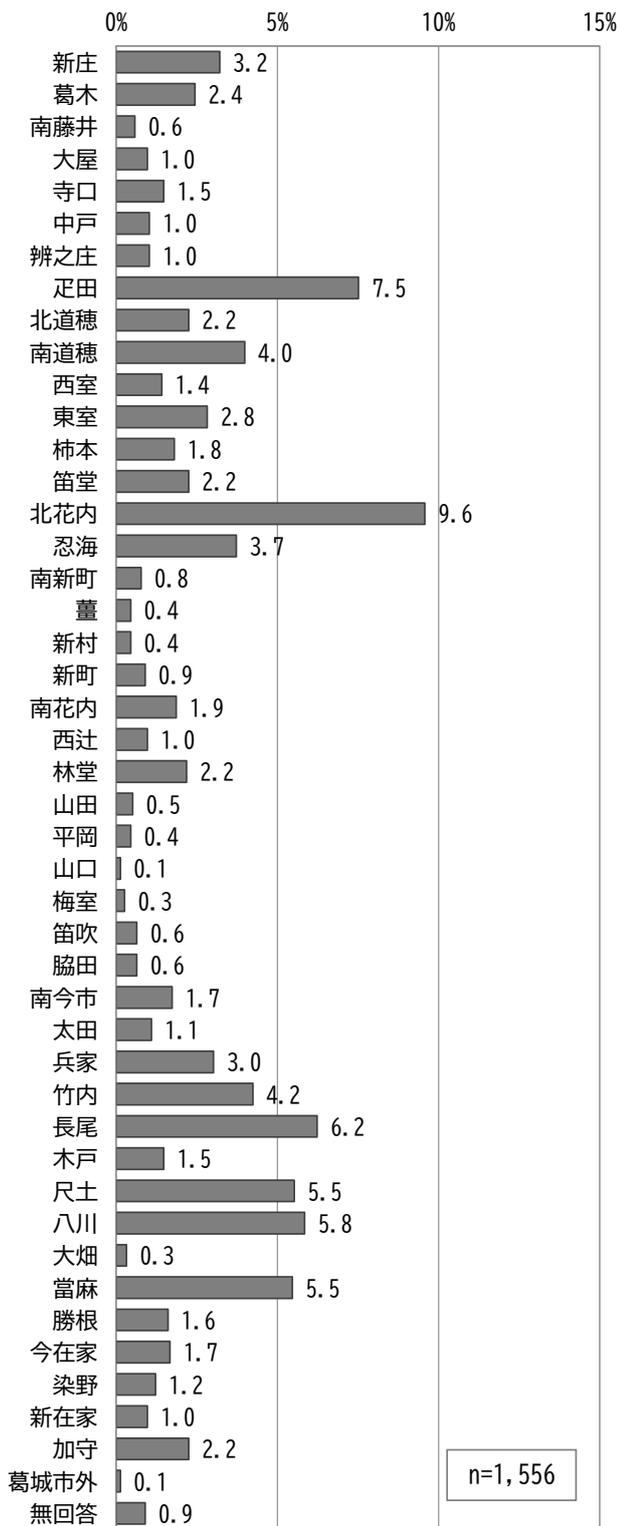
一般問6. あなたの勤務地・通学先はどこですか。（単数回答）【就労者・通学者のみ】



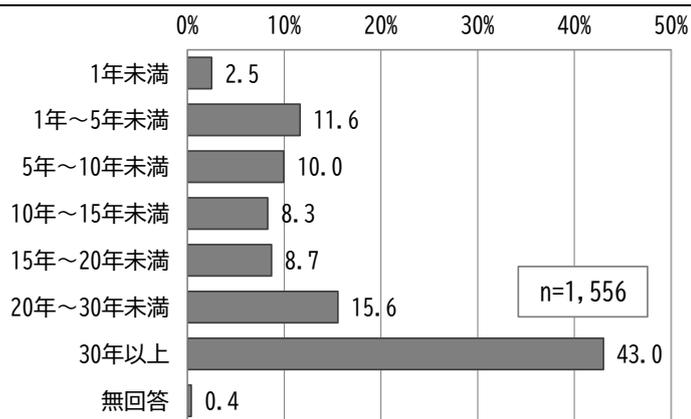
一般問7／小中高生問6.あなたのお住まいの地域(大字)はどこですか。(単数回答)

【一般】

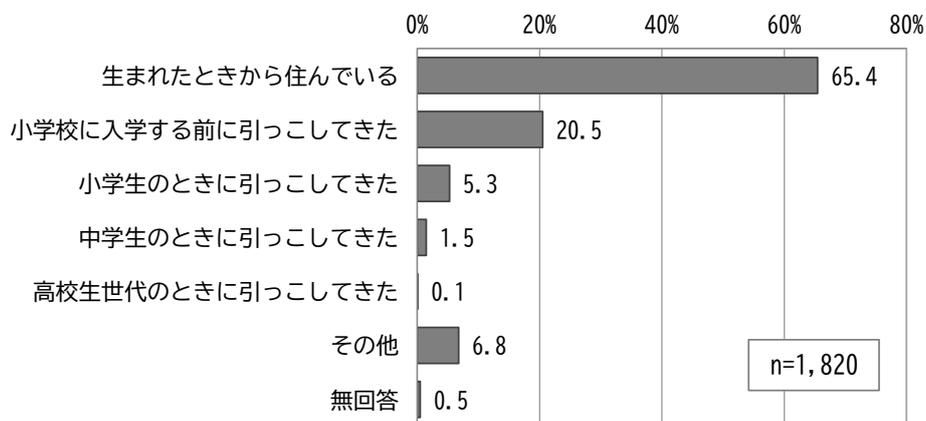
【小中高生】



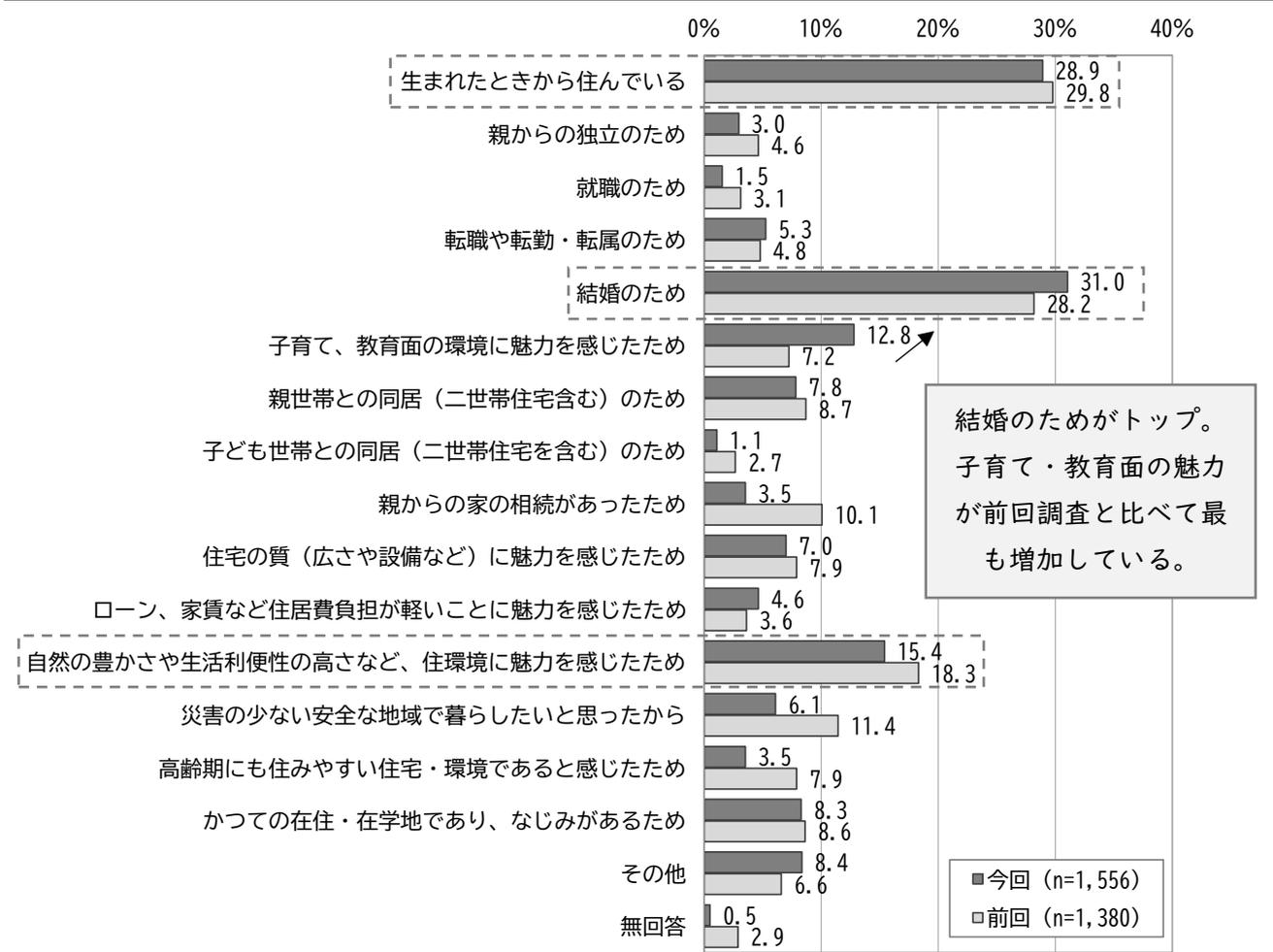
一般問8. あなたは、葛城市にお住まいになって何年になりますか。以前に住んでいて、再び転居してきた場合は、再転居してからの年数をお答えください。(単数回答)



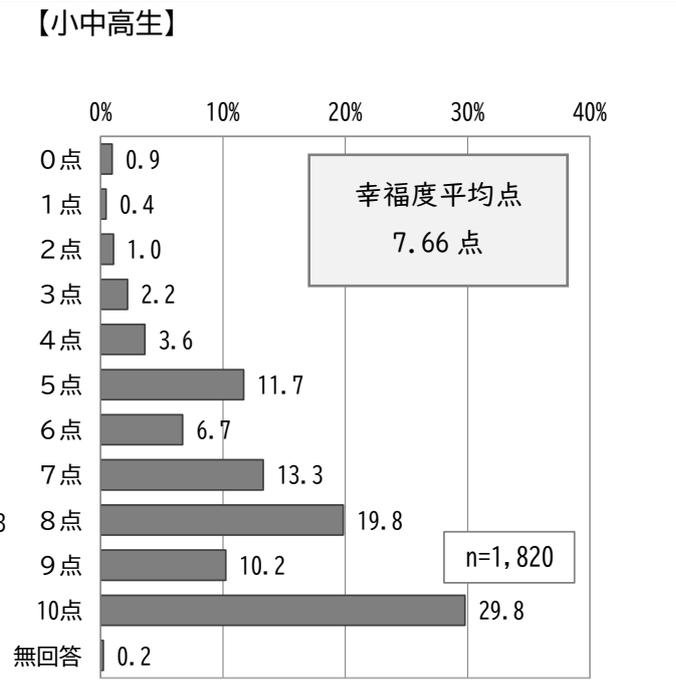
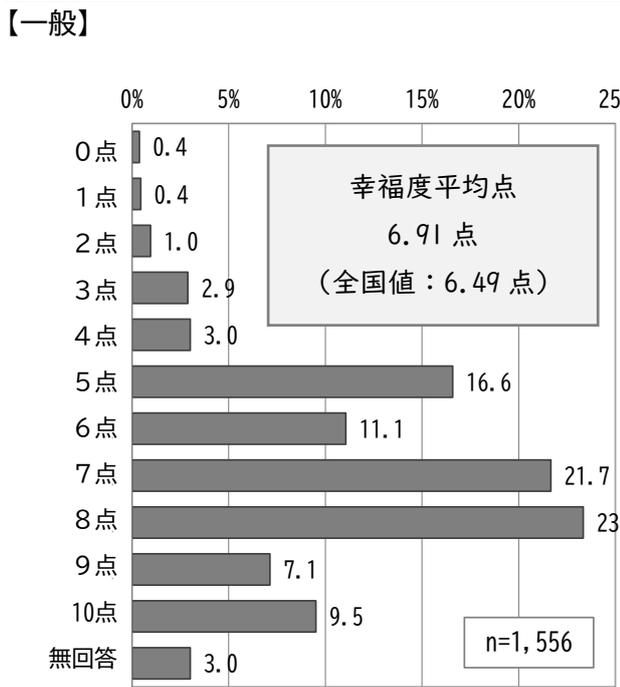
小中高生問7. あなたは、いつから葛城市に住んでいますか。(単数回答)



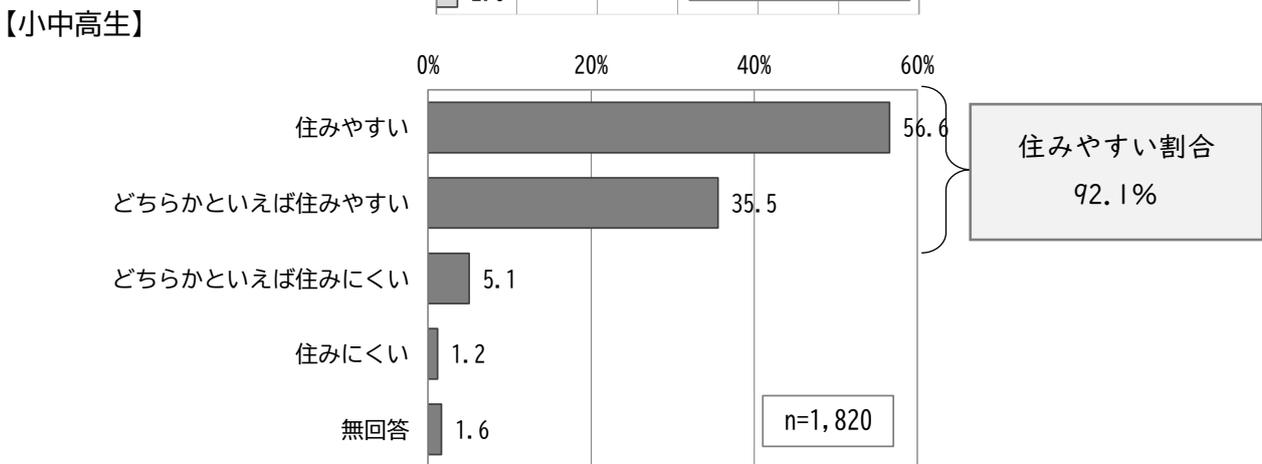
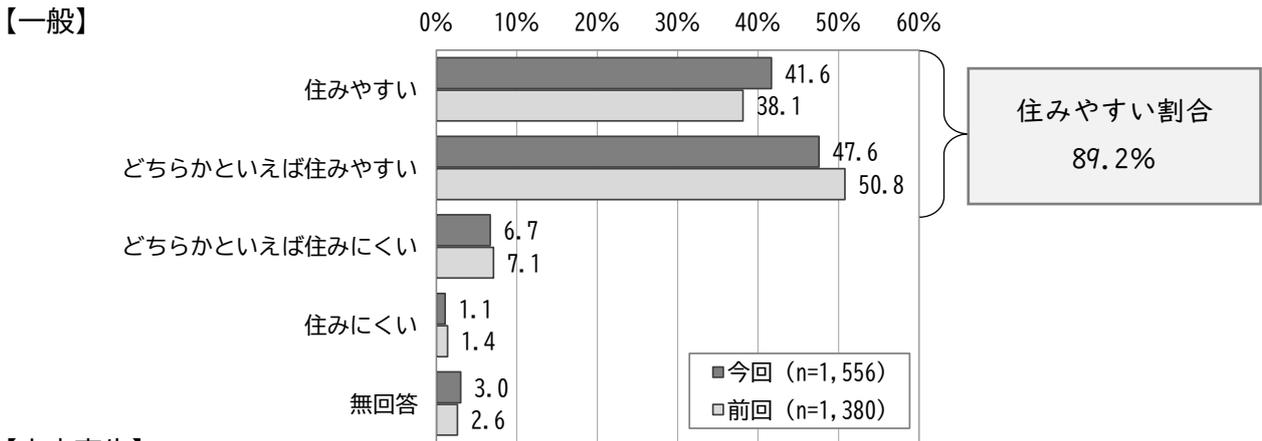
一般問9. 葛城市に居住するきっかけは何でしたか。(複数回答)



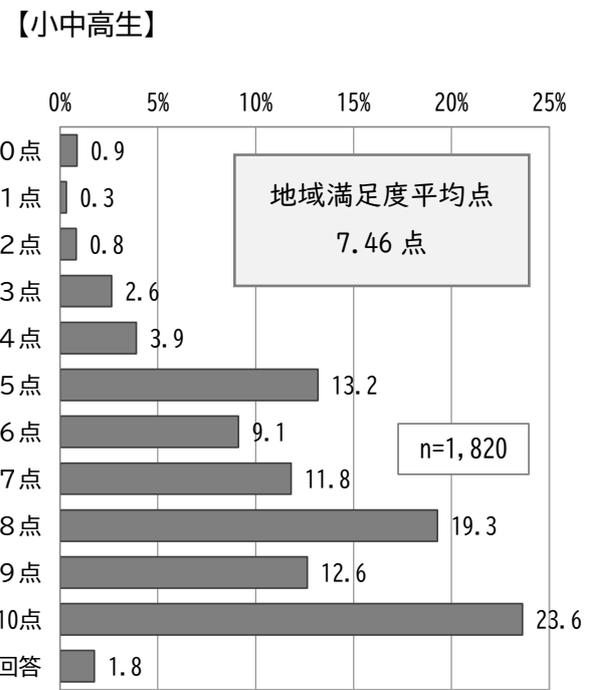
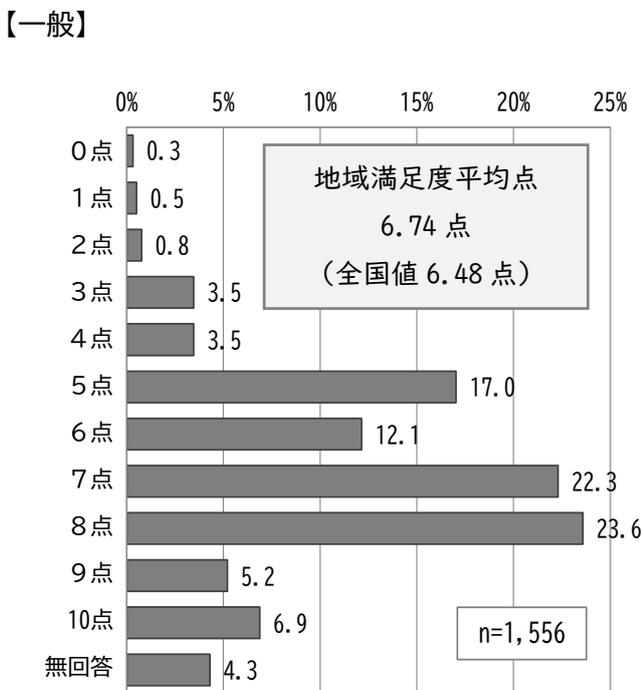
一般問10/小中高生問8. あなたの現在の幸福度をお答えください。(単数回答)



一般問 13／小中高生問 9. 葛城市の住み心地についてどのように感じていますか。(単数回答)



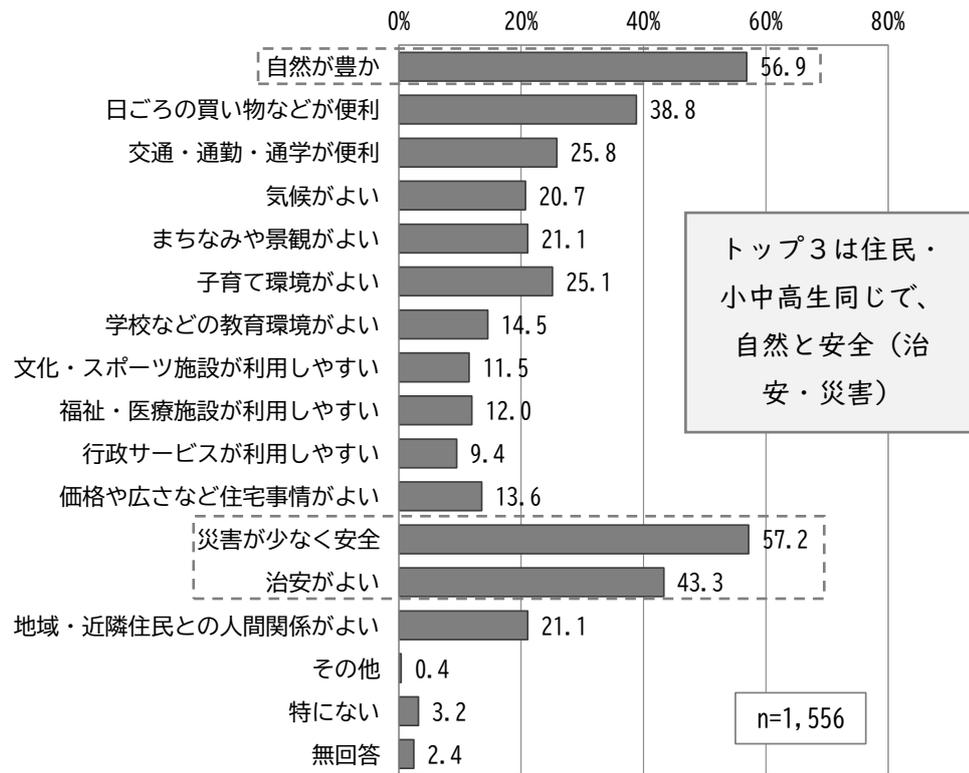
一般問 14／小中高生問 10. あなたの現在の葛城市の暮らしへの満足度をお答えください。(単数回答)



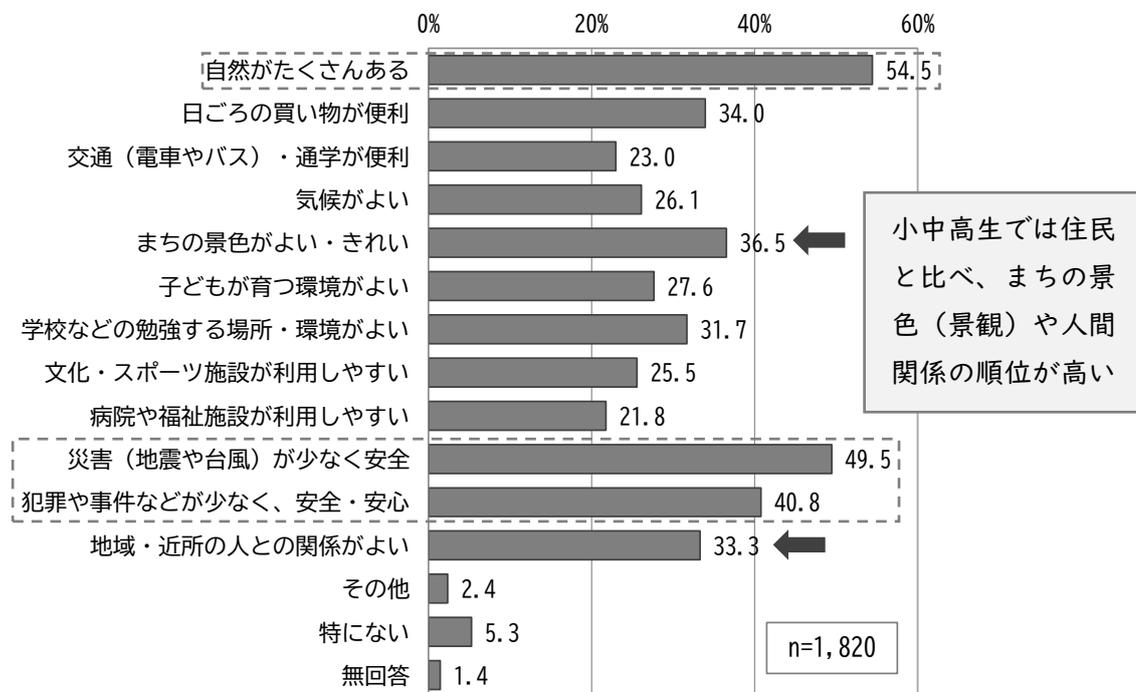
一般問 15／小中高生問 11. あなたが感じている葛城市の良い所と悪い所を教えてください。(複数回答)

●良い所

【一般】

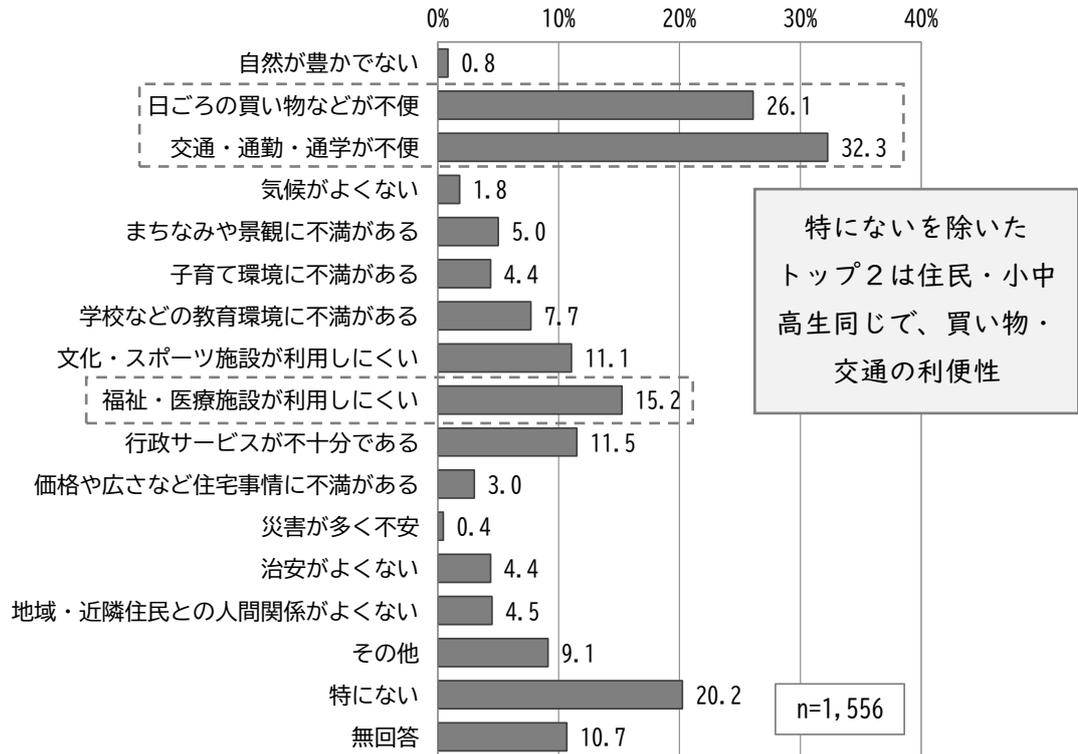


【小中高生】

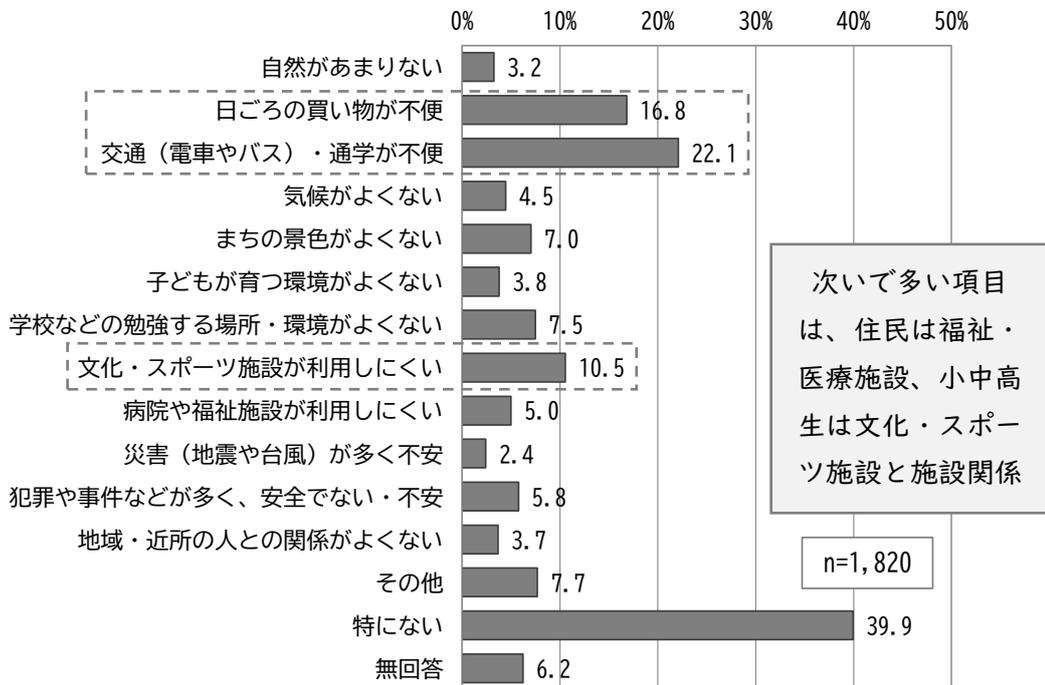


●悪い所

【一般】

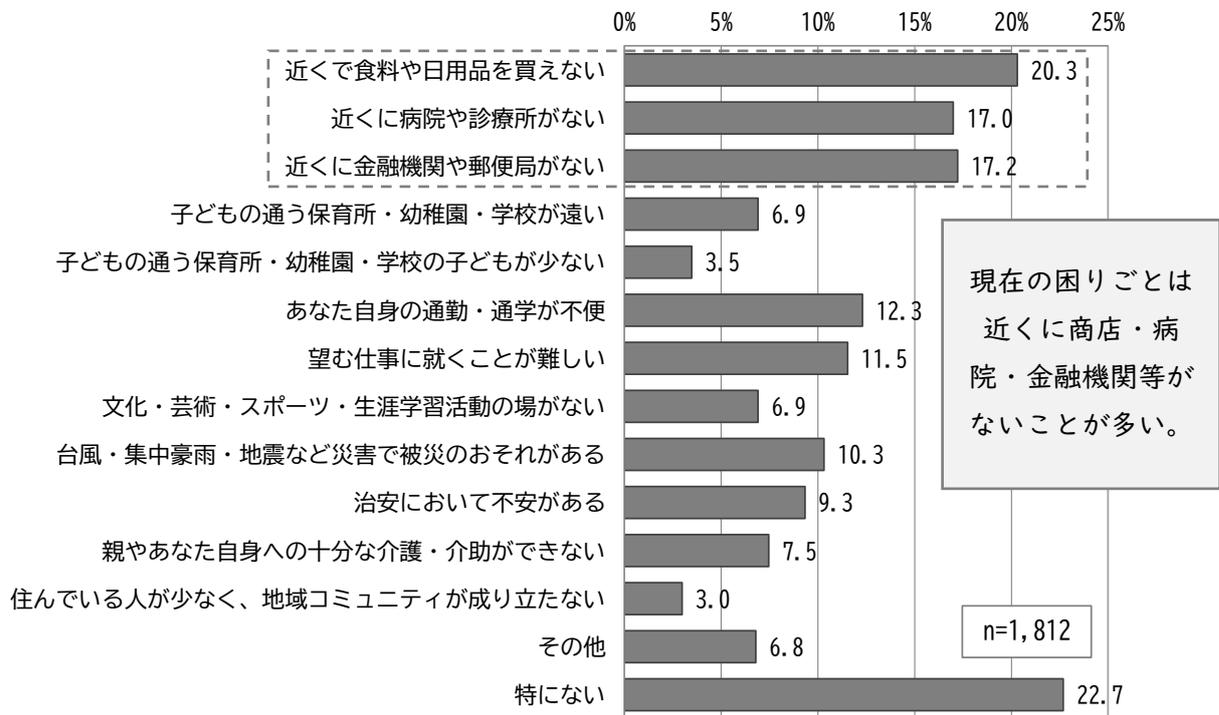


【小中高生】

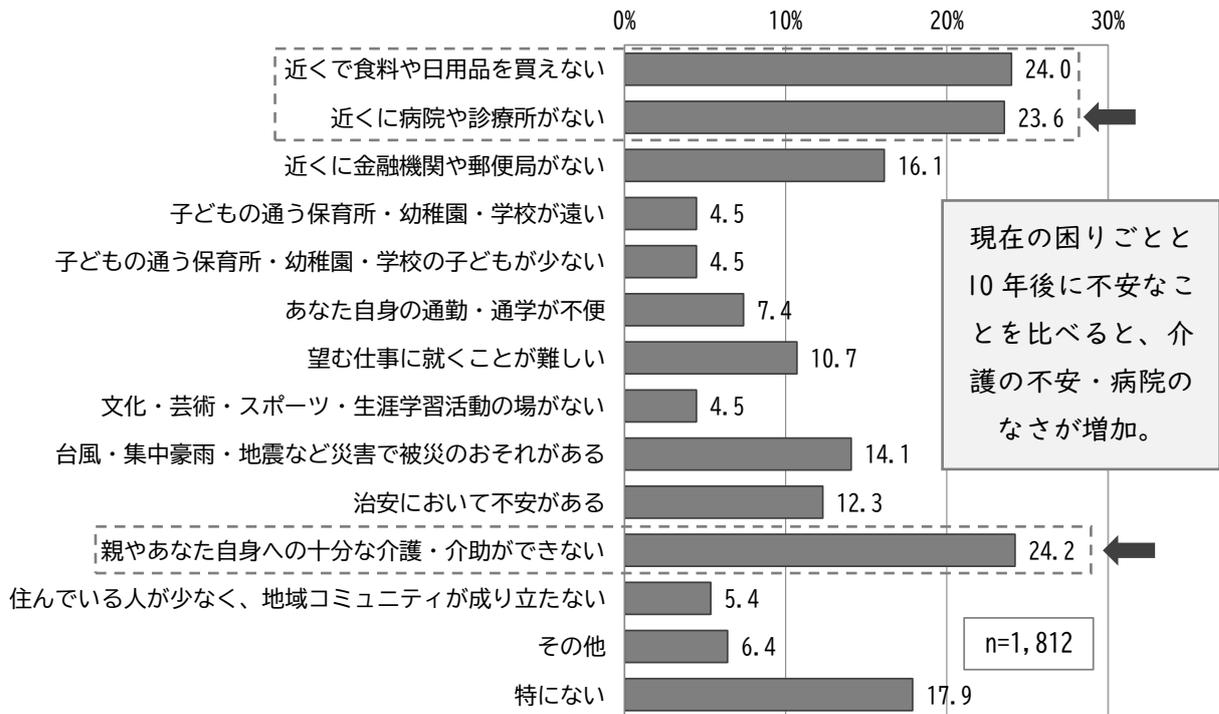


一般問 16／高校生問 12. 生活する上で、「現在お困りのこと・不安なこと」「10年後の生活を考えたとき不安なこと」はありますか。(複数回答)

●現在不安なこと

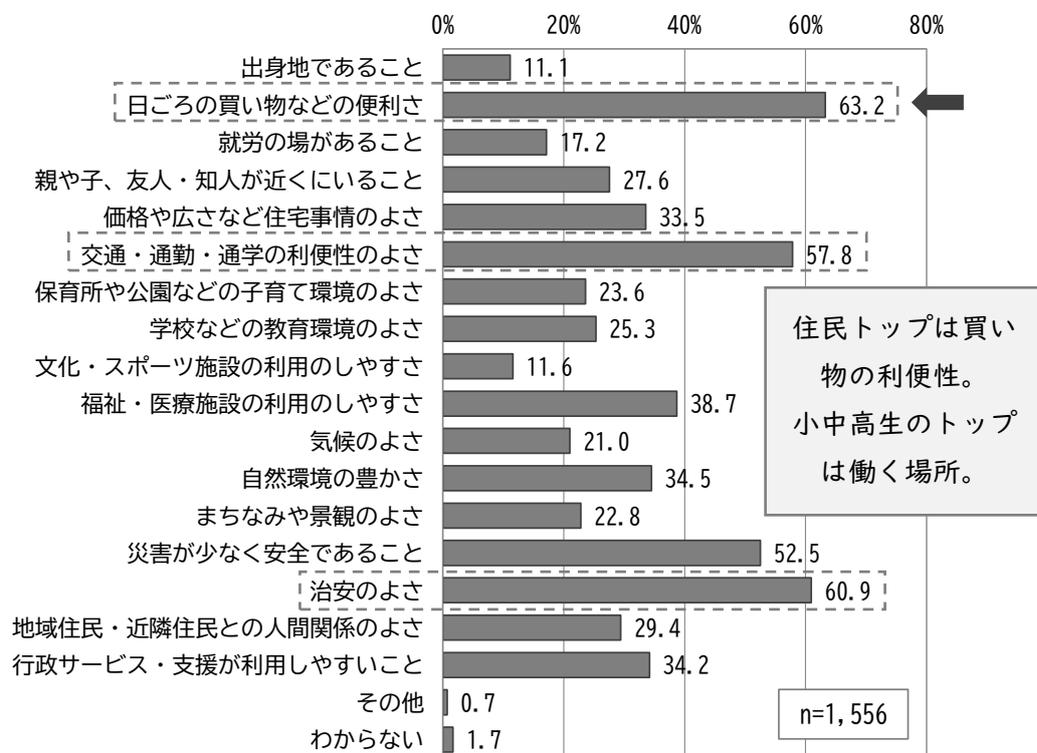


●10年後不安なこと

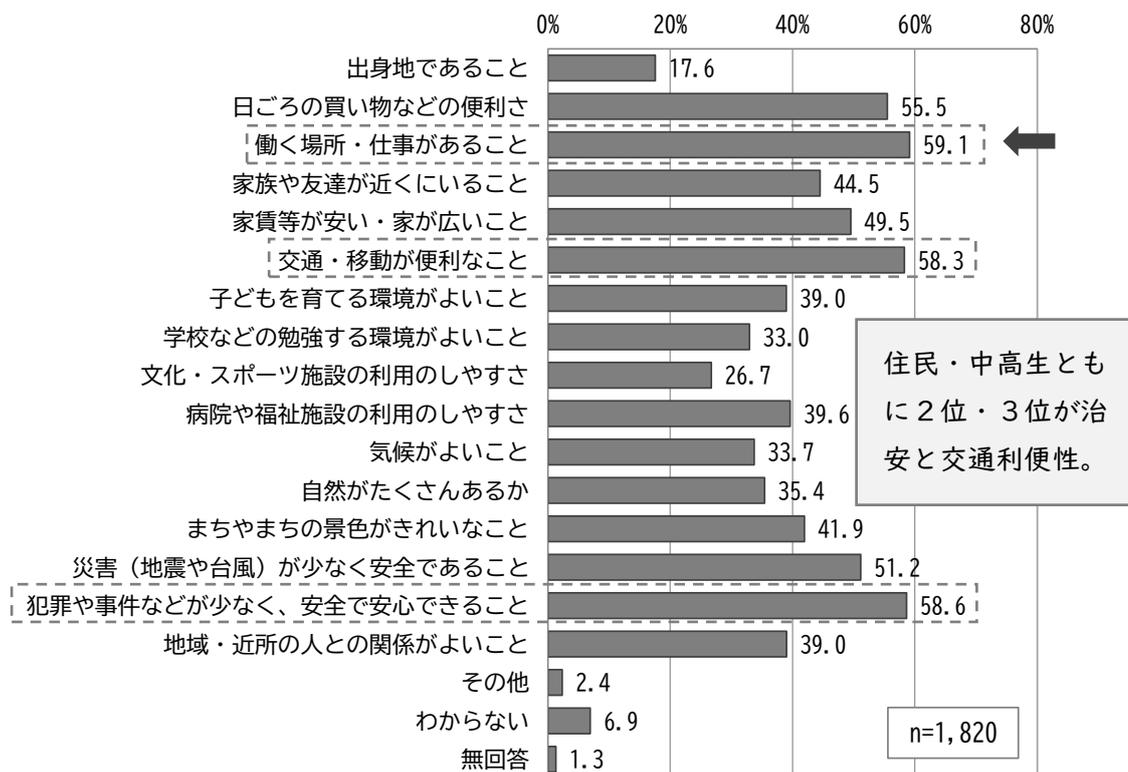


一般問 17／小中高生問 14. あなたが住まいの場所を選択する際に特に重視することは何ですか。(複数回答)

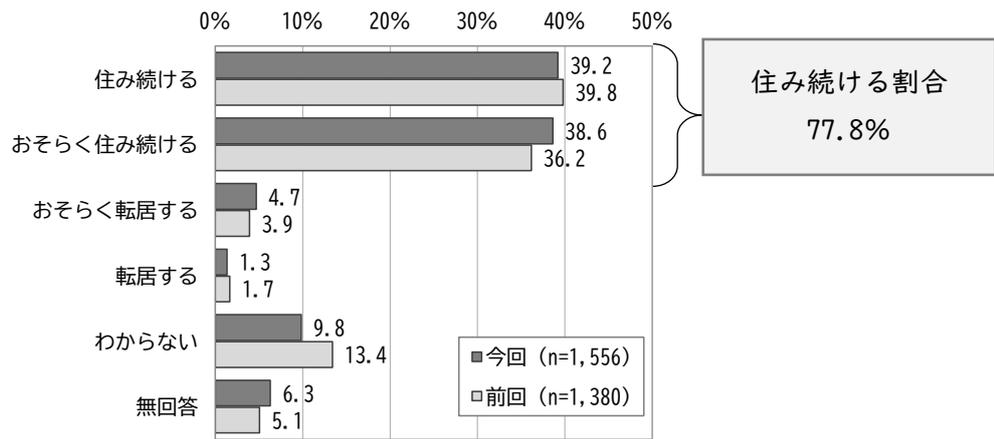
【一般】



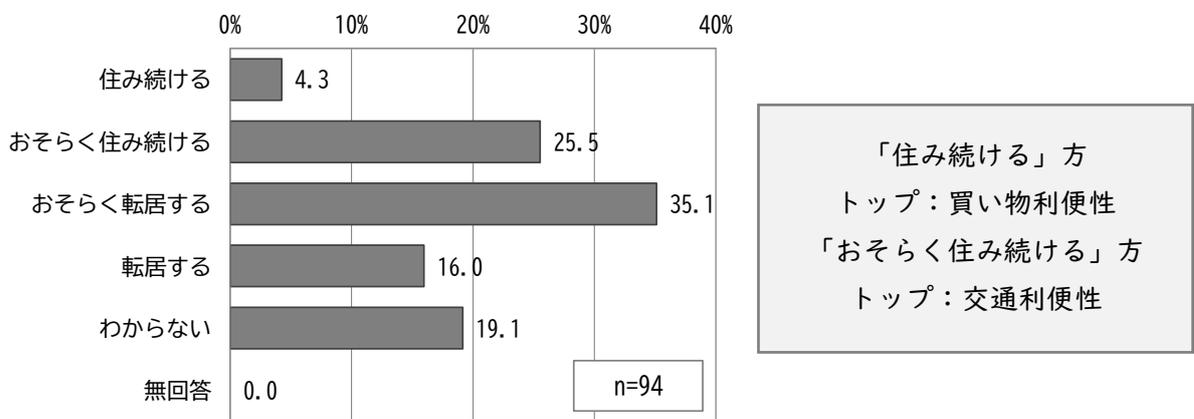
【小中高生】



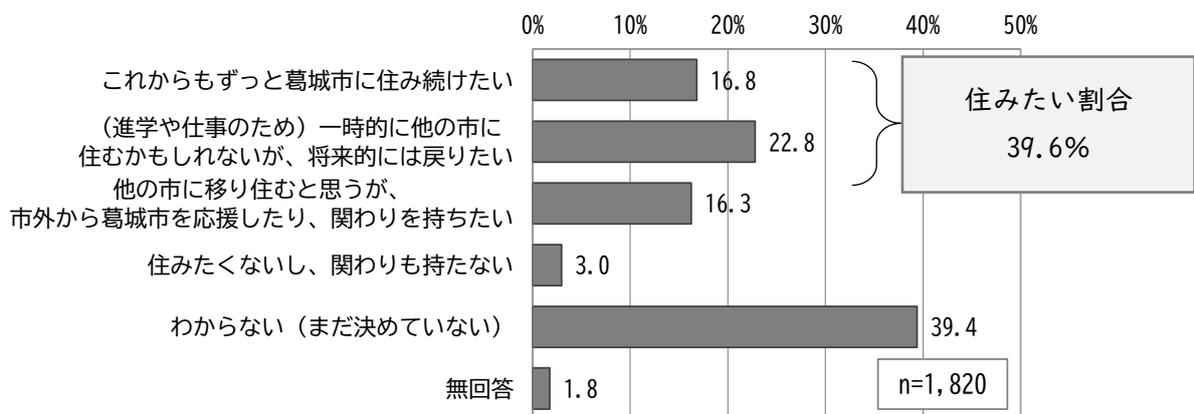
一般問 18. あなたは、これからもずっと葛城市に住み続ける予定ですか。(単数回答)



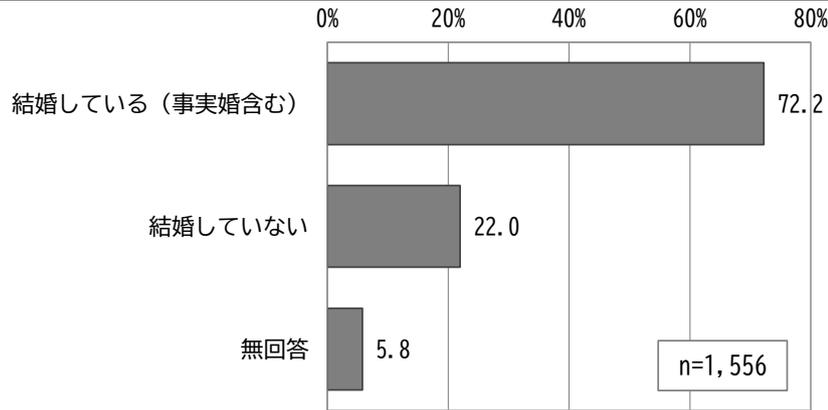
一般問 19. 問 17 で選択した特に重視する項目が葛城市で向上すれば、これからも葛城市に住み続けたいと思いますか。(単数回答)【転居予定の方限定】



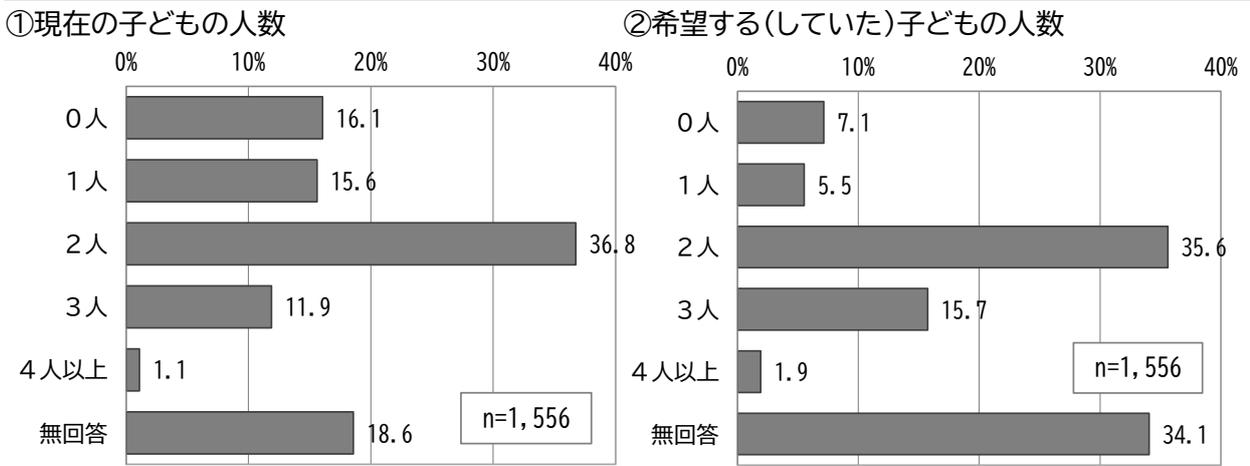
小中高生問 13. あなたは将来、葛城市に住みたいと思いますか。(単数回答)



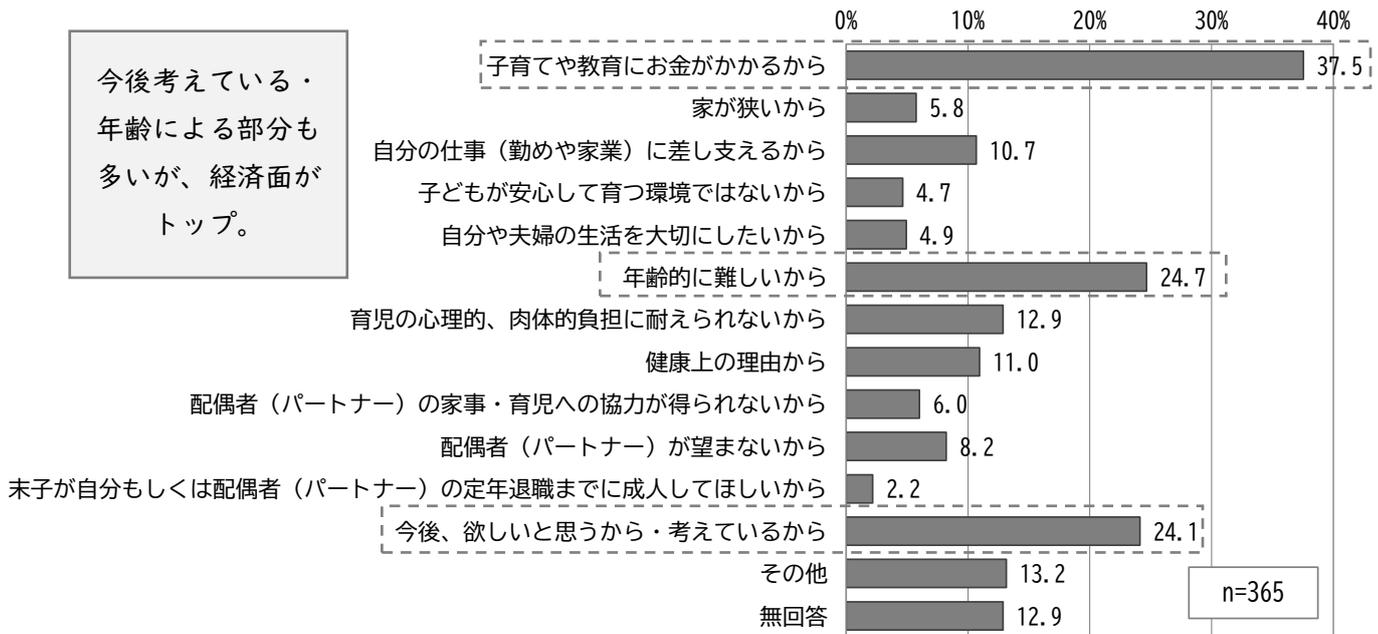
一般問 20. 現在あなたは結婚していますか。(単数回答)



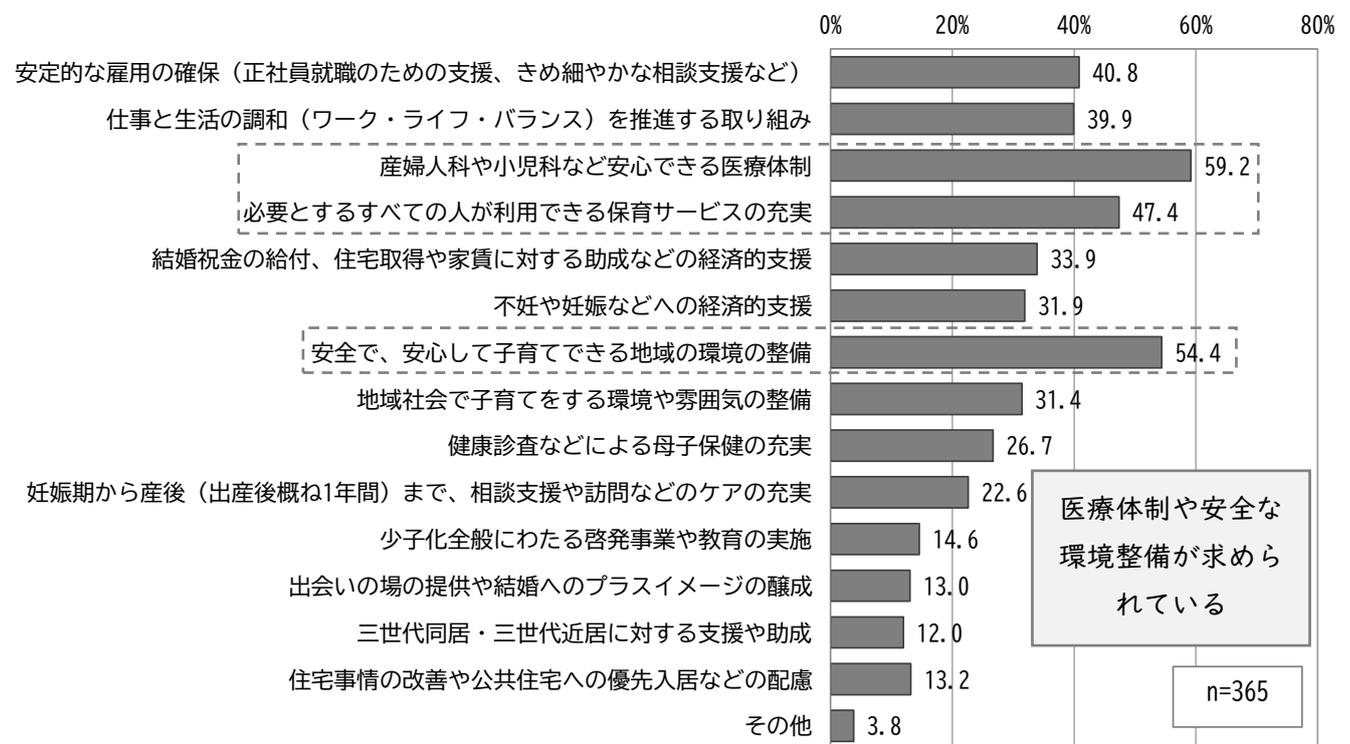
一般問 21. あなたやご夫婦の、子ども (18 歳以上も含む) の状況についてお答えください。(単数回答)



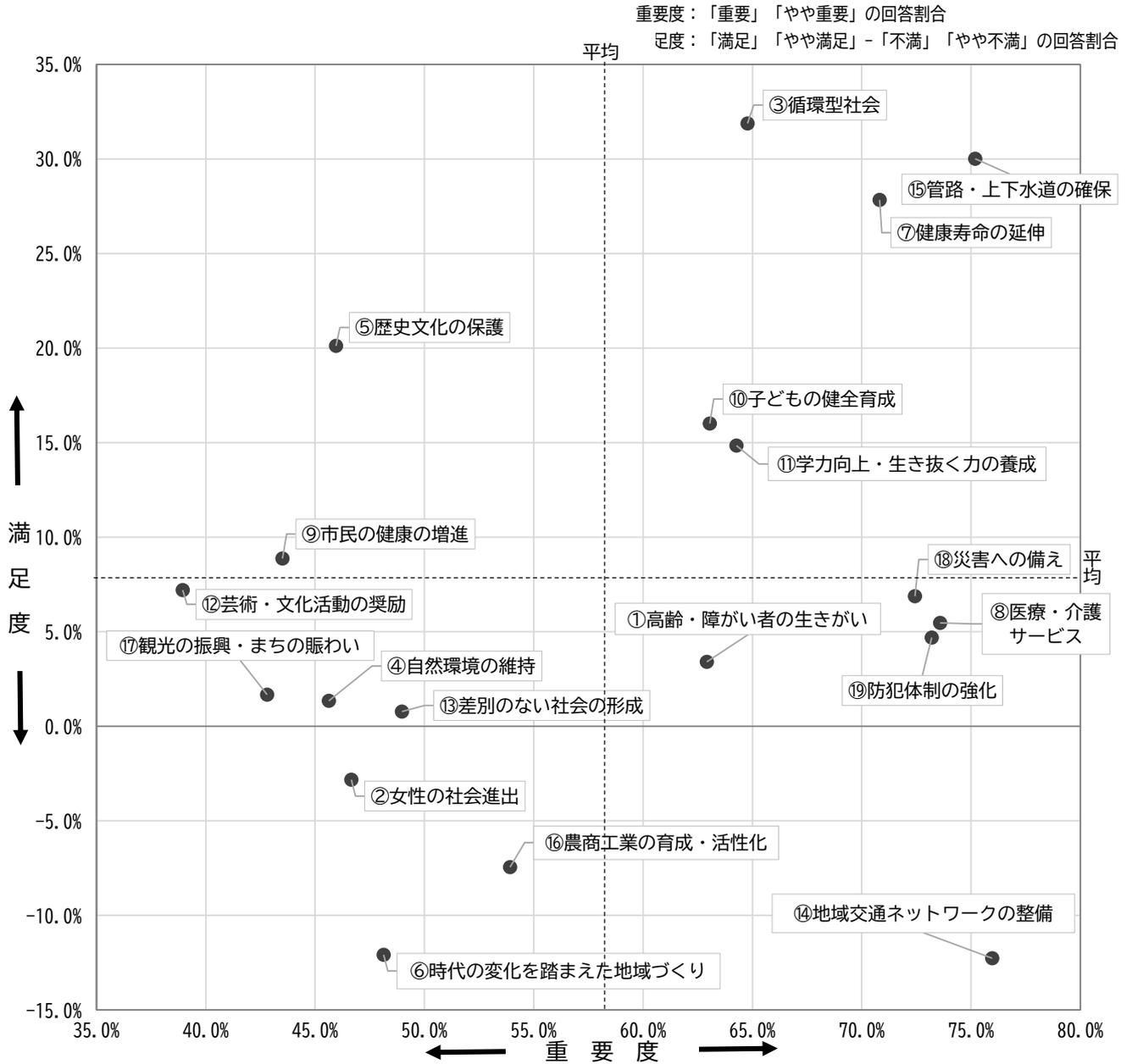
一般問 22. 現在の人数と希望の人数に差がある (少ない) 理由を教えてください。(複数回答)【希望より少ない方限定】



一般問 23. 葛城市で、誰もが望む結婚・出産・子育てを実現するためには、どのような支援が必要だと思いますか。(複数回答)



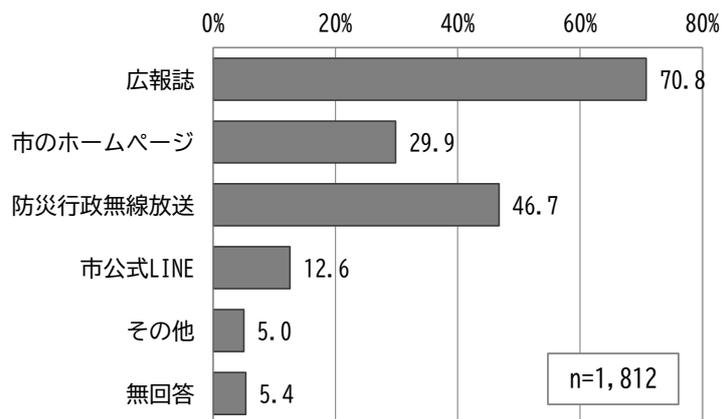
一般問 24. 現在葛城市では、様々な施策に取り組んでいます。あなたは、次の施策についてどの程度満足していますか。また、今後どの程度重要になるとお考えですか。（単数回答）



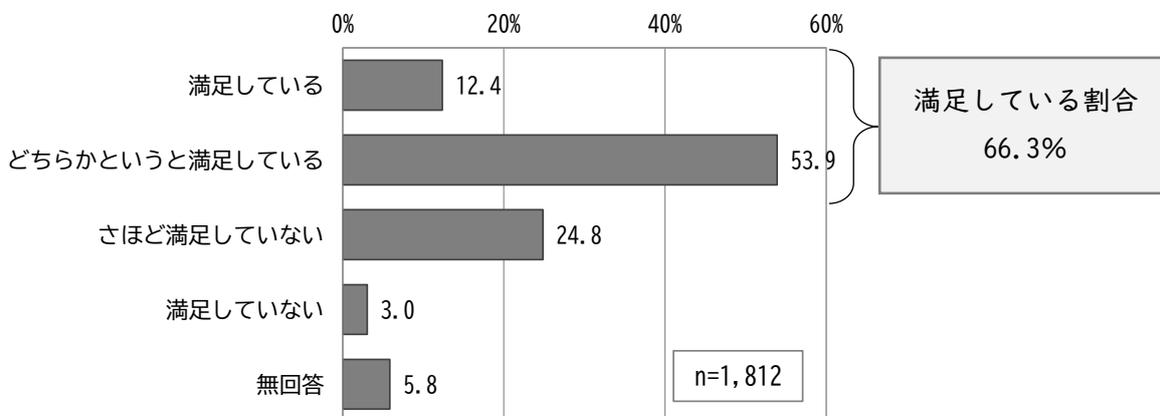
- ① 高齢者や障がい者が生きがいをもって暮らせるようにする
- ② 女性が積極的に社会進出できる社会を形成する
- ③ 循環型社会を形成し、ごみの減量化を進める
- ④ 森林や河川等の自然環境の維持・景観形成に努める
- ⑤ 歴史や文化の保護・活用を図る
- ⑥ 時代の変化を踏まえた地域づくりを進める
- ⑦ 未病・予防と重症化防止の取組を通じた健康寿命の延伸
- ⑧ 安心して医療・介護サービスが受けられる体制づくり
- ⑨ 運動の場の形成を通じた市民の健康の増進
- ⑩ 子どもの健全な育成に対する各種支援を行う
- ⑪ 基礎学力の向上や社会を生き抜く力の養成を進める

- ⑫ 芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する
- ⑬ 人権教育により差別のない社会を形成する
- ⑭ 基幹道路や駅前道路、地域交通ネットワークの整備を進める
- ⑮ 管路の整備・補修を進めて安定的な上下水道の利用を確保する
- ⑯ 農商工業の地場産業を育成し、活性化させる
- ⑰ 観光業の振興によるまちの賑わい創出
- ⑱ 自然災害や火災等に対する備えを十分なものにする
- ⑲ 地域の防犯体制を強化し、犯罪の発生を抑止する

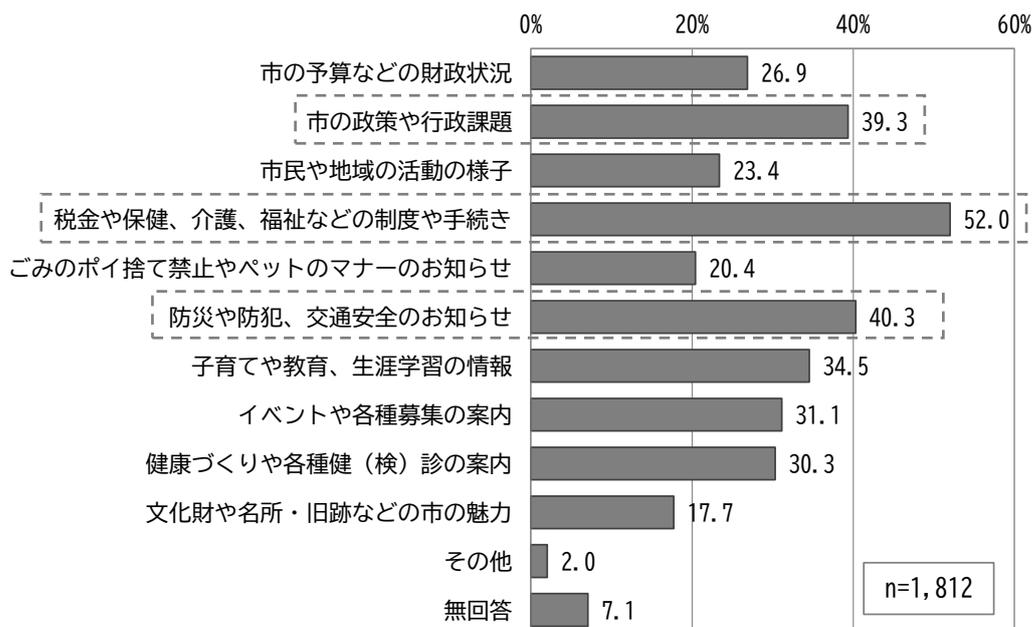
一般問 25／高校生問 17. 通常時や緊急時に関わらず、市の情報の主な入手手段は何ですか。(複数回答)



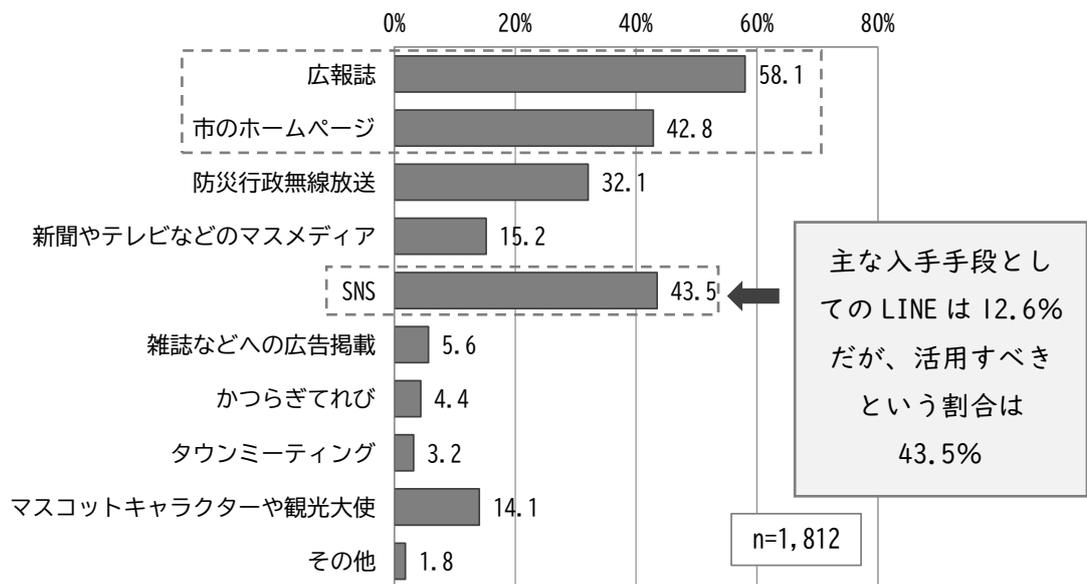
一般問 26／高校生問 18. 市民に対する市からの情報発信について、どう感じていますか。(単数回答)



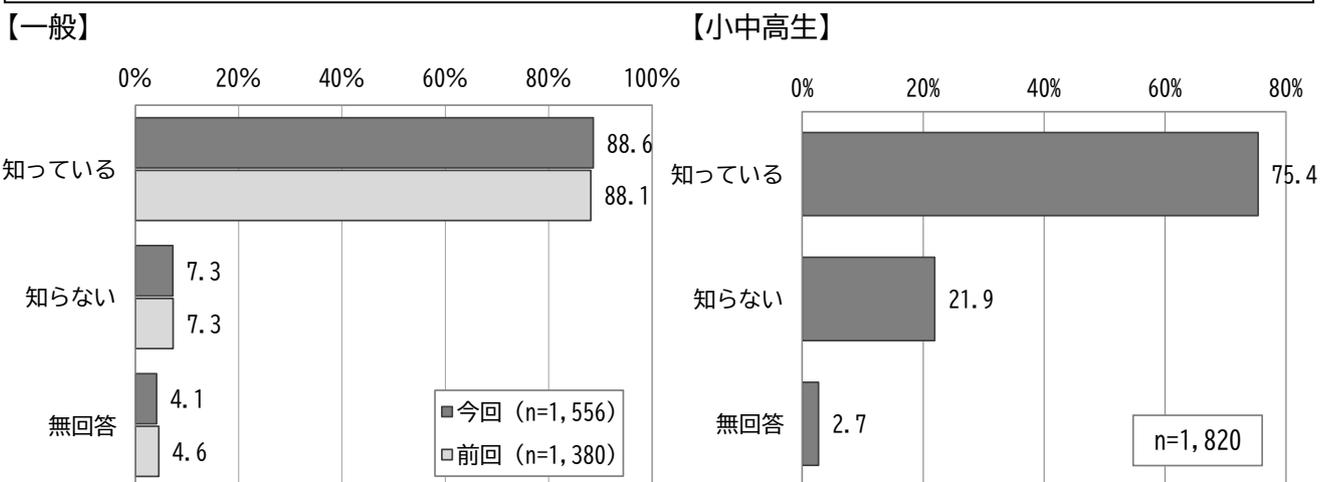
一般問 27／高校生問 19. 葛城市がより積極的に発信すべきだと思う情報は何か。(複数回答)



一般問 28／高校生問 20. 葛城市の情報発信手段として、積極的に活用すべきだと思うものは何ですか。
(複数回答)

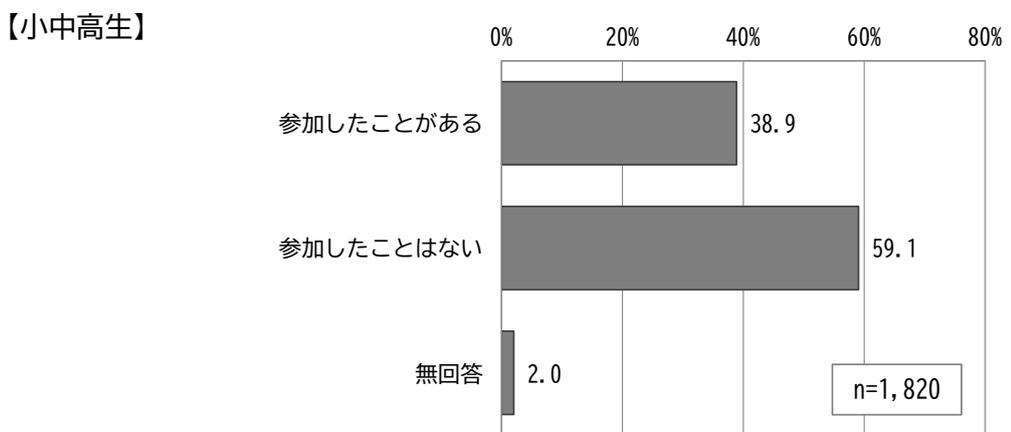
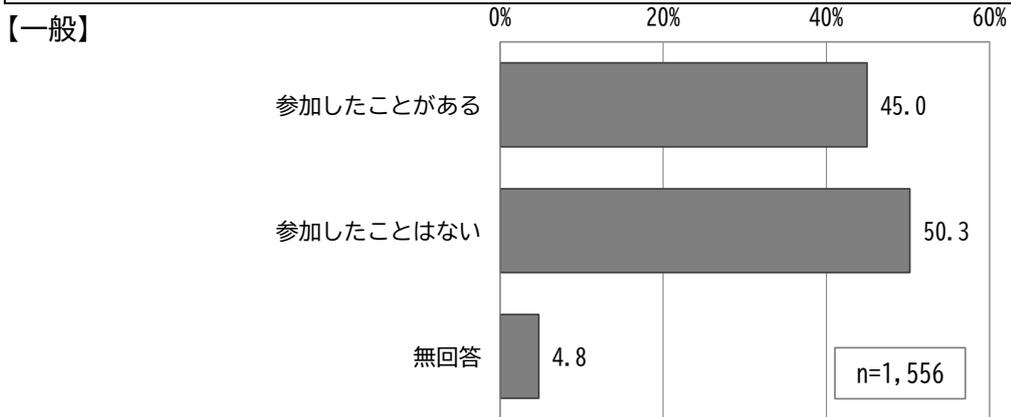


一般問 29／小中高生問 21. 葛城市が相撲発祥の地であることを知っていますか。(単数回答)

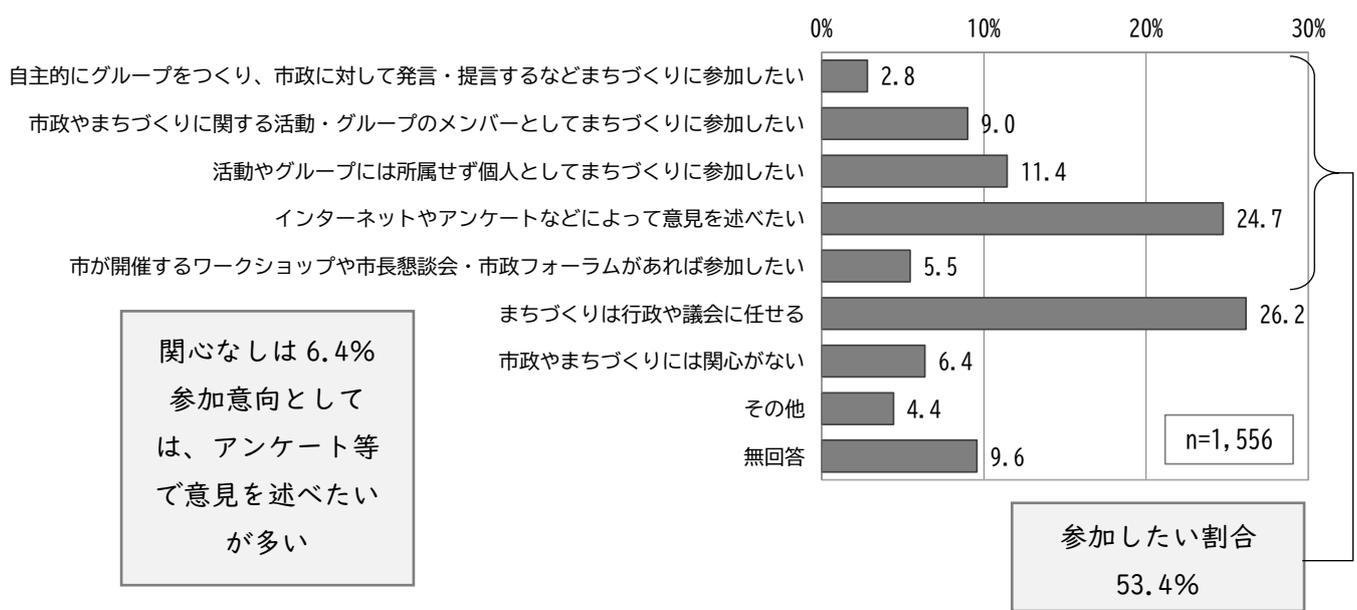


住民の認知度はほぼ変わらない。
しかし、小中高生の認知度が住民に比べて低い

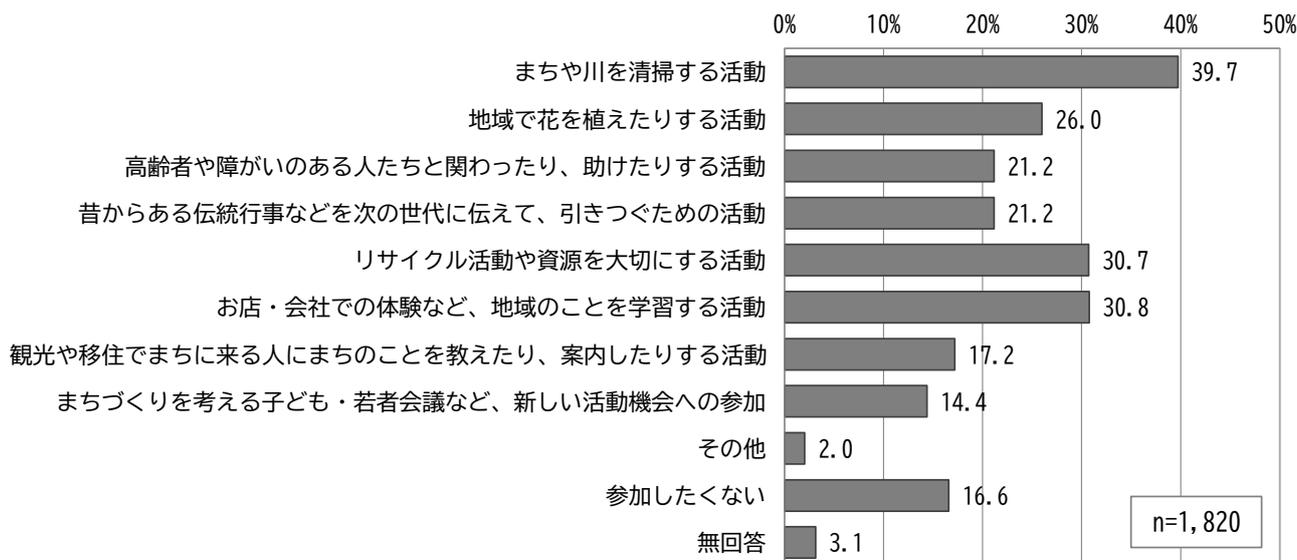
一般問 30／小中高生問 15. 地域活動（地域清掃や登下校の見守り等）やボランティア活動に参加したことがありますか。（単数回答）



一般問 31. これからの市政・まちづくりへの参加に関する、あなたの希望・意向を教えてください。（単数回答）

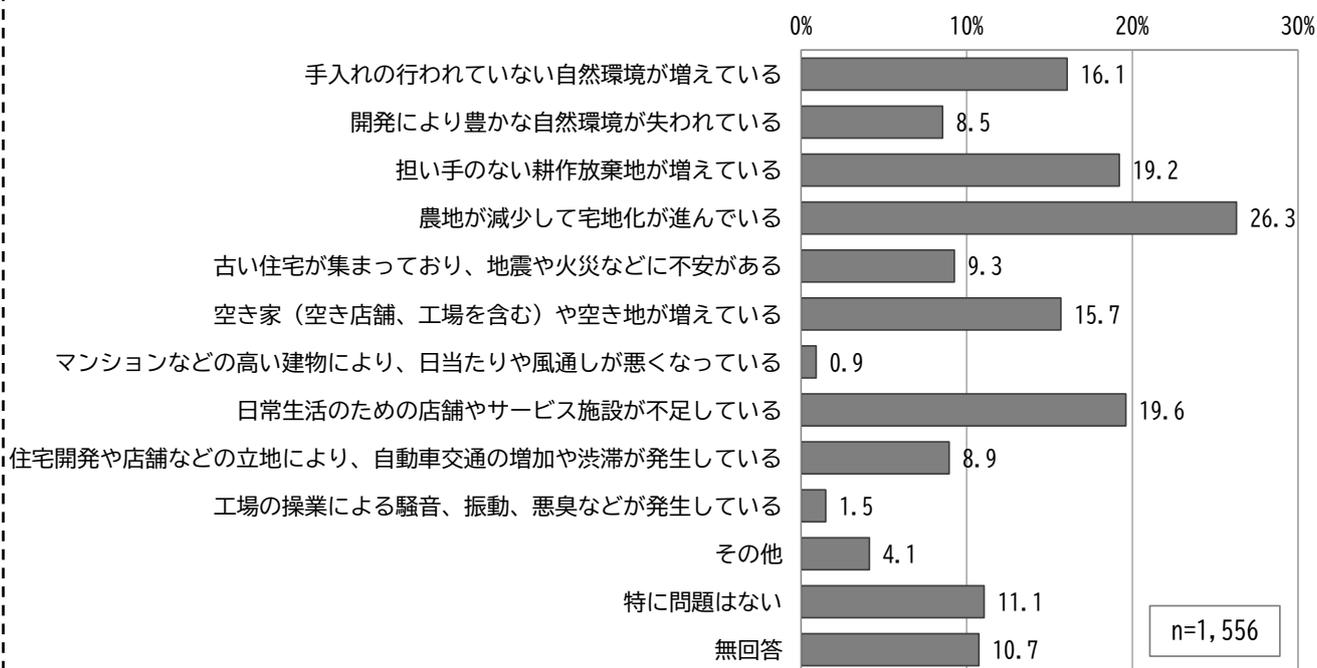


中高生問 16. 参加できる活動内容(複数回答)

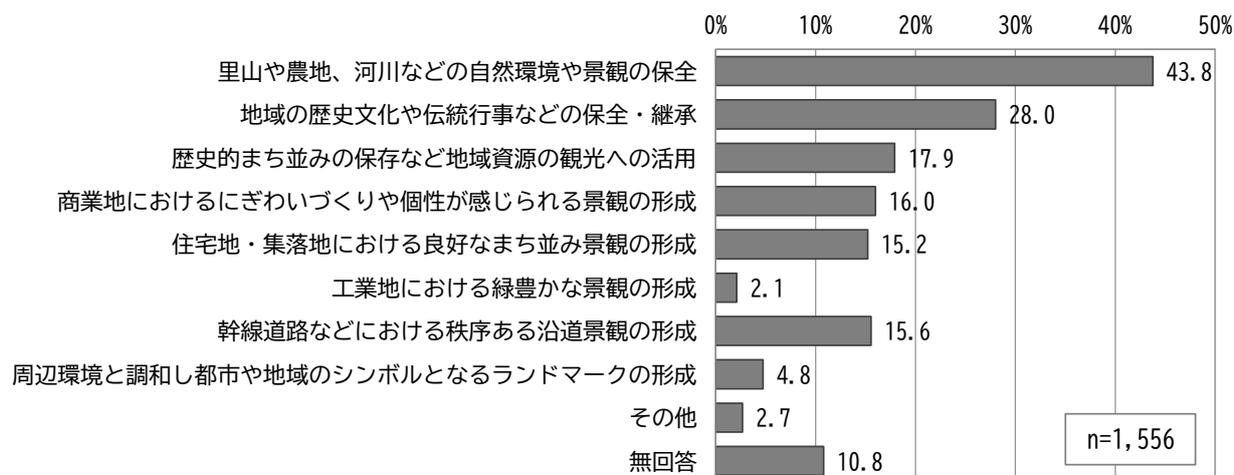


----- 一般問 32～36 については、「都市計画マスタープラン策定」に向けての設問となります -----

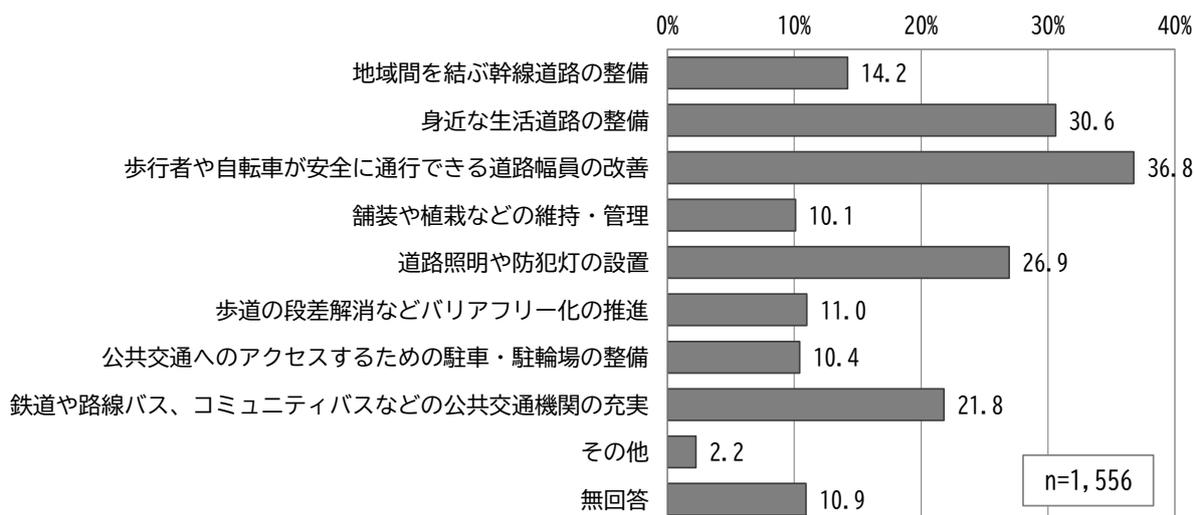
一般問 32. お住まいの地区における土地利用（土地の使い方）に関する問題点で、特に問題が大きいと思うものはどれですか。（複数回答）



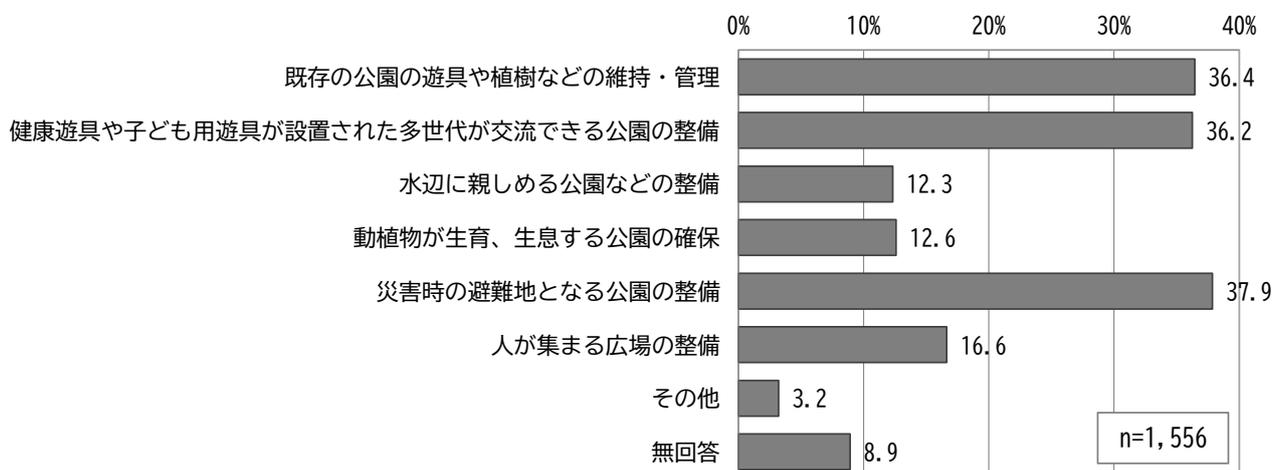
一般問 33. 自然や歴史文化、景観については、今後どのような取り組みに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)



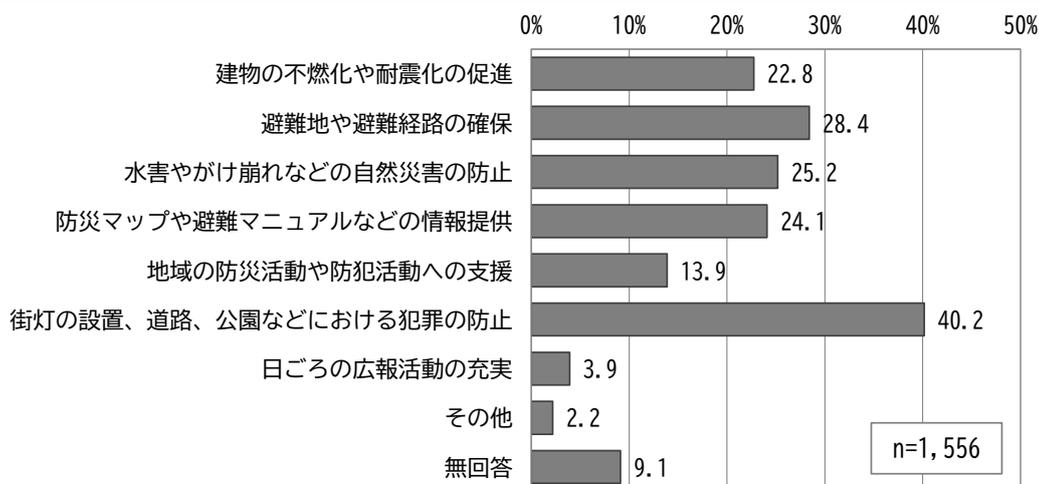
一般問 34. 道路や公共交通が充実したまちづくりのため、今後どのような取り組みに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)



一般問 35. 公園・緑地などの市民の憩いの場や自然とのふれ合い場づくりのため、今後どのような取り組みに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)

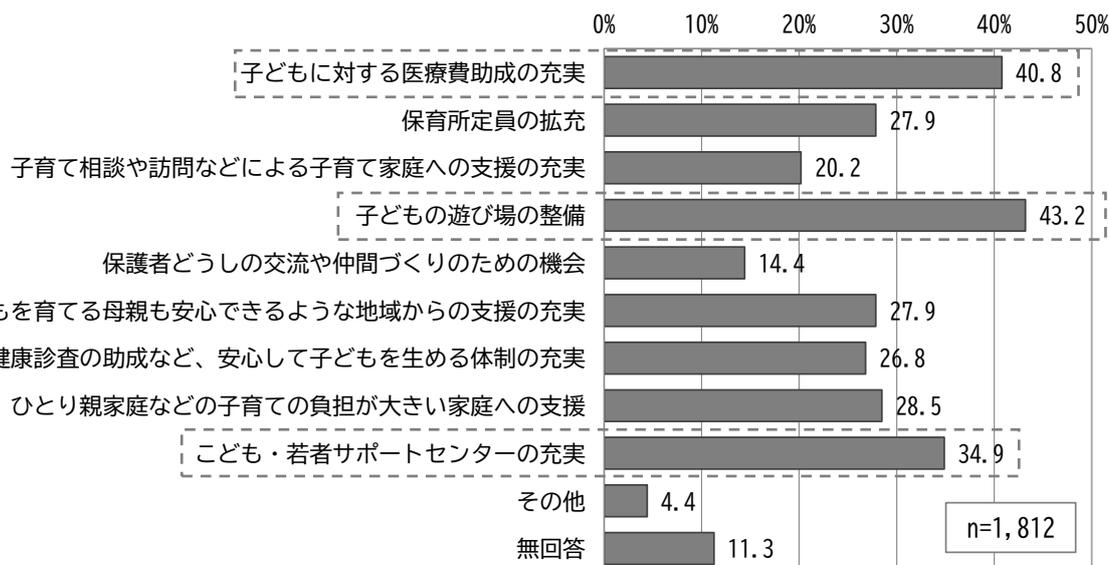


一般問 36. 災害に強いまちづくりのため、今後どのような取り組みに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)

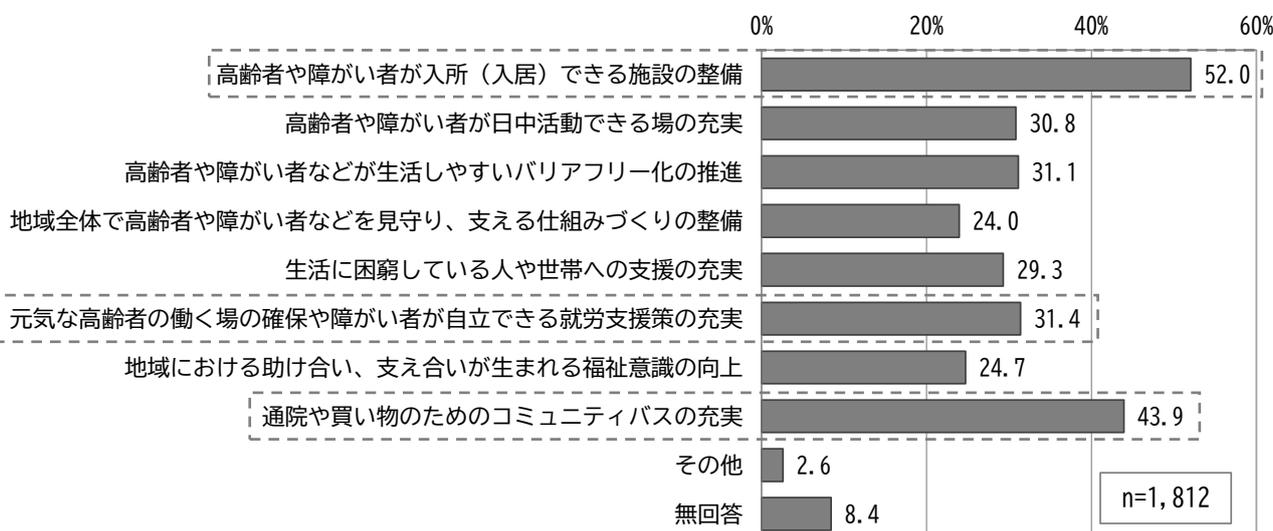


一般問 37/高校生問 24. それぞれの分野ごとに、今後葛城市が力を入れて取り組んでいくべきだと思う項目をお答えください。(複数回答)

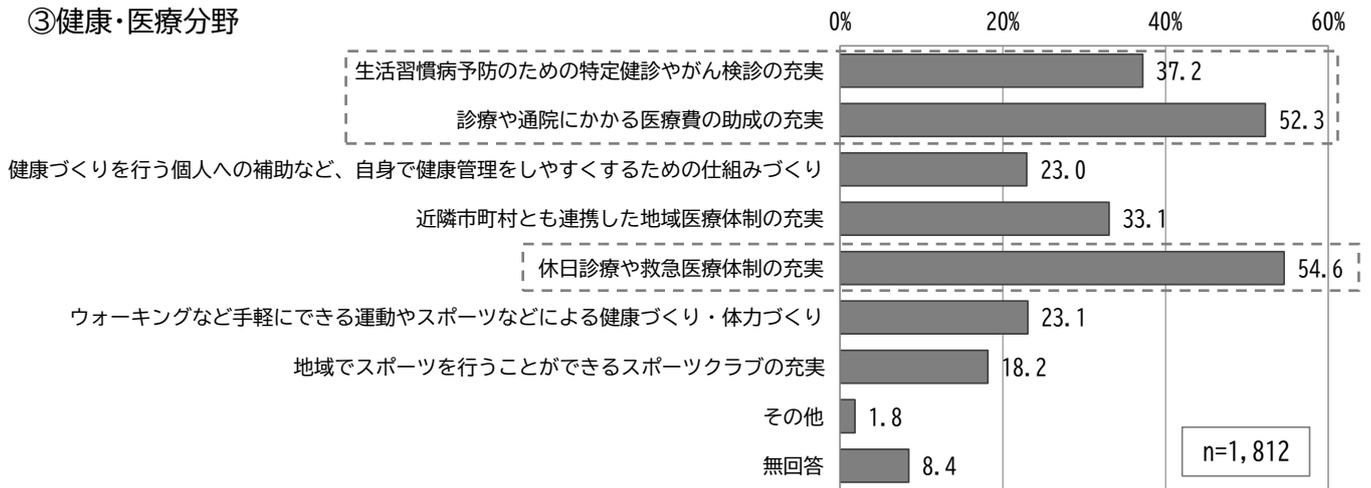
①子育て分野



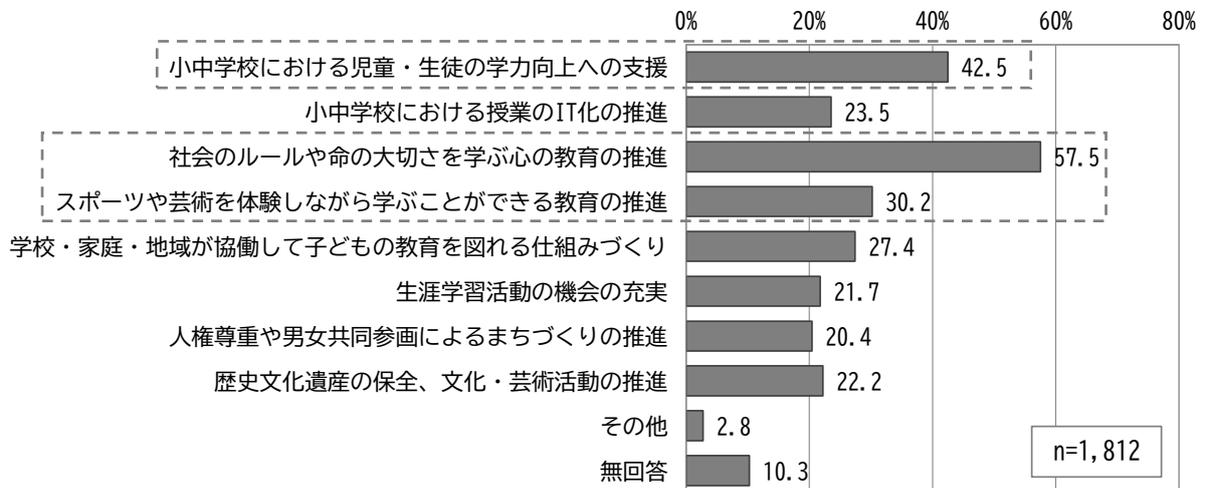
②福祉分野



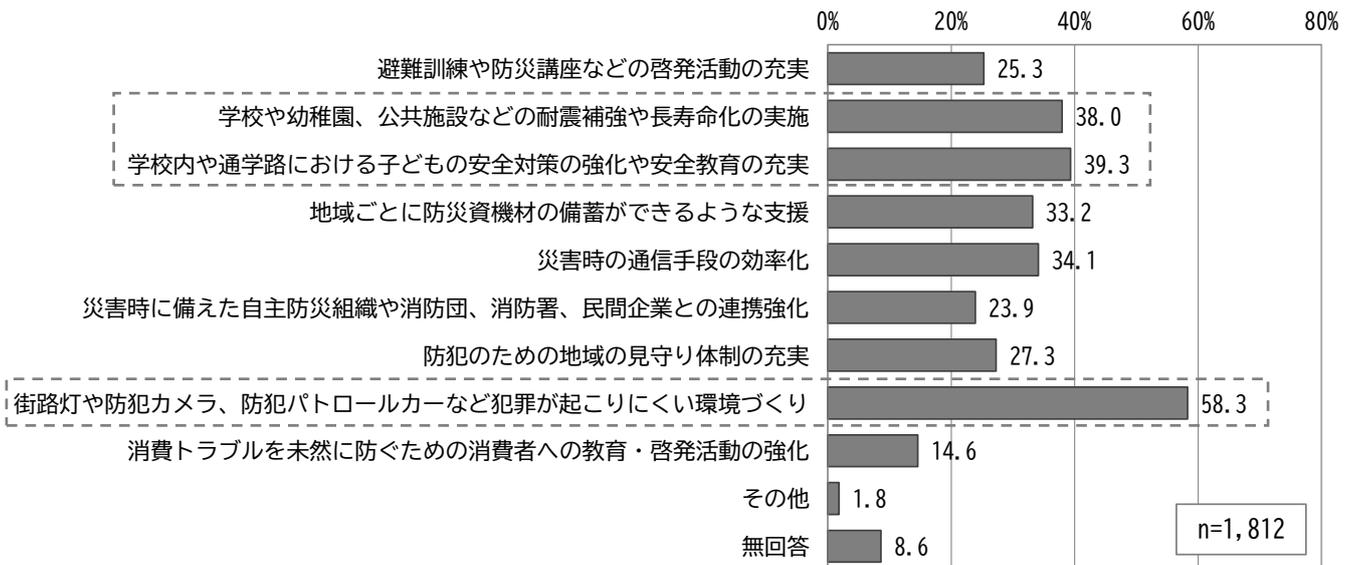
③健康・医療分野



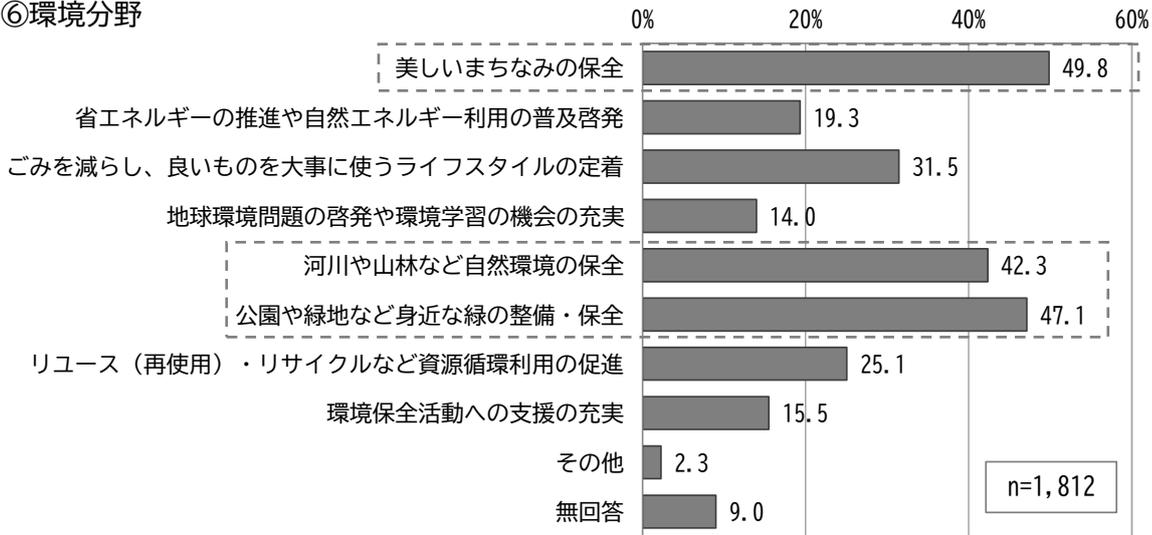
④教育・人権・文化分野



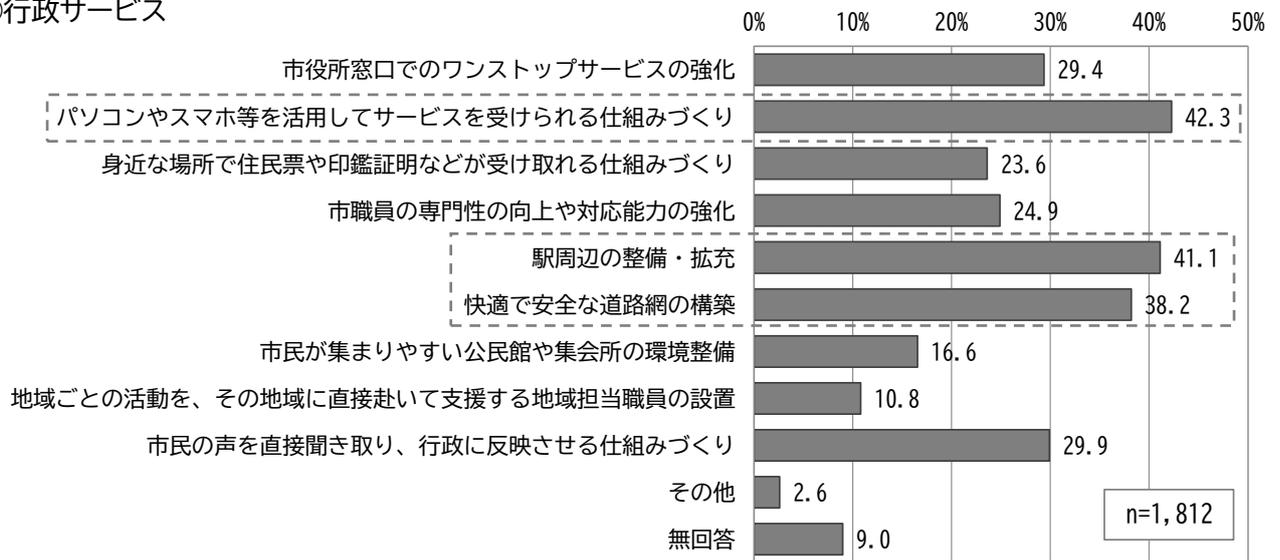
⑤安心・安全分野



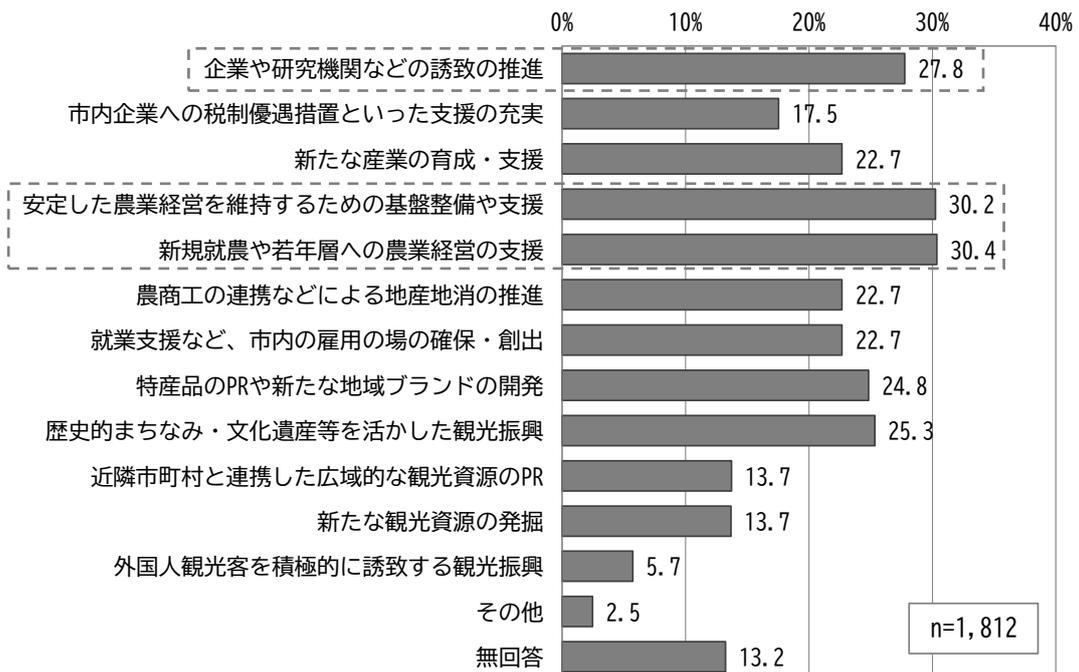
⑥環境分野



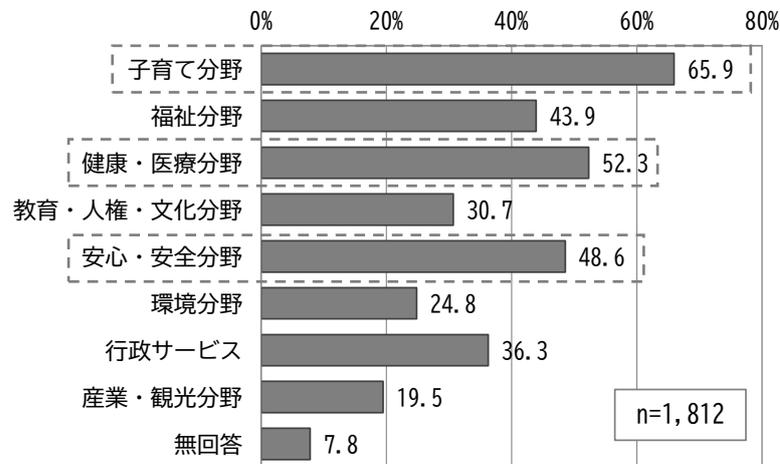
⑦行政サービス



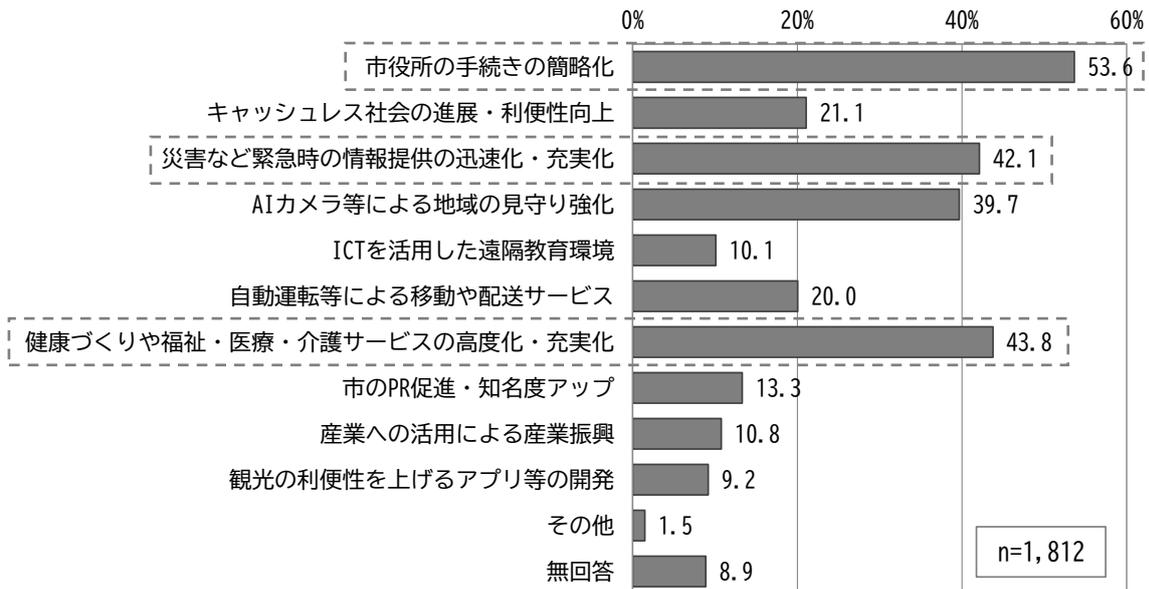
⑧産業・観光分野



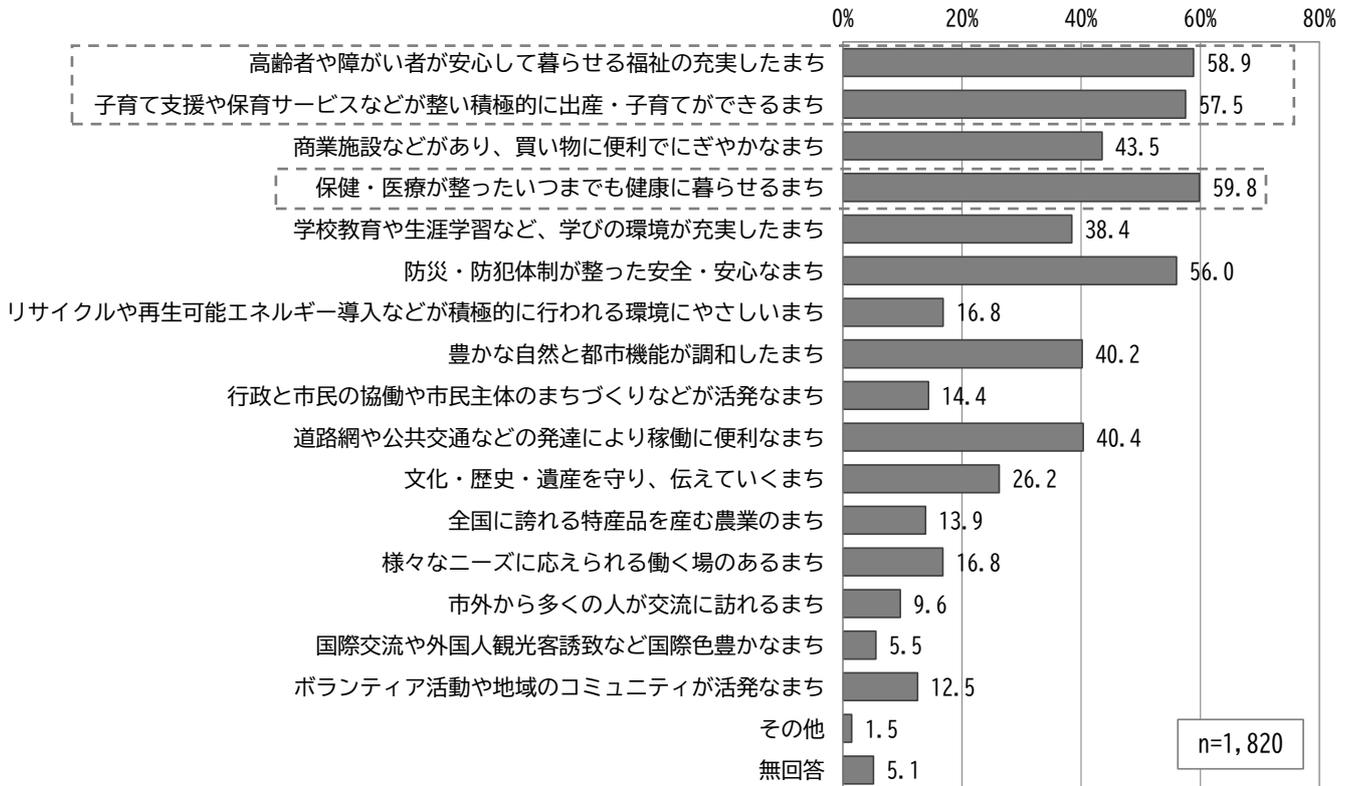
一般問 38／高校生問 25. 現在、葛城市では長期的な視点で人口増加を目指す発展ビジョンとして「人口5万人チャレンジ」を掲げ、様々な施策に取り組んでいます。今後、全国的に人口減少が進んでいくなか、葛城市がこれからも人口が増える街であり続けるためには、どのような施策に重点的に取り組んでいくべきだと思いますか。(複数回答)



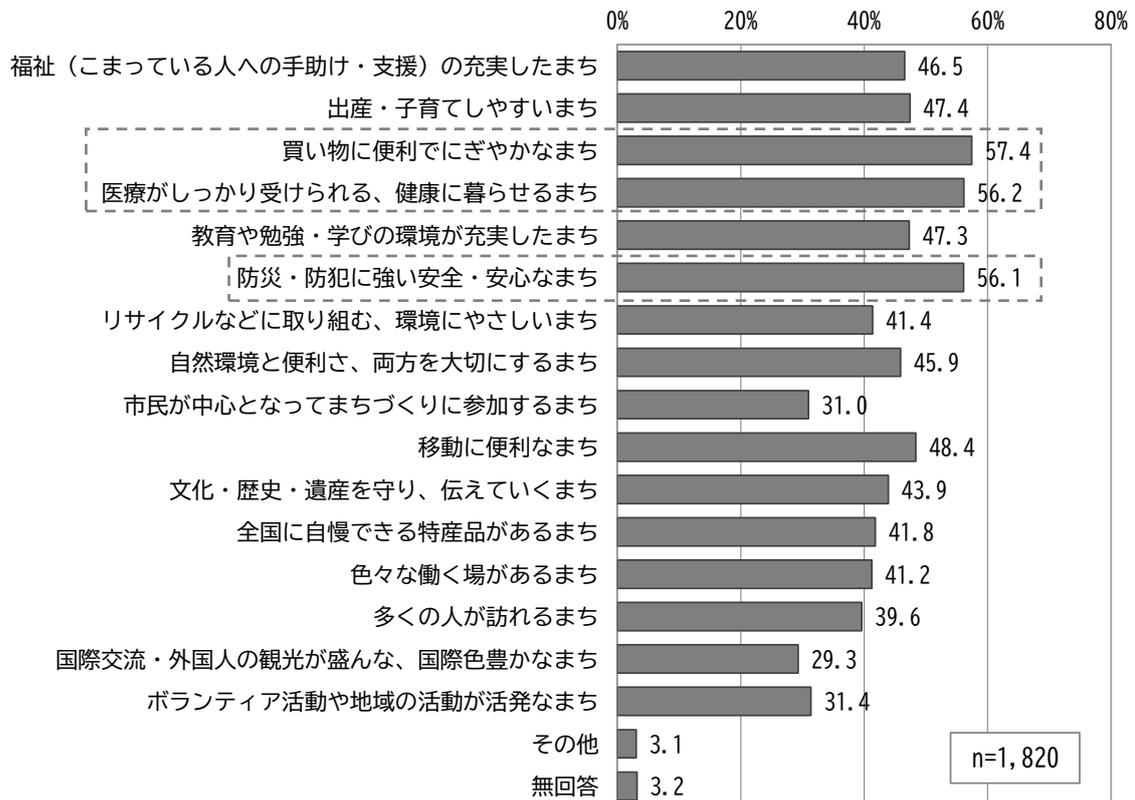
一般問 39／高校生問 26. 葛城市でDX・デジタル化が進むことで実現してほしいことは何ですか。(複数回答)



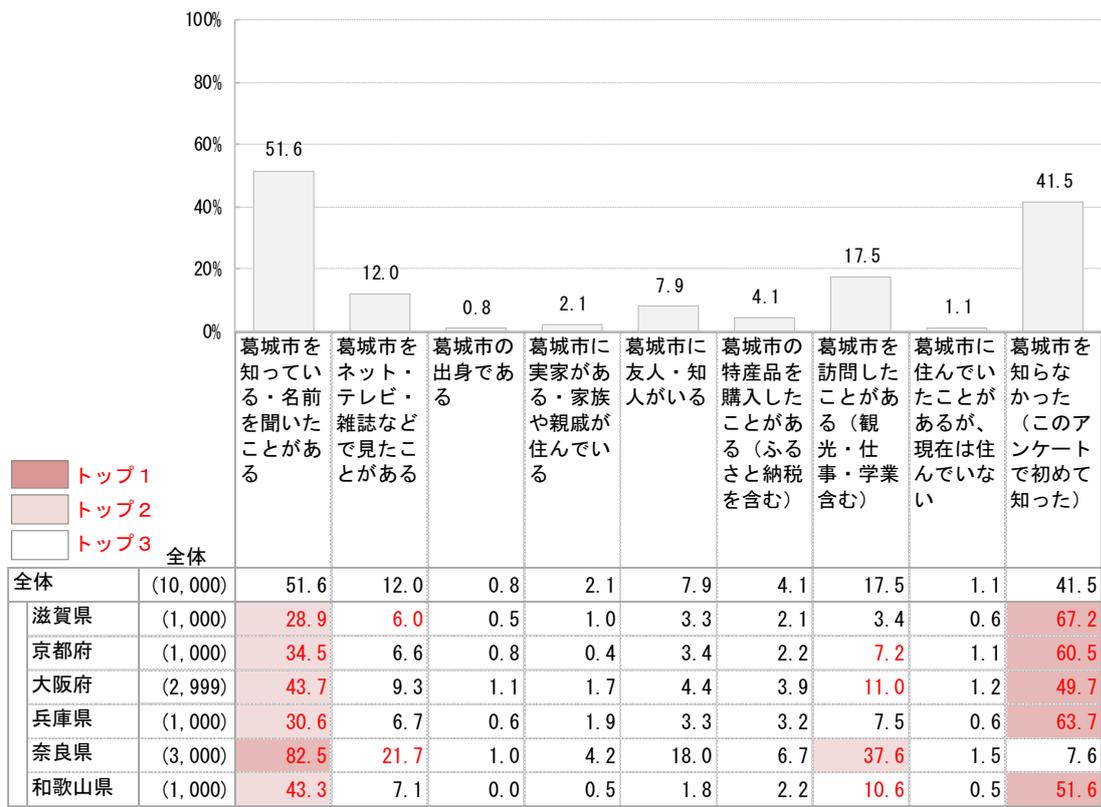
一般問 40. あなたは、葛城市が将来どのようなイメージのまちになってほしいと思いますか。(複数回答)



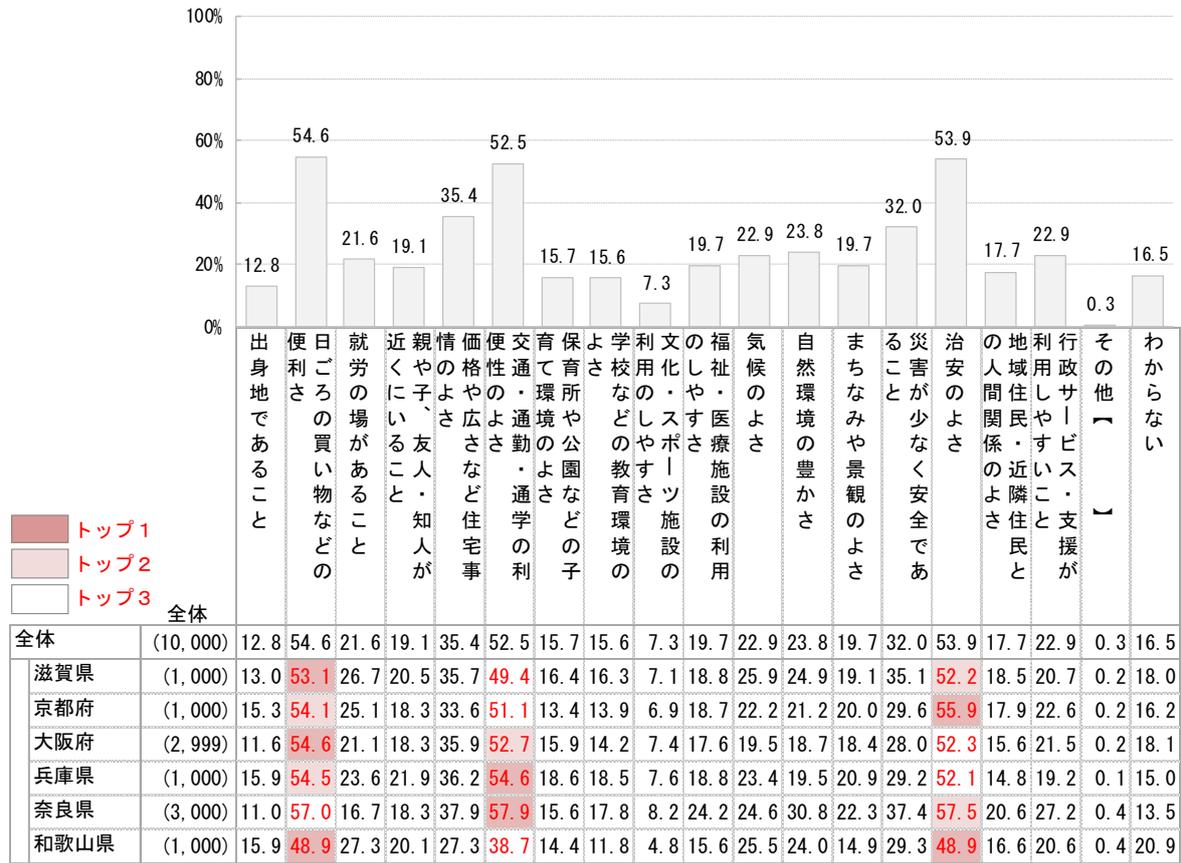
小中高生問 23. 将来なってほしいまち(複数回答)



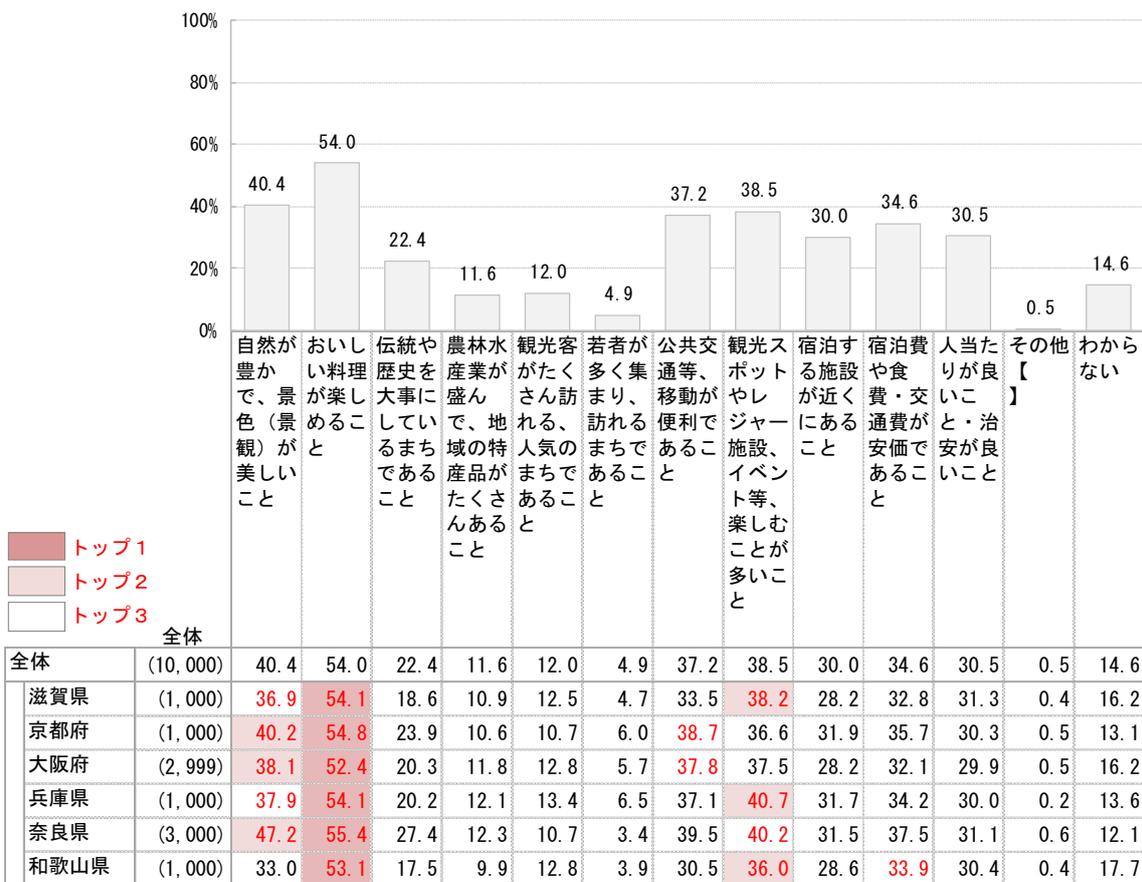
モニター問1. あなたと葛城市との関係性について該当する項目を選んでください。(複数回答)



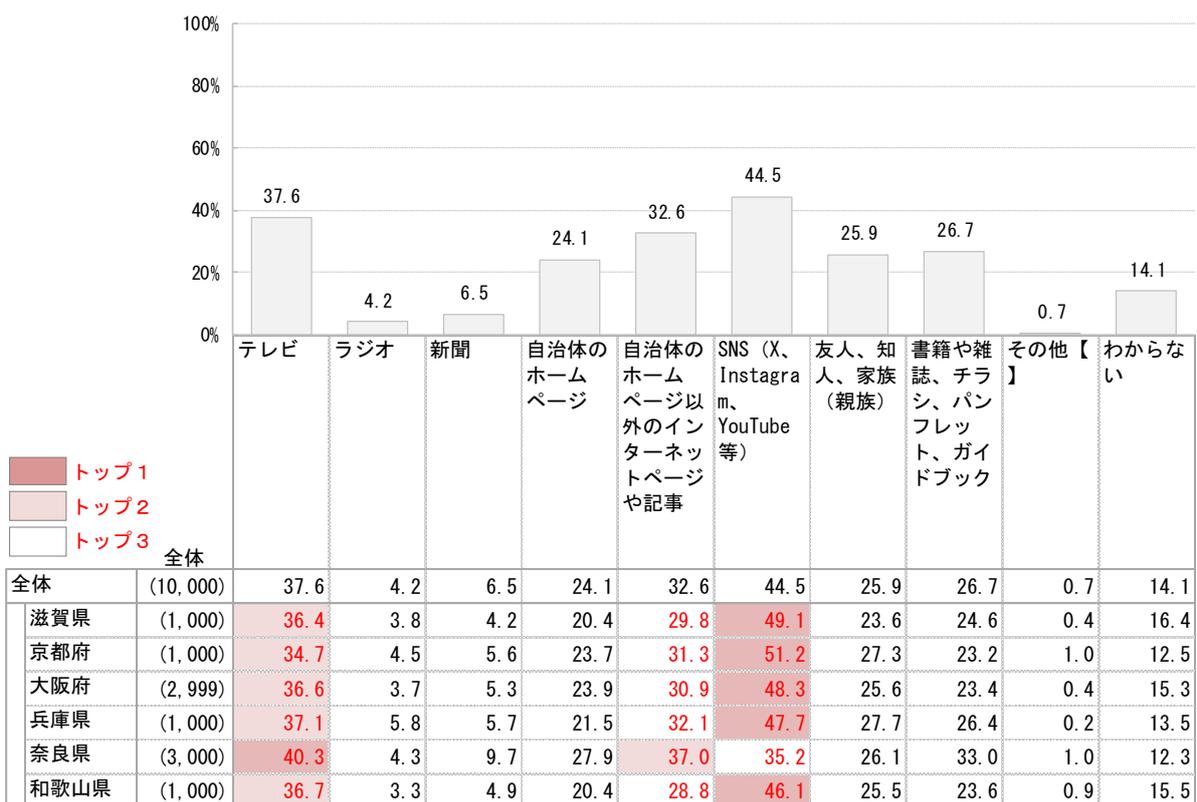
モニター問2. あなたが住まいの場所を選択する際に特に重視する項目を選んでください。(複数回答)



モニター問3. あなたが観光等で訪問する場所を選択する際に特に重視する項目を選んでください。
(複数回答)



モニター問4. あなたが観光等に行く際に、その自治体についての情報は、どこから手に入れますか。
(複数回答)



葛城市次期総合計画・総合戦略・人口ビジョンの方向性について

■各計画について

(1) 総合計画

10年間という長期的な視点に立ったまちづくりを進める方針であり、本市におけるすべての計画の最上位に位置付けられる計画。

次期計画期間：2027年度～2036年度（基本計画は5年を目途に必要なに応じて見直し）

(2) 人口ビジョン

2060年までの長期的視点で、葛城市の現在と今後の人口について整理し、趨勢人口（人口減少対策に取り組まないとしたときの将来人口）や目標人口（市として目指す将来人口）について示す計画。

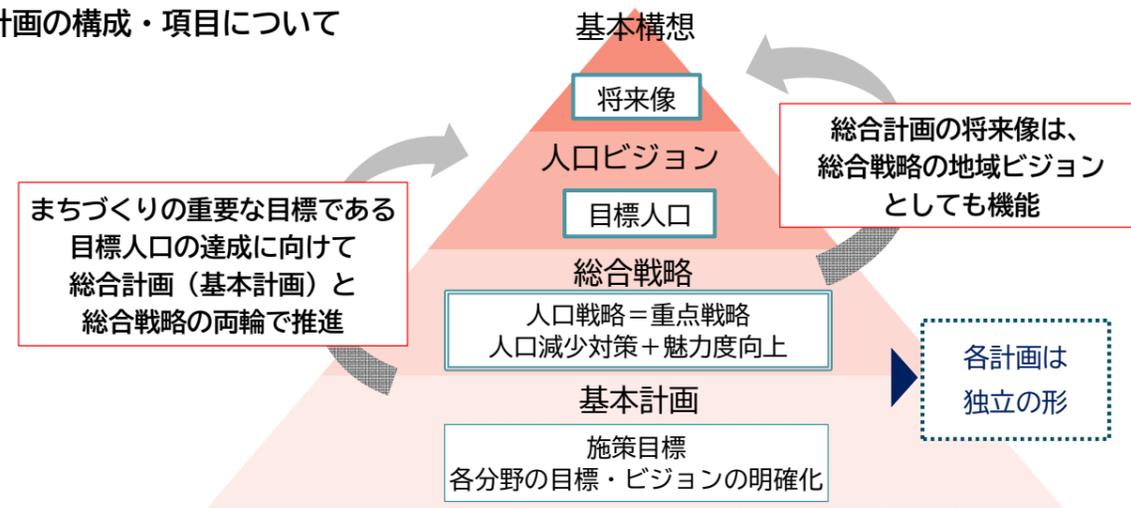
(3) 総合戦略

人口ビジョンにて示す目標人口を踏まえつつ、それぞれの地域の特色を活かした地方創生の取り組みを進めるための計画。

次期計画期間：2027年度～2031年度

国の地方創生は、人口減少対策を大きな軸として進めていきましたが、「地方創生2.0」の方針が示され、人口適応対策（人口が減少してもその人口規模に合わせ豊かに暮らしていくこと）の考え方が取り入れられました。地域の魅力増進を図るとともに、Well-beingな暮らしの実現が求められています。

■計画の構成・項目について



序論		◇趣旨・位置づけ・策定概要・計画期間等
基本構想	将来像	◇まち全体の目指すべき姿・市の将来像
	政策目標	◇将来像実現に向けたまちづくりの方向性
人口ビジョン	人口フレーム	◇人口推計・市として目指す人口（目標人口）
総合戦略	政策の柱	◇総合戦略推進に向けた方向性
	アクションプラン	◇政策の柱を踏まえた取組+指標（KPI）
基本計画	施策体系	◇将来像実現に向けた施策体系
	施策目標	◇分野別に整理した施策目標
	具体的取組	◇目標達成に向けた具体的取組+指標（KGI）

■市の現状や課題

【現状・課題1】人口に関して

近年、多くの自治体で人口減少が進行している状況ですが、本市における人口は微増・維持の状況が続いており、令和6年に人口戦略会議が公表した「地方自治体「持続可能性」分析レポート」においても、奈良県で唯一「自立持続可能都市」となりました。

しかし、本市においても将来的には人口減少が進んでいくことが想定されます。人口規模を維持できるよう取り組みを進めていくとともに、魅力的な地域づくりを進めていくことで、可能な限り人口増を目指していく視点も重要です。

【現状・課題2】こども・子育て支援に関して

人口維持・人口増を目指していくためには、少子化に関して対応していくことが不可欠です。妊娠・出産から子育てに関する支援として、アンケートでは、「経済面」「医療体制」「地域環境・遊び場」といった部分が求められています。また、アンケートにおいて本市に住む理由・きっかけを伺うと前回調査と比較し「子育て・教育環境が魅力」が最も増加しており、これまでの市の取り組みが着実に浸透し、移住促進にも繋がっています。

国は「こども支援」として、年齢で区切らずこども・若者への支援を進めていく方針としています。こども・子育ての支援と合わせ、若者の健全育成についても進めていくことが重要です。

【現状・課題3】福祉・医療に関して

少子化対策を進め、人口の年齢構造を安定した形にしていくことは、将来的な福祉・医療制度の持続可能化・健全化にも繋がり、担い手の確保にも重要なポイントです。アンケートによる施策評価としても、介護や医療といった部分は、重要度が高いが満足度が低い施策群に分類されており、今後更なる施策の強化が求められています。また、10年後の市で不安なこと1位についても「親や自身への介護」となっており、人生100年時代における長期的な視点を持った取り組みの検討を進めていくことが重要です。

【現状・課題4】産業・経済・雇用に関して

次の課題5とも関連しますが、アンケートにおける市の悪い所の1・2位は「交通利便性」と「買い物利便性」の低さとなっており、現在の困りごととしても「近くで買い物できない」が多いです。また、住まいの場所を選択する際に重視する項目としては、住民は「買い物の便利さ」、小中高生は「働く場所・仕事があること」がトップとなっており、まちのにぎわいを創っていくため、そして働く場所を創っていくため、産業の振興を図っていくことが必要です。

市外在住者が考える住まいの場所を選択する際に重視する項目についても、「買い物の便利さ」がトップとなっており、買い物環境含め、地域の魅力度向上を図っていくことは、地方創生としても重要な視点です。また、本市が「住みよさランキング上位であること」の認知度はまだまだ高くないので、まちづくりを進めるとともに、シティプロモーション・PRの促進を図っていくことで、観光の振興と移住促進に繋げていくことも重要です。

【現状・課題5】都市基盤整備に関して

アンケートによる施策評価において、「地域交通ネットワークの整備」は、最も重要度が高いが、最も満足度が低い施策となっており、今後進めていく取り組みとしても大変重要となっています。買い物利便性同様、住まいの場所を選択する際に重視する項目としても交通利便性は割合が高く、対応が求められています。

【現状・課題6】安全・安心に関して

近年、自然災害の被害が甚大化しており、大規模地震の脅威もある中で、いざという時のために備えておくことは大変重要です。また、そういった有事の際だけでなく、日常の安全・安心への対応も重要であり、「治安のよさ」は、住まいの場所を選択する際に重視する項目として、住民も市外在住者も上位にランクインしています。市の良いところとして「災害の少なさ」「治安の良さ」を挙げる方も多くなっていますが、施策の評価としては、「災害への備え」「防犯体制の強化」は重要度が高く、満足度としては平均より少し低くなっているため、今後も継続的に市民生活をしっかりと守っていくことが必要です。

【現状・課題7】市民協働・行財政運営に関して

災害時での対応を含む、地域での助け合い支え合いには、地域コミュニティの活性化が重要です。アンケートで市政・まちづくりへの意向を伺うと、何らかの形で参加したいという方が半数以上となっており、まちの活気や魅力づくりにもつながる、市民とともに協働して取り組んでいくまちづくりの視点も必要となっています。健全で堅実な行財政運営は、まちづくりを進めていくための根幹であり、欠かせない要素です。近年の物価高騰や公共施設の老朽化等への対応も含め、将来を見据えた行財政運営を進めていくのと合わせ、アンケートでは、行財政サービスとして「パソコンやスマホを活用してサービスを受けられる仕組み」が求められており、新たな技術を活用した、DXの推進等について進めていくことも重要です。

【現状・課題8】環境整備に関して

地球温暖化の影響は、気候変動や生物多様性の損失等、地球規模の環境問題をもたらしており、世界で対応しなければならない問題です。本市は「ゼロカーボンシティ宣言」を表明しており、地球温暖化対策の推進を図っていますが、今後も行政だけでなく事業者や団体のほか、住民一人ひとりが脱炭素への取組を強化していく必要があります。本市の良いところとして上位の「自然環境」を守りつつ、環境分野で求められる「美しいまちなみの保全」をはじめとする快適な住環境の整備を進め、住み続けたいまちづくりを進めていくことが重要です。

【現状・課題9】生涯学習・多様性・人権に関して

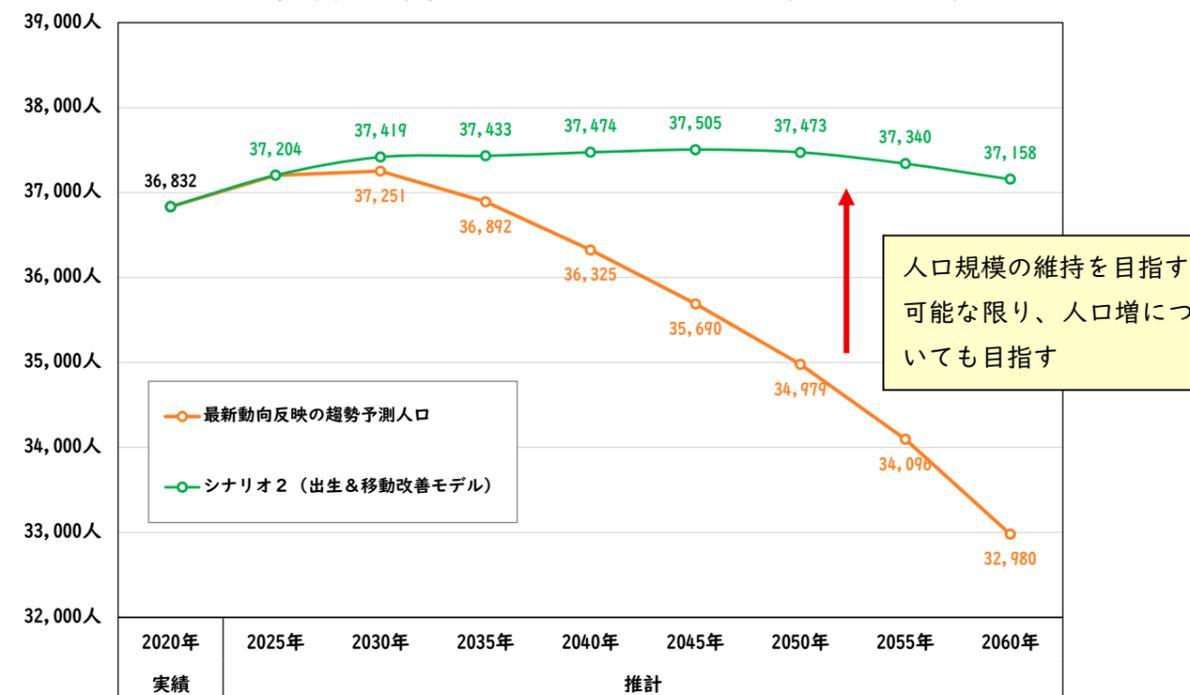
アンケートで、市の自慢できること・未来に残したい魅力を聞くと、「當麻寺」「相撲」「二輪菊」「中将餅」といった、本市特有の魅力がたくさん挙げられました。歴史・文化の深い本市として、市の魅力・価値を知る生涯学習の推進を、こども達をはじめとする住民の郷土愛を育む取り組みの推進につなげることが重要です。ライフスタイルや価値観が多様化する時代において、一人ひとりが心の豊かさに生き生きと自分らしく生きていけるように、市民の幸福度の視点も含めたまちづくりを進めることも必要です。

■人口ビジョンの方向性（素案）

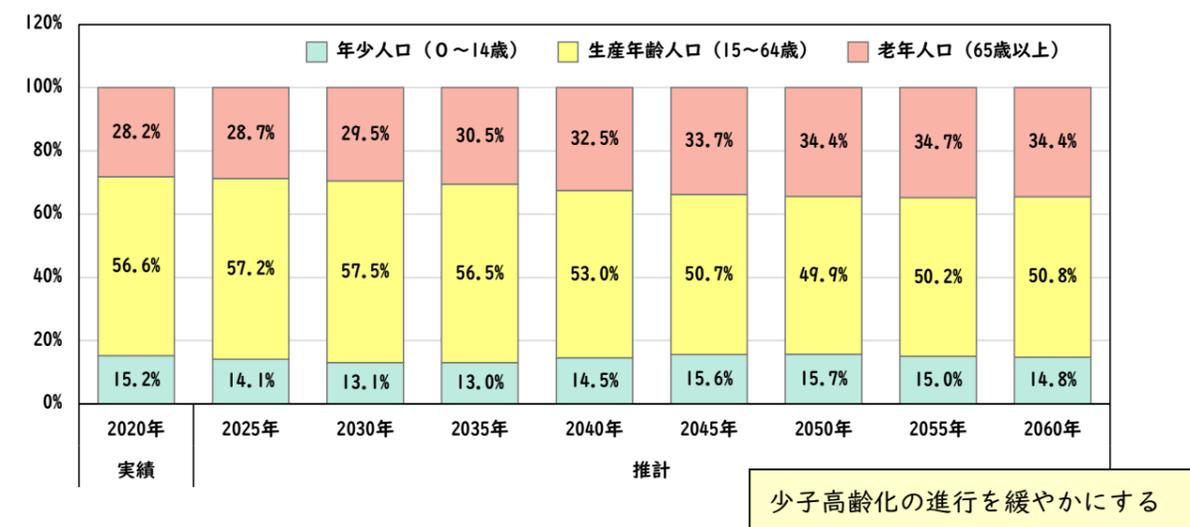
（1）人口の将来展望・推計シミュレーション

推計の考え方（シナリオ2）	
移動	趨勢人口を基本としつつ、人口減を補う追加的転入があることを目指す
出生	令和22（2040）年に合計特殊出生率2.07を目指す
死亡	趨勢人口と同様

葛城市の将来人口シミュレーション（シナリオ2）



年齢3区分別 葛城市の将来人口シミュレーション（シナリオ2）



少子高齢化の進行を緩やかにする

■総合計画の方向性（素案）

（1）新体系（案）

政策目標	施策目標	関連分野	関連現行 No.
未来に向けたこどもの育ちと学び	こども・若者の未来への一步をみんなで支える包括的な支援を推進します	子育て支援・青少年	2-2-1 2-2-2
	好奇心に応え、知る喜びを広げ、自己実現を支援する教育を提供します	学校教育	
	心の拠り所となる、あたたかい学びの場と居場所としての学校環境を整備します	学校環境	
温もりで支え合う福祉と医療	お互いに心を通わせ助け合う、地域共生社会を創り上げます	地域福祉・社会保障	1-1-1
	誰も孤立させず取り残さない、セーフティネットを構築します	高齢者・障がい者福祉	2-1-1 2-1-2
	いつまでも健康で生き生きと暮らせる心と体の健康づくりを推進します	医療・健康	2-1-3
人を呼び込む、活力と魅力あるまち	地域経済に活力を生む産業の振興と雇用創出に取り組みます	産業・雇用・企業誘致	1-3-2
	魅力増進と発信によるシティプロモーションの充実を図ります	観光・魅力増進	3-1-1
	進化した暮らしやすさで「住みたいまち」を実現する都市基盤整備を進めます	都市基盤整備・土地利用	3-2-1 3-2-2
生活における確かな安全と安心	絆で守り安心の輪を広げる、地域みんなの防犯力強化に取り組みます	防犯・生活の安全	3-3-1 3-3-2
	いざという時に備える強靱な地域づくりを推進します	防災・耐震長寿命化	
	迅速に命を守る、質の高い消防・救急体制の充実を図ります	消防救急	
みんなで取り組む持続可能なまちづくり	多様な主体が参画する市民が主役のまちづくりを推進します	市民参画	4
	協働で取り組む、未来まで続く市政の実現に向けて取り組みます	行財政・広報広聴	
	技術を活用したもっと使いやすい行政サービスの提供に取り組みます	DX	
人と自然に優しい住環境	地球のこれからのために環境負荷の低い循環型社会の形成を図ります	環境・エネルギー・脱炭素	1-2-1
	葛城の恵みと美しい自然ともに生きる環境保全の推進に取り組みます	自然・景観	1-2-2
	いつまでも愛せる・「住み続けたい」を叶える快適な住環境を整備します	住環境・衛生	3-1-2
誰もが尊重し合う、心豊かな社会	郷土愛あふれる地域を創る歴史文化の継承に取り組みます	歴史文化	1-1-2
	日常に輝きと潤いをプラスする活動を推進します	生涯学習・スポーツ	1-3-1 2-3-1
	互いを尊重し認め合い、一人ひとりが輝ける豊かな社会の実現を図ります	男女・人権・多文化共生	2-3-2

（参考）現行体系

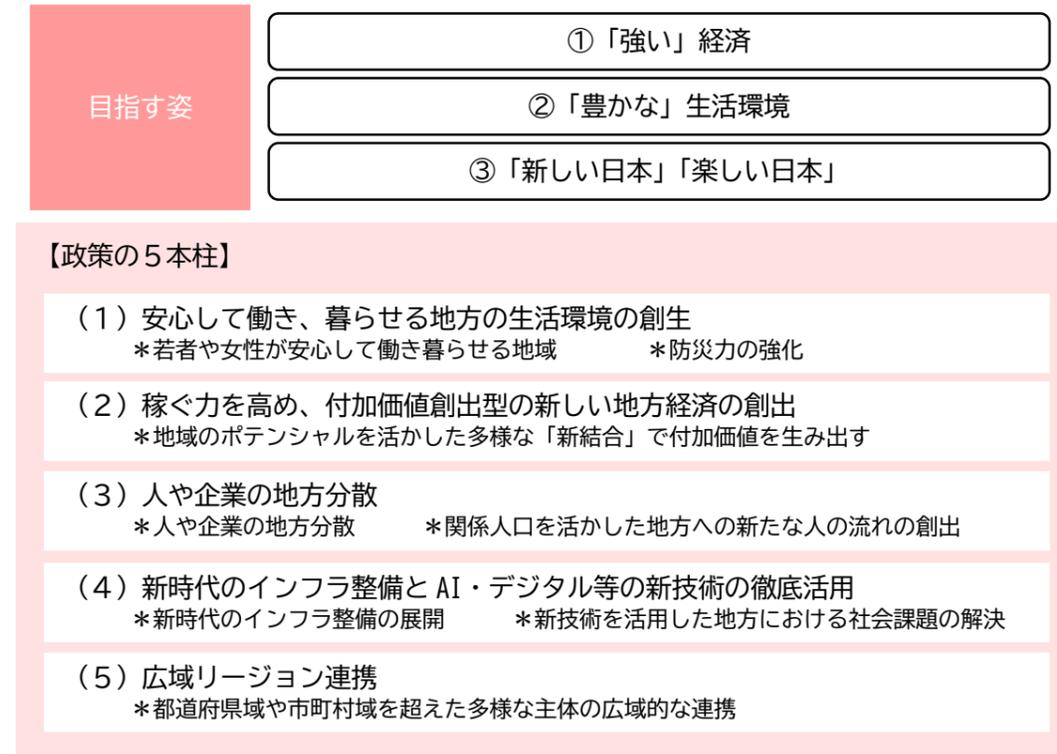
柱	政策目標	施策目標	No.	柱	政策目標	施策目標	No.
調和・共助	市民みんなが活躍できる社会の構築	高齢者や障がい者が生きがいをもって暮らせるようにする	1-1-1	活力・安全	住みよいまちを支える社会基盤の実現	基幹道路や駅前道路、地域交通ネットワークの整備を進める	3-1-1
		女性が積極的に社会進出できる社会を形成する	1-1-2			管路の整備・補修を進めて安定的な上下水道の利用を確保する	3-1-2
	豊かな自然の保全・継承	循環型社会を形成し、ごみの減量化を進める	1-2-1		産業振興による地域の稼ぐ力の向上	農商工業の地場産業を育成し、活性化させる	3-2-1
		森林や河川等の自然環境の維持・景観形成に努める	1-2-2			観光業の振興によるまちの賑わい創出	3-2-2
	歴史・文化と調和的な地域づくり	歴史や文化の保護・活用を図る	1-3-1		安心・安全な生活環境の整備	自然災害や火災等に対する備えを十分なものにする	3-3-1
		時代の変化を踏まえた地域づくりを進める	1-3-2			地域の防犯体制を強化し、犯罪の発生を抑止する	3-3-2
壮健・学習	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり	未病・予防と重症化防止の取組を通じた健康寿命の延伸	2-1-1	市民の市政参画や市民活動への支援等を通じた市民と行政の協働による行政運営の実現 新電力の活用等効率的な行財政運営の仕組みの導入 情報化の推進による行政コストの削減 ファシリティマネジメント（公共施設の適正管理）の実施による公共財の適切な管理			
		安心して医療・介護サービスが受けられる体制づくり	2-1-2				
		運動の場の形成を通じた市民の健康の増進	2-1-3				
	教育・学習による未来の市民づくり	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う	2-2-1				
		基礎学力の向上や社会を生き抜く力の養成を進める	2-2-2				
		生涯学習による豊かな心の涵養	2-3-1				
	人権教育により差別のない社会を形成する	2-3-2					

■総合戦略の方向性（素案）

（1）国の方向性について

国の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年6月「地方創生2.0基本構想」が示される ・令和7年11月、地方創生施策の新たな検討組織である「地域未来戦略本部」が設置（「新しい地方経済・生活環境創生本部」で検討した事項等については、「地域未来戦略本部」に引き継がれる） ★令和7年以内に国の新たな総合戦略を策定予定。
------	--

（参考）地方創生2.0



1. 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生	<ul style="list-style-type: none"> 1-①若者や女性にも選ばれる地方となるための社会変革・意識変革 1-②魅力ある働き方・職場の創出 1-③地域に愛着を持ち、地域で活躍する人材の育成 1-④多様な人々が活躍する地域社会の実現 1-⑤社会の情勢変化に適応可能な将来を見据えた地域のサービス拠点づくり 1-⑥交通・医療・介護・子育てなど生活必需サービスの維持・確保 1-⑦将来を考えたまちづくり 1-⑧災害から地方を守るための国を挙げた防災力強化 1-⑨地域の防犯力強化と地方消費者行政の充実・強化
2. 稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生	<ul style="list-style-type: none"> 2-①施策の「新結合」：多様な地域資源の一体的な高付加価値化 2-②人材の「新結合」：多様な主体の連携による地域の支援体制の構築とイノベティブな人材の呼び込み 2-③技術の「新結合」：AI・デジタル技術等の組合せ 2-④「新結合」を全国各地で生み出す取組
3. 人や企業の地方分散	<ul style="list-style-type: none"> 3-①政府関係機関の地方移転 3-②本社機能の地方分散 3-③地方における高等教育の充実 3-④関係人口の量的拡大・質的向上
4. 新時代のインフラ整備とAI・デジタルなどの新技術の徹底活用	<ul style="list-style-type: none"> 4-①GX・DX時代の新たな産業集積の形成に向けたインフラ整備 4-②デジタル・新技術の社会実装 4-③デジタル技術の利活用に向けた環境整備
5. 広域リージョン連携	<ul style="list-style-type: none"> 5-①都道府県域を超える広域リージョン連携の枠組みの創設 5-②広域地方計画等に基づく「シームレスな拠点連結型国土」の実現 5-③広域連携でのインフラ管理の推進 5-④基幹的な道路・新幹線等の幹線鉄道等の交通ネットワークの整備

（2）現行計画の柱と今後の考え方について

※国の策定する戦略の内容を踏まえ、今後、柱・体系や、施策について検討を進めていく。

柱1	アクションプラン	柱2	アクションプラン	柱3	アクションプラン
子育てに係る各種支援・取組を通じた人口増加（移住支援）	<ul style="list-style-type: none"> ■こども・若者サポートセンター等による、相談窓口の充実 ■住民の自助共助組織の充実による、母親が仕事を継続できるための子育て支援 ■魅力的な教育環境の整備 ■大阪圏・東京圏からのU I J ターン促進策 	観光業を基幹とした産業の振興（集客支援）	<ul style="list-style-type: none"> ■近隣市町村との連携による相撲発祥のPR ■市内観光地周遊ルートを活用した集客支援 ■国際交流を通じた文化発信 ■2つの道の駅を活用した農商工業の振興 	地域コミュニティの強化を通じた地域の紐帯の強化（定住支援）	<ul style="list-style-type: none"> ■地域活動の活性化による地域力の向上 ■地域包括ケアシステムの推進 ■マイキープラットフォームと連携した、公共施設等利用者の利便性向上 ■地域公共交通の充実

葛城市 市政フォーラム



葛城市において、今年度と来年度にかけて策定予定のまちづくりの方向性を示す新たな計画に関して

●各計画について

(1) 総合計画

10年間という長期的な視点に立ったまちづくりを進める方針であり、本市におけるすべての計画の最上位に位置付けられる計画。

次期計画期間：2027年度～2036年度（基本計画は5年を目途に必要なに応じて見直し）

(2) 人口ビジョン

2060年までの長期的視点で、葛城市の現在と今後の人口について整理し、趨勢人口（人口減少対策に取り組まないとしたときの将来人口）や目標人口（市として目指す将来人口）について示す計画。

(3) 総合戦略

人口ビジョンにて示す目標人口を踏まえつつ、それぞれの地域の特色を活かした地方創生の取り組みを進めるための計画。

次期計画期間：2027年度～2031年度

国の地方創生は、人口減少対策を大きな軸として進めていましたが、「地方創生2.0」の方針が示され、人口適応対策（人口が減少してもその人口規模に合わせ豊かに暮らしていくこと）の考え方が取り入れられました。地域の魅力増進を図るとともに、Well-beingな暮らしの実現が求められています。

●計画の位置づけ

葛城市総合計画（市における最上位計画）

葛城市人口ビジョン
（将来人口を示す）

葛城市総合戦略
（人口戦略を示す）

整合

連携

分野別
個別計画

分野別
個別計画

分野別
個別計画

…

分野別
個別計画

各計画について整合性を図り策定します。

また、個別計画は上位計画である総合計画の方向性を踏まえて推進します。



●市の良いところ

18歳以上の住民 が思う 良いところ	1位	災害が少なく安全
	2位	自然が豊か
	3位	治安がよい
小中学生 高校生世代 が思う 良いところ	1位	自然がたくさんある
	2位	災害が少なく安全
	3位	犯罪や事件が少なく、安全・安心



●今不安なこと／10年後不安なこと

住民と高校生世代が 今不安に 思うこと	1位	近くで食料や日用品を買えない
	2位	近くに金融機関や郵便局がない
	3位	近くに病院や診療所がない
住民と高校生世代が 10年後に 不安に 思うこと	1位	親やあなた自身への十分な介護・介助ができない
	2位	近くで食料や日用品を買えない
	3位	近くに病院や診療所がない



●住みやすさ・定住意向／市に住む理由・きっかけ

★前回結果との比較	住民の 住みやすさ	「住みやすい」 + 「どちらかといえば住みやすい」 88.9%→89.2%	
	住民の 定住意向	「住み続ける」 + 「おそらく住み続ける」 76.0%→77.8%	
	住民が 市に住む理由 ・きっかけ (増加率順)	1位	子育て、教育面の環境に魅力を感じたため
		2位	結婚のため
		3位	ローン、家賃など住居費負担が軽いことに魅力を感じたため



●幸福度・地域満足度

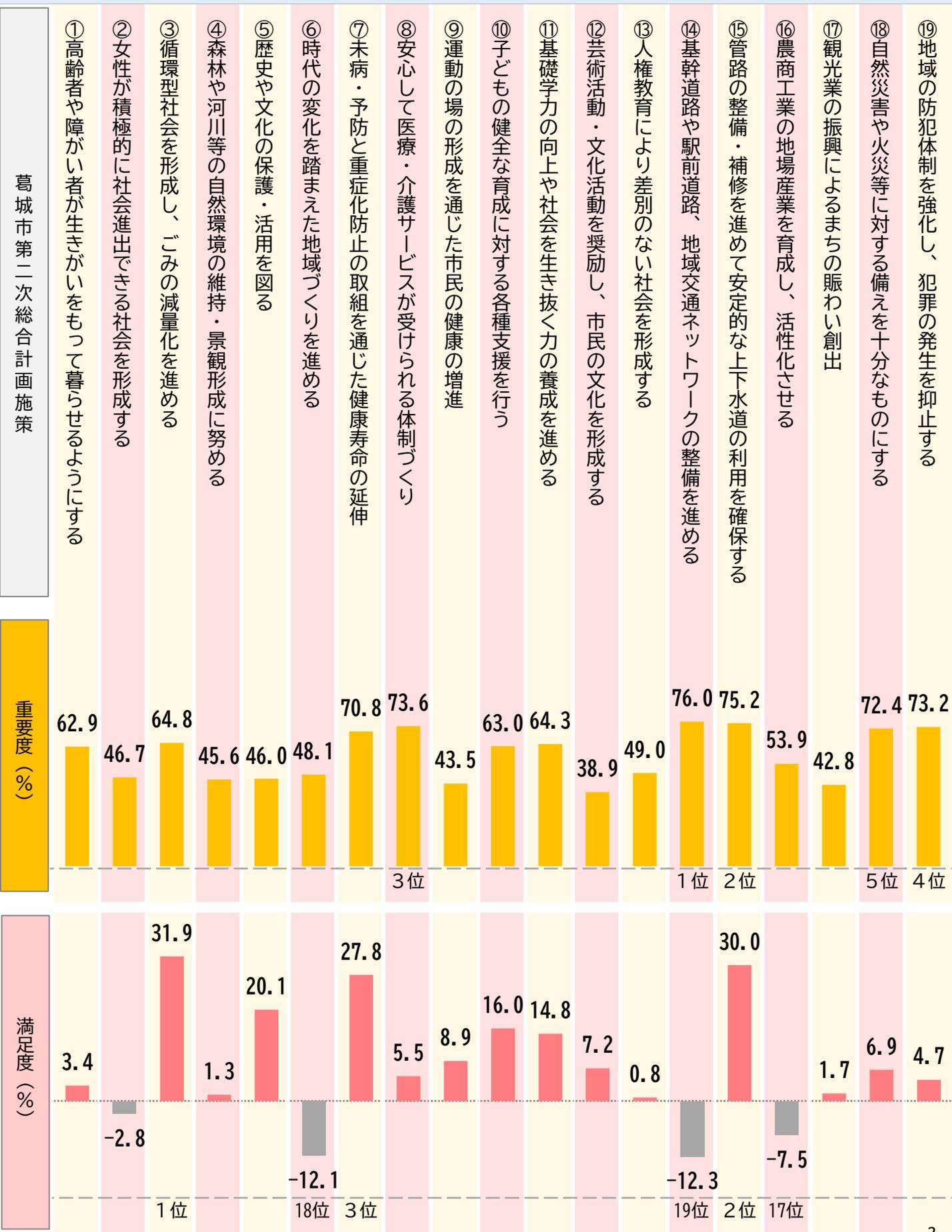
住民	幸福度	6.91点／10点満点	6.49点	全国調査 平均
	地域満足度	6.74点／10点満点	6.48点	
小中学生 高校生世代生	幸福度	7.66点／10点満点		
	地域満足度	7.46点／10点満点		



●市の施策に関する重要度と満足度

重要度：「重要」「やや重要」の回答割合
 満足度：「満足」「やや満足」-「不満」「やや不満」の回答割合

葛城市第二次総合計画施策



●各分野で力を入れていくべき項目



子育て	1位	子どもの遊び場の整備
	2位	子どもに対する医療費助成の充実
福祉	1位	高齢者や障がい者が入所（入居）できる施設の整備
	2位	通院や買い物のためのコミュニティバスの充実
健康・医療	1位	休日診療や救急医療体制の充実
	2位	診療や通院にかかる医療費の助成の充実
教育・人権・文化	1位	社会のルールや命の大切さを学ぶ心の教育の推進
	2位	小中学校における児童・生徒の学力向上への支援
安心・安全	1位	街路灯や防犯カメラ、防犯パトロールカーなど犯罪が起こりにくい環境づくり
	2位	学校内や通学路における子どもの安全対策の強化や安全教育の充実
環境	1位	美しいまちなみの保全
	2位	公園や緑地など身近な緑の整備・保全
行政サービス	1位	パソコンやスマホ等を活用してサービスを受けられる仕組みづくり
	2位	駅周辺の整備・拡充
産業・観光	1位	新規就農や若年層への農業経営の支援
	2位	安定した農業経営を維持するための基盤整備や支援

●市外在住者1万人調査（近畿地方在住者）

市外の方が思う 住まいの場所 を選択する ときに 重視すること	1位	日ごろの買い物などの便利さ	△
	2位	治安のよさ	
	3位	交通・通勤・通学の利便性のよさ	△
	4位	価格や広さなど住宅事情のよさ	
	5位	災害が少なく安全であること	

住民と
高校生世代
小中学生
が思う
市の悪い
ところ

近畿に住む方 1万人のうち	葛城市を知っている 聞いたことがある人	住みよさランキング（東洋経済新報社）で 上位にランクインしていることを 知っている人
	51.6%	8.7%



※市外在住者調査：調査会社に登録されているモニターに対しアンケートを実施
1万人の内訳は「奈良県・大阪府各3000人、京都府・兵庫県・滋賀県・和歌山県各1000人」

●市の人口について



※趨勢人口：今後、特段の人口減少対策を行わず、これまでの人口動向が今後も続いていくとしたときの人口

※目標人口：今後、人口減少対策に取り組み、出生と移動の改善(出生増・転入増・転出減)を図ることで、目指していく人口

人口減少対策を講じ、人口規模を可能な限り維持していくこと
そして、「市」としての条件である5万人規模のまちとなることを
目指し、持続可能なまちづくりを進めていくことが重要

今後、人口減少対策をしっかりと
行わないと、人口が減少し、
将来的に3万人程度と
なってしまう

こうした、各種アンケートや人口データ等の情報を踏まえて
今後のまちづくりに向けて課題を整理し、
今後進んでいく方向性について検討しました。



●市における課題

現状や課題、今後の方向性や考え方

- 市に住む理由・きっかけの増加率1位が「子育て・教育面が魅力的」。子育て支援を強化していくことで、移住の促進にも繋げたい。
- 出生数を増加させることも、人口減少対策として重要な視点。妊娠・出産から子育てにわたる切れ目ない支援の強化や、結婚を望む若者への支援に取り組んでいくことで、人口維持や人口増を目指すとともに、少子高齢化への対応も進めたい。

- 住民や高校生世代が、10年後の市で不安に思うこと1位は「親や自身への介護」。福祉の充実は今後への不安を取り除くことに繋がる。また、医療・介護サービスの充実は、施策重要度としても3位となっており、取組の強化を図りたい。

- 住民や高校生世代が思う市の悪いところは「買い物環境」と「交通利便性」で施策重要度も高い。産業の振興と都市基盤整備を進めることで、魅力度の高いまちづくりを進めていきたい。
- 魅力度向上に合わせ、今ある市の魅力発信についても力を入れ、より多くの方に知ってもらえるよう取り組んでいきたい。

- 住民が思う市の良いところ1位は「災害が少なく安全」。また、市外在住者が住む場所を選択する際に重視する点の2位は「治安の良さ」。市の良いところをしっかりと今後も継続し、市民の安全をしっかりと守っていきたい。

- 人口規模の維持・増加を目指していくため、しっかりと堅実な行財政運営を行っていくことは欠かせない。今後もこれまで同様、真摯に取り組みたい。また、デジタル活用についても進め、利用しやすい行政サービスの提供に努めたい。
- 行政だけでは実現できないまちづくり、市民の皆様と一緒に協働して取り組みたい。

- 住民が思う市の良いところ2位は「自然が豊か」。自然豊かな葛城市として、地域の自然環境を守り、より良い住環境の整備を進め、住み続けたいまちづくりの実現に向けて取り組みたい。
- 地域の自然を守ると同時に、地球環境の保全にも繋げていきたい。

- 市には、「當麻寺」や国の重要無形民俗文化財に指定されている「聖衆来迎練供養会式(當麻寺練供養)」等、数多くの歴史・文化が根付いており、そういった魅力が市民一人ひとりの誇りとなり、郷土愛に繋がるよう、今後も守り続けていきたい。
- 誰もが自分らしく輝けるまちづくりを進め、幸福度向上に繋げていきたい。

政策目標

目標①

目標②

目標③

目標④

目標⑤

目標⑥

目標⑦

●次期総合計画における方向性（案）

政策目標	施策目標	関連分野
目標① 未来に向けた こどもの育ちと学び	こども・若者の未来への一步をみんなで支える包括的な支援を推進します	子育て支援・青少年
	好奇心に応え、知る喜びを広げ、自己実現を支援する教育を提供します	学校教育
	心の拠り所となる、あたたかい学びの場と居場所としての学校環境を整備します	学校環境
目標② 温もりで支え合う 福祉と医療	お互いに心を通わせ助け合う、地域共生社会を創り上げます	地域福祉・社会保障
	誰も孤立させず取り残さない、セーフティーネットを構築します	高齢者・障がい者福祉
	いつまでも健康で生き生きと暮らせる心と体の健康づくりを推進します	医療・健康
目標③ 人を呼び込む、 活力と魅力あるまち	地域経済に活力を生む産業の振興と雇用創出に取り組みます	産業・雇用・企業誘致
	魅力増進と発信によるシティプロモーションの充実を図ります	観光・魅力増進
	進化した暮らしやすさで「住みたいまち」を実現する都市基盤整備を進めます	都市基盤整備・土地利用
目標④ 生活における 確かな安全と安心	絆で守り安心の輪を広げる、地域みんなの防犯力強化に取り組みます	防犯・生活の安全
	いざという時に備える強靱な地域づくりを推進します	防災・耐震長寿命化
	迅速に命を守る、質の高い消防・救急体制の充実を図ります	消防救急
目標⑤ みんなで取り組む 持続可能なまちづくり	多様な主体が参画する市民が主役のまちづくりを推進します	市民参画
	協働で取り組む、未来まで続く市政の実現に向けて取り組みます	行財政・広報広聴
	技術を活用したもっと使いやすい行政サービスの提供に取り組みます	DX
目標⑥ 人と自然に優しい 住環境	地球のこれからのために環境負荷の低い循環型社会の形成を図ります	環境・エネルギー・脱炭素
	葛城の恵みと美しい自然ともに生きる環境保全の推進に取り組みます	自然・景観
	いつまでも愛せる・「住み続けたい」を叶える快適な住環境を整備します	住環境・衛生
目標⑦ 誰もが尊重し合う、 心豊かな社会	郷土愛あふれる地域を創る歴史文化の継承に取り組みます	歴史文化
	日常に輝きと潤いをプラスする活動を推進します	生涯学習・スポーツ
	互いを尊重し認め合い、一人ひとりが輝ける豊かな社会の実現を図ります	男女・人権・多文化共生